

KEIO

あなたと あたらしい あしたへ — 京王グループ



安全・社会・環境報告書

2018 CSRLレポート

京王グループ理念

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

京王グループスローガン

あなたと あたらしい あしたへ ———— 京王グループ

京王グループは、京王電鉄を中心に、
運輸業、流通業、不動産業、レジャー・サービス業、その他業の
5つのセグメントから構成されています。

新宿からはじまる東京西部一帯を基盤に、
そのスケールメリットとグループの総合力を生かした多角的な事業を展開し、
グループ理念である「信頼のトップブランド」のさらなる追求と
沿線価値向上を目指していきます。

【表紙の解説】

～キッズパークたまどう～

2018年3月、多摩動物公園駅前にお子様向け全天候型遊戯施設
「京王あそびの森 HUGHUG〈ハグハグ〉」を開業しました。また、「京王
れーるランド」「多摩動物公園」を含む多摩動物公園エリアを「キッズパーク
たまどう」と名付け、親子で1日遊べて親しみを持っていただけるエリアと
して活性化を目指しています。



P10 特集
多摩動物公園エリア・調布エリアの地域活性化 参照





Contents

	トップメッセージ	2
	経営計画	5
	財務・CSRデータハイライト	8
	特集 多摩動物公園エリア・調布エリアの地域活性化	10
	コーポレート・ガバナンス	12
安全報告	安全報告：全社員一丸での安全優先の鉄道づくり	16
	メッセージ	18
	安全方針・安全管理体制	19
	安全管理方法	20
	2017年度 安全目標・安全重点施策	21
	2017年度 輸送安全実績	22
	輸送障害等の事例	23
	人材の育成	24
	安全文化の構築	26
	危機に備えた訓練	28
	施設・設備の取り組み	30
	日々の保守管理	38
	災害などへの備え	40
	その他の取り組み	42
2018年度 安全目標・安全重点施策	43	
お客様への情報提供	44	
お客様とともに	45	
グループ会社の安全対策	46	
社会性報告	社会性報告：住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり	48
	メッセージ	50
	お客様の利便性・快適性の向上	52
	お客様との対話	56
	多世代が生活しやすい沿線づくり	58
	地域社会への貢献	60
	地域社会・行政との連携	63
人材の活用と働きやすい職場づくり	64	
株主・投資家・取引先等への取り組み	69	
環境報告	環境報告：環境保全の推進	70
	メッセージ	72
	環境方針	73
	環境マネジメント	74
	低炭素社会を目指して	76
	循環型社会を目指して	80
	自然共生社会を目指して	82
環境関連データ	84	
CSRアクションプラン	86	
ガイドライン対照表／会社概要	88	
第三者意見	91	

編集方針

本報告書は、多角的な事業を展開する京王グループの活動を安全・社会・環境面から捉え、どのような考えを持って取り組んでいるかを、分かりやすくお伝えするものです。

当社の最大の使命である安全への取り組みをはじめとして、ステークホルダーに対する取り組みが伝わるよう留意しました。

なお、より詳しく、視覚的、タイムリーにお伝えするため、京王ホームページ、京王ニュース、環境・CSRポスター、インベスターズガイドなどでも適切な情報発信に努めています。あわせてご覧ください。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4により公表が義務付けられた「安全報告書」を兼ねているほか、皆様とのコミュニケーションを深めるための重要なツールと位置付けています。

【報告範囲・報告期間】

- 本報告書は、京王電鉄単体（鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門）の2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）の報告です。当該年度以外の事例や京王グループの事例も一部掲載しています。
- 環境負荷データおよび環境会計データは、京王電鉄単体の2015年度～2017年度のデータです。

【参考にした報告ガイドライン】

- 鉄軌道事業者による安全報告書の作成手引き（国土交通省）
- 環境報告ガイドライン（2012年版、環境省）
- ISO26000（国際標準化機構）
- GRIスタンダード（Global Reporting Initiative）

信頼のトップブランドの確立に向けて、 「安全」を最優先に「ESG」に取り組むことで、 持続可能な企業・社会の実現を目指します



京王電鉄株式会社 代表取締役社長

紅村 康

京王グループは京王グループ理念として、「つながりあうすべての人」に「誠実」であり、「環境にやさしく」、「信頼のトップブランド」となることを掲げています。

そして、この京王グループ理念を具現化するため、「京王グループ経営ビジョン」「京王グループ行動規範」に基づき、2020年度をあるべき姿の目標年度とする、2015年度を期初とする「中期3カ年経営計画」を掲げ、持続的な成長に向けた土台作りを進めてまいりました。

特に、当社をはじめとする京王グループのすべての運

輸事業者は、「輸送の安全性」の確保という、極めて重要な使命を担っており、この使命を果たすことによって、京王グループの信頼性は構築される、との考えのもと、事業を展開しています。

そうした考えをもとに、当社とつながりあう様々なステークホルダーに対するひとつのコミュニケーションツールとして、本CSRレポートは、安全、社会、環境といった整理をして、まとめています。

ゆるぎない「安全」の確立に向けて

鉄道の安全性向上への取り組みとして、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業について、事業主体である東京都とともに用地取得や設計業務などを推進しました。

また、高架橋柱やずい道(トンネル)、盛土区間を対象とした耐震補強工事のほか、ホーム転落防止固定柵の設置、踏切における保安装置の整備を進めました。昨年9月から営業運転を開始した新型5000系車両においては、全車両に防犯カメラを設置しているほか、ドアの挟まれを検知すると自動で扉が途中まで開扉し、その後閉扉する電気式側引戸システムを導入しています。

さらに、安全意識のさらなる向上と、安全行動の継続的改善を促す取り組みとして、一昨年リニューアルした「安全啓発室」の活用に加え、危機等に備えた各種訓練、お客様へのご案内の充実を図りました。

こうした施策もあり、鉄道等運転無事故事業者表彰を4年連続で受賞いたしました。

そのほか、バス、タクシー、トラックといった運輸業各社においても「運輸安全マネジメント」に基づき、輸送の安全確保を図っています。



年末年始社長巡視

多角的な環境保全活動の推進

さらなる省エネルギー化の推進として、鉄道事業における新型5000系車両の「車上蓄電池システム」の導入のほか、消費電力削減効果に優れた新型VVVFインバータ制御装置の継続導入、車両や駅構内、オフィス・店舗などの施設における照明のLED化を進めました。

また、再生可能エネルギーの活用策として、2015年に神奈川県相模原市で開始した太陽光発電事業について、岩手県宮古市においても、2019年秋から事業を開始いたします。

さらに、リノベーション事業においては、住宅のみならず、オフィスやシェア型ホテルなど多様なニーズに応える建物へと再生を図り、CO₂・廃材等の低減にも寄与しました。

今後も、電力使用量・CO₂排出量削減を中心に、様々な環境に配慮した施策を進めていきます。

多世代が暮らしやすい沿線・働きやすい職場づくり

京王グループでは、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」をキーワードに、多世代が暮らしやすいよう、沿線



現業職場視察

価値向上に資する施策を展開しています。

本年2月のダイヤ改正では、長距離利用のお客様の着席ニーズにお応えするため、当社としては初となる有料座席指定列車「京王ライナー」の運行を開始したほか、3月には、相模原線の加算運賃引下げを実施し、鉄道サービス向上を図りました。

また、調布の新たなランドマークとして、商業施設「トリエ京王調布」を昨年9月に開業したほか、多摩動物公園駅前における全天候型遊戯施設「京王あそびの森 HUGHUG」の本年3月のオープンを契機に、周辺を「キッズパークたまどう」と命名し、親子で楽しめるエリアとして賑わいを創出しています。

一方、企業活動において原動力となる従業員に対し、休業・短時間勤務制度の拡充やサテライトオフィスの整備といったワークライフバランスの向上や、人材公募制度などの長期にわたって活躍できる制度を導入するなど、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

着実な経営体制の整備

京王グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的としたコーポレート・ガバナンスについて

は、ガバナンス委員会などにおいて、コーポレートガバナンス・コードの主旨を参考とし、経営戦略やガバナンスのあり方を社外役員の知見も取り入れながら、体制整備を図っています。

また、リスクマネジメントの観点において、「長時間労働」への対応が求められる中、先に述べたワークライフバランスの向上に加え、AI・IoTといった技術革新、人生100年時代の到来などの将来を見据えた「働き方改革」の取り組みについて、全社横断による検討を進めています。

持続可能な企業であるために

京王グループは、本年度より、2020年度をゴールとする「中期3カ年経営計画」をスタートさせました。前半の中期3カ年経営計画でまいた種から成長の芽を育て、収穫する「成長の実現」を完遂し、その先の2030年代の事業環境でも存在する企業であるために、SDGs(持続可能な開発目標)の考え方を取り入れ、企業としての「社会的責任」を果たし、京王グループとつながりあうすべての皆さまに「安心」を提供することで、「信頼のトップブランド」の確立を目指します。今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



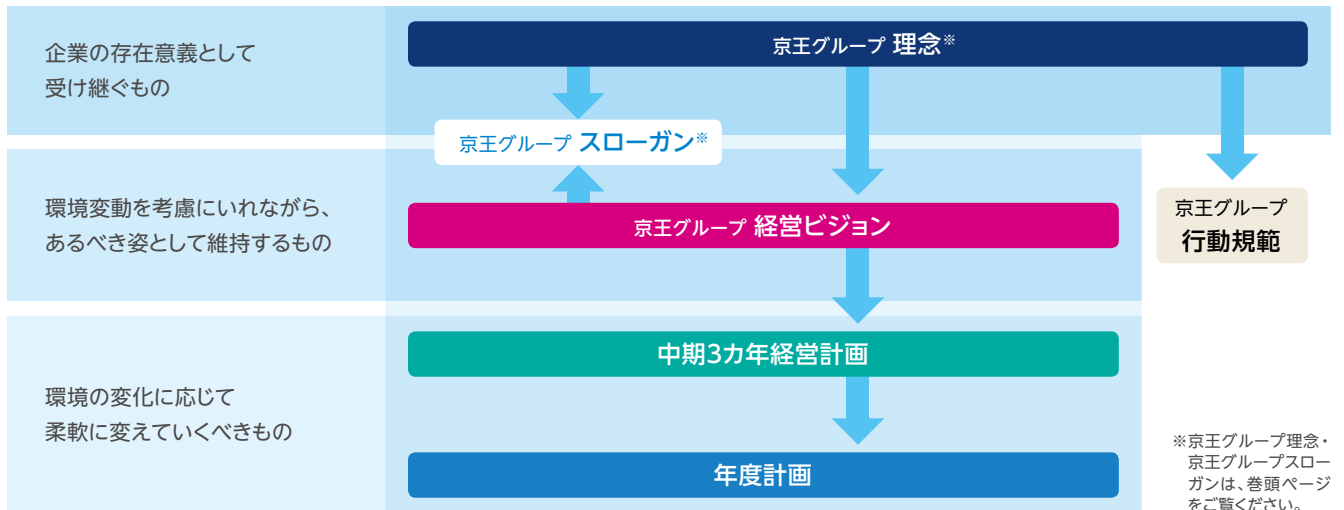
京王ライナー記者発表会



トリエ京王調布オープンセレモニー

企業価値の向上を目指して

京王グループでは、京王グループ理念を具現化し、経営計画につなげるための指針・将来像として「京王グループ経営ビジョン」を制定しています。そして、「京王グループ行動規範」を定め、事業活動を通じて社員一人ひとりが社会の持続的な発展に貢献していくことを目指しています。



京王グループ 経営ビジョン

京王グループは、変化する社会のニーズに対応したサービスを提供し、安心・便利で生き活きた沿線づくりに取り組むことで、信頼され「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」を追い求め続けます。また、発展し続けるグループへの変革を目指すため、成長する新たな市場へチャレンジします。

(2003年1月1日制定、2012年4月1日改定)

京王グループ 行動規範

「信頼のトップブランド」になるため、私たちは以下のとおり行動します。

企業活動を通じて社会に貢献します

- ・ お客様の幸せな生活に資する商品・サービスを提供します
- ・ 常に商品・サービスの品質、安全性の向上を追求します
- ・ 適時適切な情報開示に努めるとともに、お客様の声を事業活動に活かします

- ・ 反社会的な組織、人物に対しては断固とした姿勢で臨みます
- ・ 知的財産や情報の取扱いに細心の注意を払います
- ・ 社員個人の権利を尊重し、社員同士が信頼しあえる風通しの良い職場づくりをします

法令・社内規程を遵守し、健全・公正な企業活動を行って、企業価値の向上に努めます

- ・ 全てのステークホルダー（お客様・株主・取引先・社員などの関係者）に対して、相互に適正な利益を確保できるよう互いを尊重します
- ・ 法令を正しく理解し、法令に則った手続きを行うことで、公的機関等と適切な関係を維持します

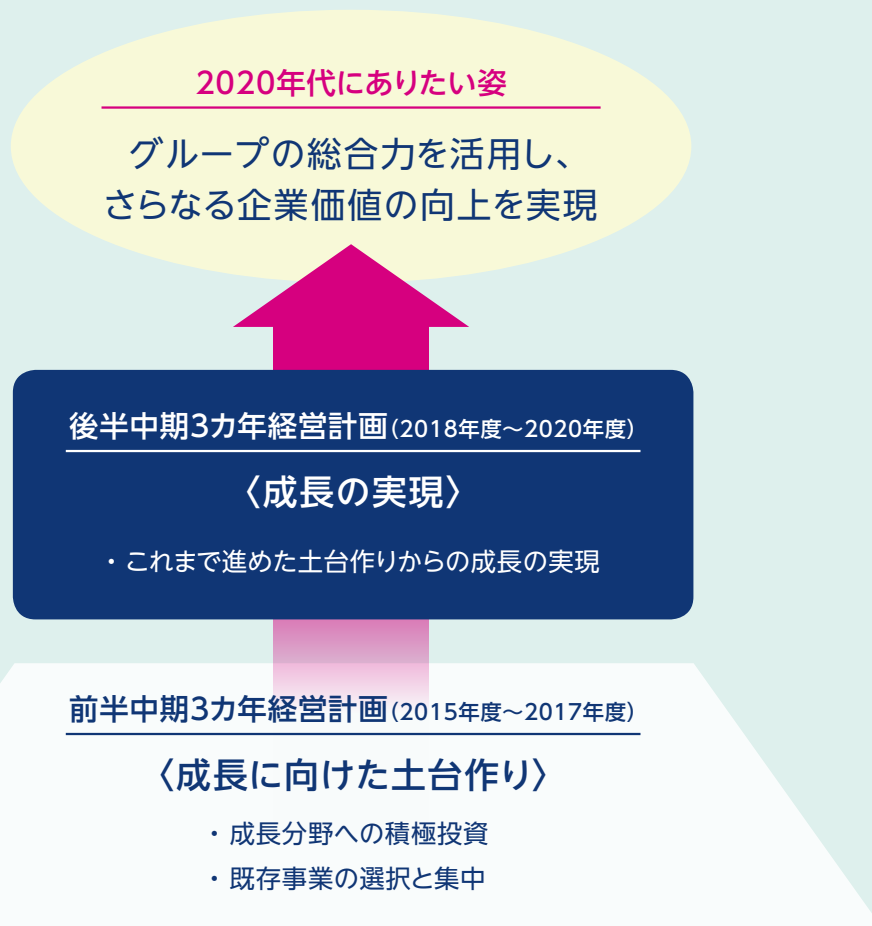
社会の一員としての責任を果たします

- ・ すべての人にやさしい環境づくりを進めます
- ・ リサイクル、省エネなど環境保護に積極的に取り組みます
- ・ 社会に貢献し、社会と共に発展するための活動に取り組みます
- ・ 社会の変化に対応し、よき企業市民であるためのチャレンジをしつづけます

(2004年4月1日制定)

中期3カ年経営計画

京王グループでは、2020年度を目標年度として、前半の2015年度～2017年度については戦略投資をはじめとした「成長に向けた土台作り」を進めてきました。後半の2018年度～2020年度については、これまでにまいた種から成長の芽を育て、収穫するため、戦略投資案件の収益化および事業の選択と集中を推進し、「成長の実現」を完遂していきます。



経営目標

後半中期3カ年経営計画最終2020年度には営業収益・営業利益・純利益において過去最高水準を見込みます。特に営業利益率の向上に主眼を置き、10%を目指します。

	2017年度(実績)	2018年度(中期計画)	2019年度(中期計画)	2020年度(中期計画)
営業収益	4,346億円	4,450億円	4,600億円	4,700億円
営業利益	385億円	395億円	430億円	480億円
営業利益率	8.9%	8.9%	9.4%	10.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	238億円	257億円	280億円	300億円
ROA	4.1%	4.3%	—	5.0%

	2015年度～2017年度 累計(実績)	2018年度～2020年度累計(中期計画)
総投資額	2,469億円	2,614億円

「中期3カ年経営計画(2018年度～2020年度)～成長の実現～」主な取り組み

既存事業の収益力強化

▶ 鉄道事業

収益力の強化(京王ライナー、ダイヤ改正等)、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進

施策

座席指定列車「京王ライナー」

- ・ 運行時間帯拡大等を検討

京王ライナー



▶ 流通業

既存商業施設の収益力強化、運営体制の効率化

施策 京王百貨店

- ・ 新宿店の売場改装を推進
- ・ インバウンド売上拡大策を実施

▶ 不動産業

販売業の推進、賃貸業の収益力向上

▶ 事業の選択と集中

営業利益率向上、事業再編

成長分野の収益基盤化

▶ ホテル事業

既存ホテルの収益力強化、京王プレミアホテルの開業

施策 京王プレミアホテル

- ・ 2018年秋に京都、2019年夏に札幌に開業

▶ シェア型複合ホテル事業・民泊事業

シェア型複合ホテル10店舗体制の実現、民泊事業の収益化

施策 シェア型複合ホテル

- ・ 地方の中核都市を中心に積極的な事業展開
- ・ 2020年度までに10店舗体制を築く

5号店「RAKURO(ラクロ)京都」(2018年5月開業)



▶ 高山エリアにおける事業展開

高山グリーンホテルとの連携、中央高速バスとの連携強化

▶ 海外事業(ミャンマー)

都市型ホテル、サービスアパートメントの開業

2018年度計画

① 鉄道事業の安全性・収益力の向上

- 安全性の向上
- 収益力の向上

② 沿線の活性化

- 拠点開発
- 沿線における事業機会の獲得

③ 事業の選択と集中

- 営業利益率向上
- 事業再編

④ 成長に向けた取り組み

- ホテル事業強化
- 民泊事業、納骨堂運営サポートサービスの推進

⑤ 着実な経営体制の整備

- 戦略投資案件のモニタリング
- コーポレートガバナンス・コードへの対応
- ESGやSDGsへの対応
- グループ全体のリスク管理体制の充実
- 働き方改革の推進
- 2030年頃を見据えた経営課題への取り組み

⑥ 企業の社会的責任に対する取り組み

- CO₂排出量削減など環境負荷低減
 - ・ 新型VVVFインバータ制御装置の導入
 - ・ 空調機器の更新や照明のLED化などの省エネルギー化
- 環境プログラムの継続的实施
- 多世代が共に生き、交流する沿線づくり
- 働きやすい職場づくりへの取り組み
 - ・ 多様な人材雇用や女性の活躍推進
 - ・ ワークライフバランスの推進

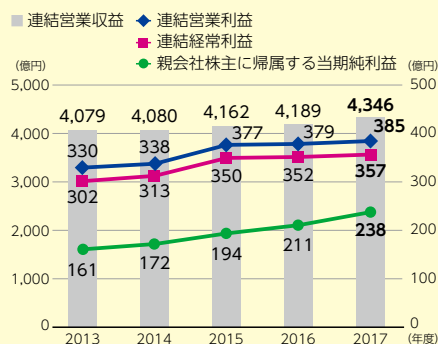
財務・CSRデータハイライト

財務(連結)

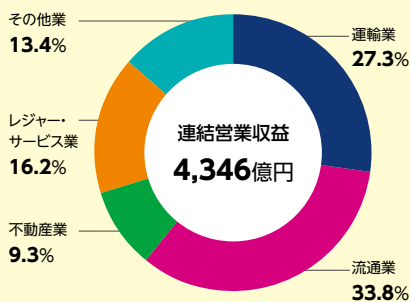
(会計年度)	2013	2014	2015	2016	2017
連結営業収益 (億円)	4,079	4,080	4,162	4,189	4,346
連結営業利益 (億円)	330	338	377	379	385
連結経常利益 (億円)	302	313	350	352	357
親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)	161	172	194	211	238
総資産 (億円)	7,878	7,824	8,201	8,346	8,891
純資産 (億円)	2,926	3,077	3,118	3,320	3,522
自己資本比率 (%)	37.1	39.3	38.0	39.7	39.6
営業活動CF (億円)	587	518	542	494	627
投資活動CF (億円)	△379	△323	△553	△659	△712
財務活動CF (億円)	△331	△262	255	△166	173
有利子負債 (億円)	3,289	3,081	3,393	3,285	3,521
連結EBITDA (億円)	674	691	737	730	748

※連結EBITDA=連結営業利益+減価償却費+のれん償却額

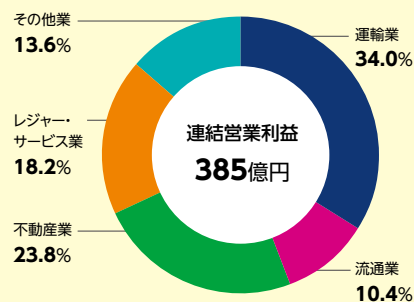
連結業績の推移



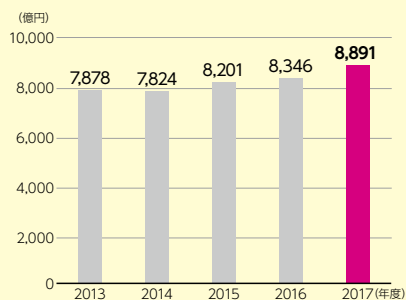
連結営業収益の構成比率



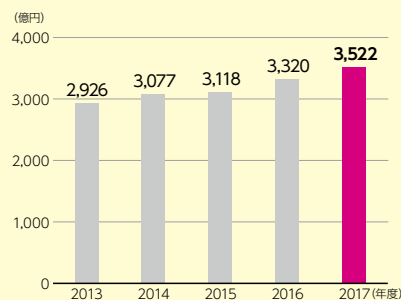
連結営業利益の構成比率



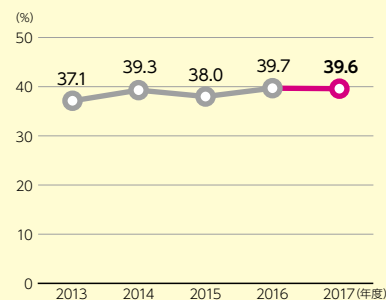
総資産 8,891 億円



純資産 3,522 億円



自己資本比率 39.6%



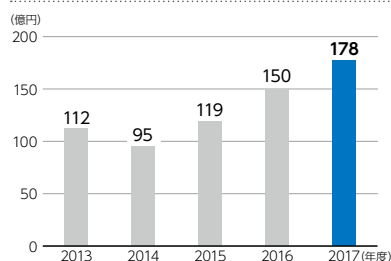
CSRデータ(単体)

当社では、成長を続けながら社会課題の解決に貢献していくことを目指し、安全・環境・社会について、中期的な目標のもと新たな価値を創造する取り組みを推進しています。

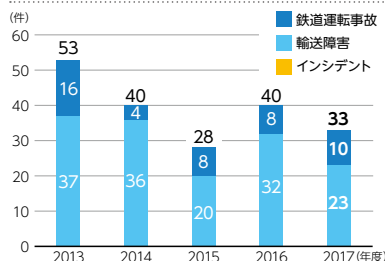
今後も、ステークホルダーのニーズや期待に応え、持続可能な社会の実現に貢献し、「信頼のトップブランド」になることを目指します。

安全

安全に対する投資額 **178**億円



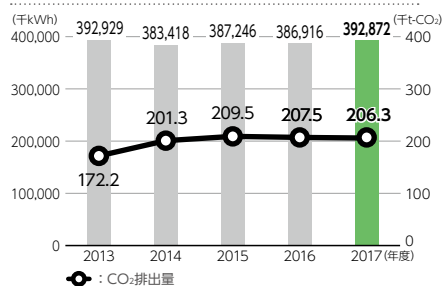
鉄道事故・輸送障害発生件数 **33**件



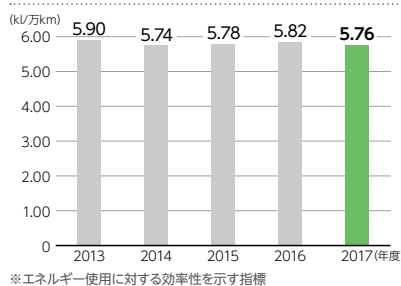
京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業、ホームドアの設置等の安全投資や、安全文化の構築、人材の育成等を通じて、さらなる鉄道の安全性の向上を図ります。

環境

電力使用量 **392.8**百万kWh
CO₂排出量 **206.3**千t-CO₂



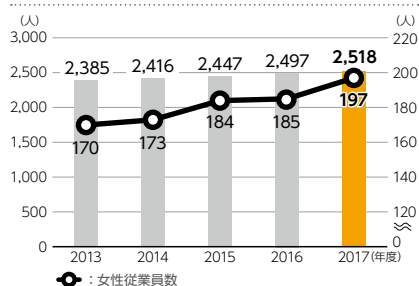
鉄道のエネルギー使用量原単位* **5.76**kl/万km



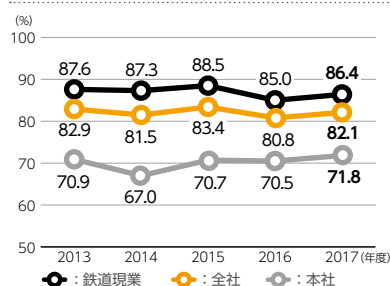
快適性の向上を目指しダイヤ改正などのサービス向上施策を推進していますが、それに伴い増加するエネルギー消費量などの環境負荷を可能な限り抑えるため、省エネルギー化等の対策を積極的に行っています。

人材

従業員数 **2,518**人
女性従業員数 **197**人



年休取得率 **82.1**%



社員一人ひとりが最大限能力を發揮できるよう、ワークライフバランスを意識した職場環境の整備など、ダイバーシティ・マネジメントを積極的に推進し、より働きやすい職場づくりを目指しています。

多摩動物公園エリア・調布エリアの地域活性化

多摩動物公園エリア

子どもも、大人も1日中楽しめる街へ!!

2018年3月に「京王あそびの森 HUGHUG〈ハグハグ〉」を開業し、「京王れーるランド」
「多摩動物公園」を含む多摩動物公園エリアを「キッズパークたまどう」と名付け、親子で1日
遊べて親しみを持っていただけるエリアとして活性化を目指しています。



HUGHUGキャラクター:ハグー

調布エリア

もっと住みやすい街へ

調布駅周辺は、2012年「京王線・相模原線(調布駅付近)連続立体交差事業」により鉄道が地下化され、街の南北が地上で結ばれたことにより、人やモノ・時間の流れが変わり、街の様子も変化してきました。その中で、2017年9月に、商業施設「トリエ京王調布」を新たに開業し、調布の新たなランドマークとして街の回遊性を高めるとともに、沿線拠点である調布への来街機会を増やし、さらなる街のにぎわいを創出することで、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」を目指します。





HUGHUGキャラクター：
ハグーと仲間たち

多摩動物公園
HUGHUG

京王あそびの森

HUGHUG (ハグハグ)

「木育」「体育」「知育」をテーマにした7つのコンテンツを楽しめる国内有数の全天候型遊戯施設。親子で食事ができるカフェのほか、公式キャラクター「ハグーと仲間たち」のオリジナルグッズなどを販売し、コンビニエンスストアとしても利用できるギフトショップも併設しています。



最大級のネット遊具
「ハグハグのき」

高さ約12m・直径約15m、大きな木に見立てた大型ネット遊具。ネット内に4つの階層があり、高さ約10mに位置する「雲のチューブ」やバランスボールなど、ネットのなかでさまざまな遊具を使って遊べます。



乳児向け木育スペース
「はいはいパーク」

小さなお子様及安全に、全身を使って遊べる乳児専用エリア。多摩産材ヒノキのフローリングを採用し、木製のボールプールやジャングルジムなど、木の温もりに触れながら楽しめる空間です。



「ハグハグトレイン」

館内2階を周回する全周約200mの屋内ミニSL。鉄橋やトンネル、光と音の演出など、お子様の好奇心をくすぐる仕掛けが満載です。

INTERVIEW



開発事業本部 開発推進部 沿線事業担当 課長

大竹 将人

少子高齢化が進む中、京王電鉄では多世代への生活支援サービスを多面的に展開し、沿線価値向上を図ってきました。多摩動物公園エリアにおいても、子育て世代の流入を促しさまざまな世

代が交流する街づくりを進めるには何が必要かを検討し、子どもたちが思い切り遊べる全天候型遊戯施設の開発を計画しました。多摩動物公園エリアを新たなレジャーエリア「キッズパークたまどう」として、天候を気にすることなく子どもも大人も1日中楽しめる街としてブランディングを進めていきたいと考えています。

トリエ京王調布



「調布らしい“ちょっとステキ”な生活」をコンセプトにA・B・Cの3館で構成されています。

「地上を鉄道が走っていた記憶を残したい」という地域の方々の声に応え、壁面緑化のフレームや床面に本物の鉄道レールを埋め込み、街の歴史や「京王らしさ」を感じられるデザインとし、“人々や暮らしを結ぶ”をテーマにした環境施設を整えています。



A館



B館



C館



C館 てつみち

➤ コーポレート・ガバナンスと内部統制

▶ 基本的な考え方

当社グループでは、「京王グループ理念」に掲げる「信頼のトップブランド」の確立を目指し、「京王グループ行動規範」に基づき、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり」を進めております。特に鉄道事業においては、皆様から信頼され、愛される鉄道になるため、「安全に関する基本方針」および「安全に係る社員の行動規範」を定め、全社員が一丸となって安全文化の構築に取り組んでいます。

鉄道事業者として、安全と事業の継続性を確保しながら、「京王グループ理念」に基づき、透明性・公正性を担保しつつ、迅速・果敢な意思決定を行うことにより、株主の皆様をはじめつながりあうすべての人からの信頼を確保し、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の

向上を図るため、当社では以下の基本方針に基づき、コーポレート・ガバナンスの充実・強化を推進してまいります。

▶ コーポレート・ガバナンス体制

監査役会設置会社として、監査役会が取締役の経営や業務の執行を監査・監督する体制を採っています。さらに、経営に対する監督機能の強化を図るため、社外取締役を選任しています。

一方、当社に課せられた重要な公共的使命を果たし続けていくために、会社業務に精通した取締役の選任が求められており、社外取締役以外の取締役が取締役会の多数を占めています。また、取締役会の諮問機関としてガバナンス委員会および指名・報酬委員会を設置し、グループガバナンスの向上や経営の透明性確保に努めています。

コーポレート・ガバナンス基本方針

1. 株主の権利・平等性の確保

- ・ 当社は、様々な株主の権利とその平等性が実質的に確保されるよう、必要な情報を適時適切に開示するとともに、株主がその権利を適切に行使することができる環境整備を行う。

2. 株主以外のステークホルダーとの適切な協働

- ・ 当社は、会社の持続的な成長と企業価値の創出は、つながりあうすべての人により支えられていることを十分に認識し、ステークホルダーと誠実に向きあい、適切な協働に努めるとともに、健全な事業活動倫理を尊重する企業文化・風土の醸成に努める。

3. 適切な情報開示と透明性の確保

- ・ 当社は、当社の定める「ディスクロージャー・ポリシー」に則り、法令に基づく情報開示を適時適切に行うのみならず、法令に基づく開示以外の情報提供やその有用性の向上に主体的に取り組む。

4. 取締役会等の責務

- ・ 当社の取締役会は、当社グループの経営戦略について方向付けを行うとともに、定められた経営陣幹部に対する委任の範囲において、実効性の高い経営監督を行う。
- ・ 当社の取締役は、株主に対する受託者責任・説明責任を常に意識し、当社の定める「経営判断原則」に則った適切な過程を踏んだ意思決定を行う。
- ・ 取締役会の諮問機関としてガバナンス委員会および指名・報酬委員会を設置し、グループ・ガバナンスの向上や経営の透明性確保を図る。

5. 株主との対話

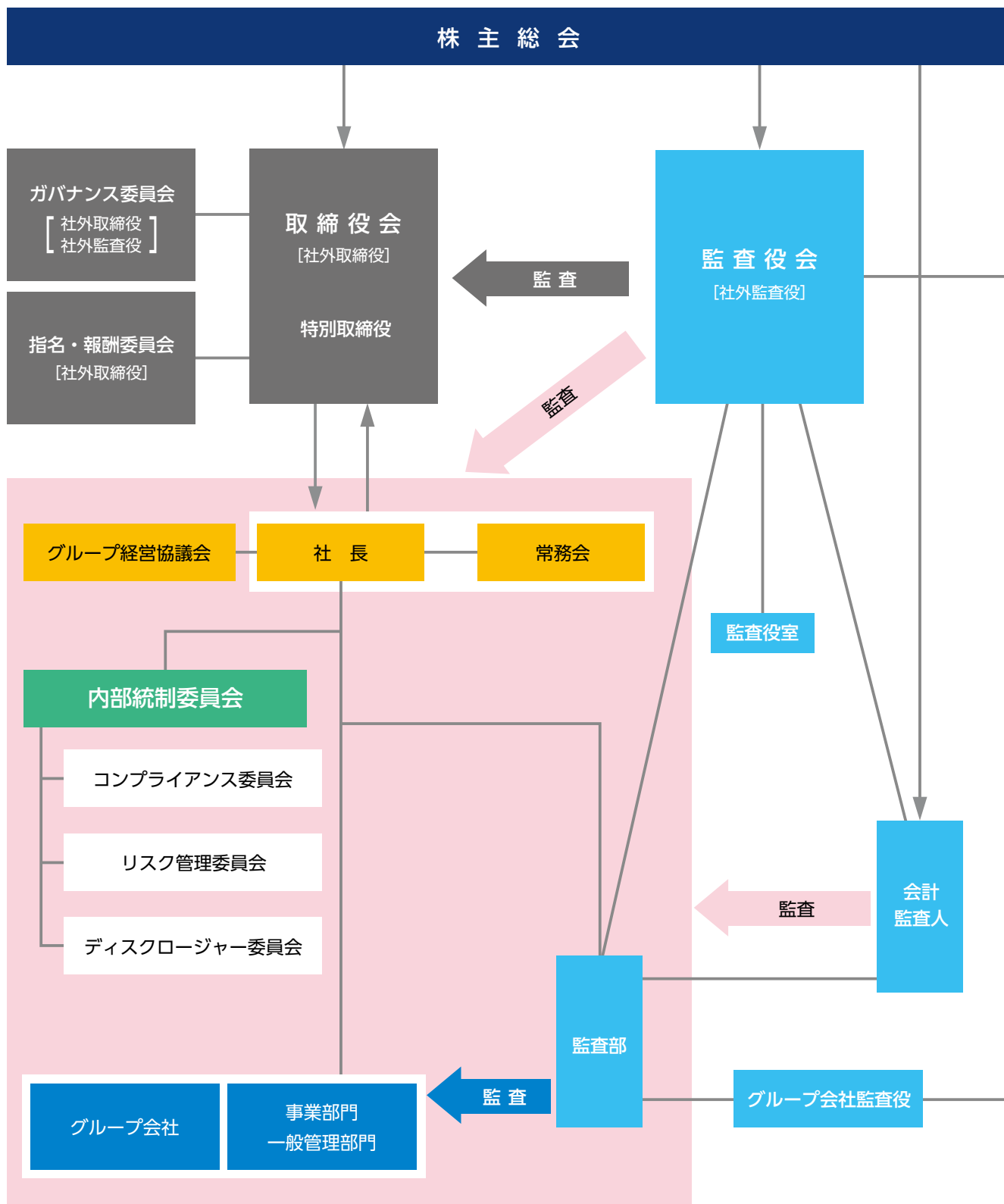
- ・ 当社は、平素から株主との間で建設的な対話を行い、株主の声に耳を傾け、その関心・懸念に正当な関心を払うとともに、経営陣幹部は自らの経営方針を株主に分かりやすい形で明確に説明し、株主を含むつながりあうすべての人の立場に関するバランスのとれた理解を得る努力を行う。

6. 本基本方針の制定・改廃

- ・ 取締役会の決議をもって行う。

(2015年11月27日制定)

● コーポレート・ガバナンス体制 (2018年6月28日現在)



▶取締役会

2017年度 開催状況

開催状況	回数
取締役会	11回
特別取締役会による決議	0回
常務会	31回
グループ経営協議会	4回

取締役会は、社外取締役2名および主要なグループ会社の社長5名を含む18名で構成しており、法令で定められた事項はもとより経営上の重要な事項等についての決議や業務執行の監督を行うほか、時機を捉えた迅速な意思決定が必要な事案については、会社法に基づく特別取締役で構成される特別取締役会にて決議を行っています。

また、常勤取締役で構成する常務会では、取締役会で決定された方針に基づき、経営上の重要事項についての審議を行っています。

さらに、常勤取締役やグループ会社の社長等をメンバーとするグループ経営協議会において、グループ全体の経営課題について協議し、グループ経営の強化・推進を図っています。

▶監査役会

2017年度 開催状況

開催状況	回数
監査役会	14回
グループ監査役会	10回

監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成し、監査役は、取締役の職務執行の監査を行うほか、取締役会その他重要な会議に出席し、必要な意見陳述を行っています。また、会計監査人、内部監査部門および内部統制部門の連携体制を構築しています。さらに、グループ監査役会を定期的に開催し、グループ全体の監査の充実・強化に取り組んでいます。

▶ガバナンス委員会、指名・報酬委員会

2017年度 開催状況

開催状況	回数
ガバナンス委員会	2回
指名・報酬委員会	2回

取締役会の諮問機関としてガバナンス委員会および指名・報酬委員会を設置し、グループ・ガバナンスの向上や経営の透明性確保に努めています。

ガバナンス委員会は、社外取締役を含むメンバーで構成され、社外取締役の視点を交えて当社グループの企業戦略等やガバナンス体制について審議を行うとともに、代表取締役、社外取締役および社外監査役の連携を強化し、グループの持続的な成長と中長期的な企業価値向上をはかっています。

指名・報酬委員会は、社外取締役を含むメンバーで構成され、役員的人事・報酬について審議し、取締役会に答申を行っています。

▶内部監査

内部監査は法令および社内規程等の諸基準への準拠性、管理の妥当性・有効性の検証を目的とした監査を実施しており、経営の合理化、業務の改善、効率性の向上および事業の健全な発展のための提言を行っています。

内部監査の独立性・客観性を保持するため監査部は社長直轄の組織としており、2018年3月現在、34名が在籍しています。

グループ会社の常勤の監査役は、原則として監査部に所属しており、相互に連携をはかることによりグループ全体の監査体制の充実・強化に取り組んでいます。

▶内部統制システムの強化

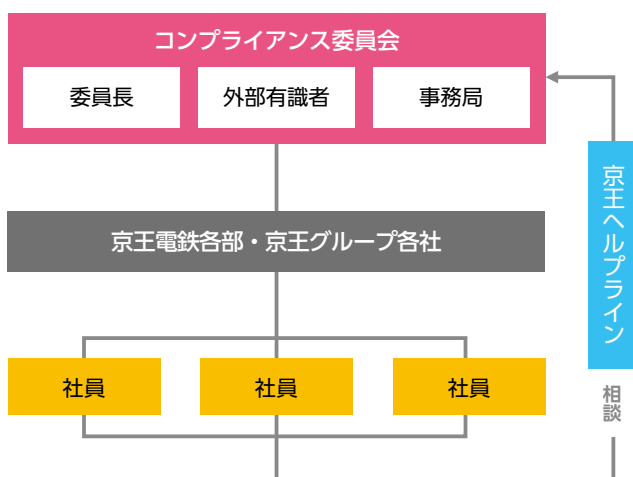
「京王グループ内部統制システムに関する基本方針」のもと、内部統制の整備状況を確認・検証し、必要に応じた見直しを行っています。また、内部統制に関する体制を統括するため、内部統制委員会を設置しているほか、財務報告に関わる内部統制についても専任部署を設けてグループ全社で取り組んでいます。

コンプライアンス

▶コンプライアンス体制

京王グループでは、「コンプライアンス委員会」と「京王ヘルプライン」からなる「コンプライアンス体制」を構築しています。「コンプライアンス委員会」は、コンプライアンス委員長と、その諮問機関である外部の有識者(弁護士・会計士など)、事務局により構成されています。

●コンプライアンス体制



▶ヘルプラインの運営

京王グループでは、コンプライアンス上の問題の早期発見と解決を図るため、「京王ヘルプライン」(社内窓口: 当社総務法務部、社外窓口: 弁護士事務所)を設けています。

情報セキュリティ

▶情報セキュリティ体制

リスク管理上の重要項目として位置づけ、個人情報を含む機密情報の取り扱いや、情報システムのBCP、セキュリティを規定した情報管理基本方針に基づき、リスク管理分科会の一つとして常設で情報セキュリティ分科会を設置しています。また、セキュリティインシデントに対応するCSIRTを設置し内外の情報を集めるとともに、発生したインシデントの対応にあたっています。

リスクマネジメント

▶リスクマネジメント体制

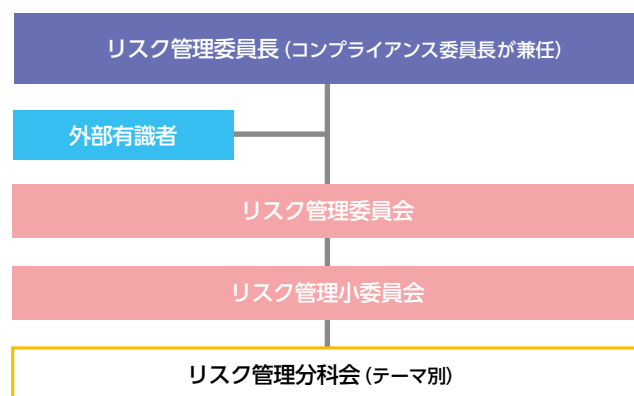
京王グループでは、「お客様の安全」をリスク対策における最重要課題と認識しており、各種リスクの低減および発生防止を目的とした体制を整備しています。

平常時は、リスク管理委員長のもと「リスク管理委員会」を定期的開催し、リスク対策重点項目の設定や、対策の実施状況の確認、リスクマネジメント活動報告などを行っています。このほか、「リスク管理小委員会」、「リスク管理分科会」などの組織を持ち、リスク対策を実効的に行えるようにしています。

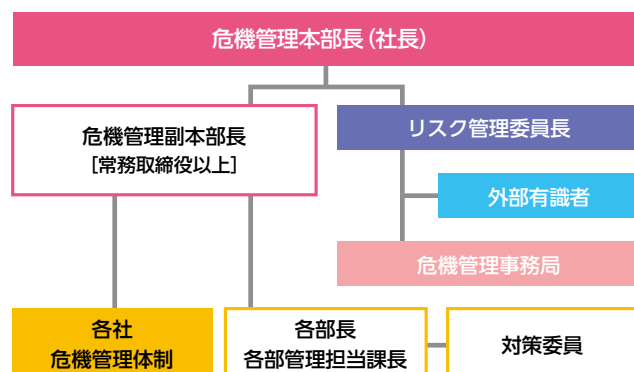
危機発生時は、事態の収束を図るため、「危機管理本部」を設置し、適切に対応いたします。

リスク管理委員長は、コンプライアンス委員長が兼任し、リスクマネジメント活動について、コンプライアンスの視点からもチェックする仕組みをとっています。

●リスクマネジメント体制(平常時)



●リスクマネジメント体制(危機発生時)



全社員一丸での 安全最優先の鉄道づくり

● 安全管理体制・方法

📄 P.19

- 安全方針・安全管理体制
- 安全管理方法
- 安全目標・安全重点施策

● 人材の育成 📄 P.24

- 鉄道従事員への教育方針
- 乗務員の養成と技能の維持・向上
- 駅係員・技術員の教育

● 安全文化の構築 📄 P.26

- 安全講演会などの開催
- 安全啓発室での教育

安全最優先

● 危機に備えた訓練

📄 P.28

- 総合事故復旧訓練
- そのほかの訓練

● その他の取り組み
📄 P.42

- 鉄道テロ対策
- お客様への情報提供
- お客様への安全啓発活動

● 災害などへの備え
📄 P.40

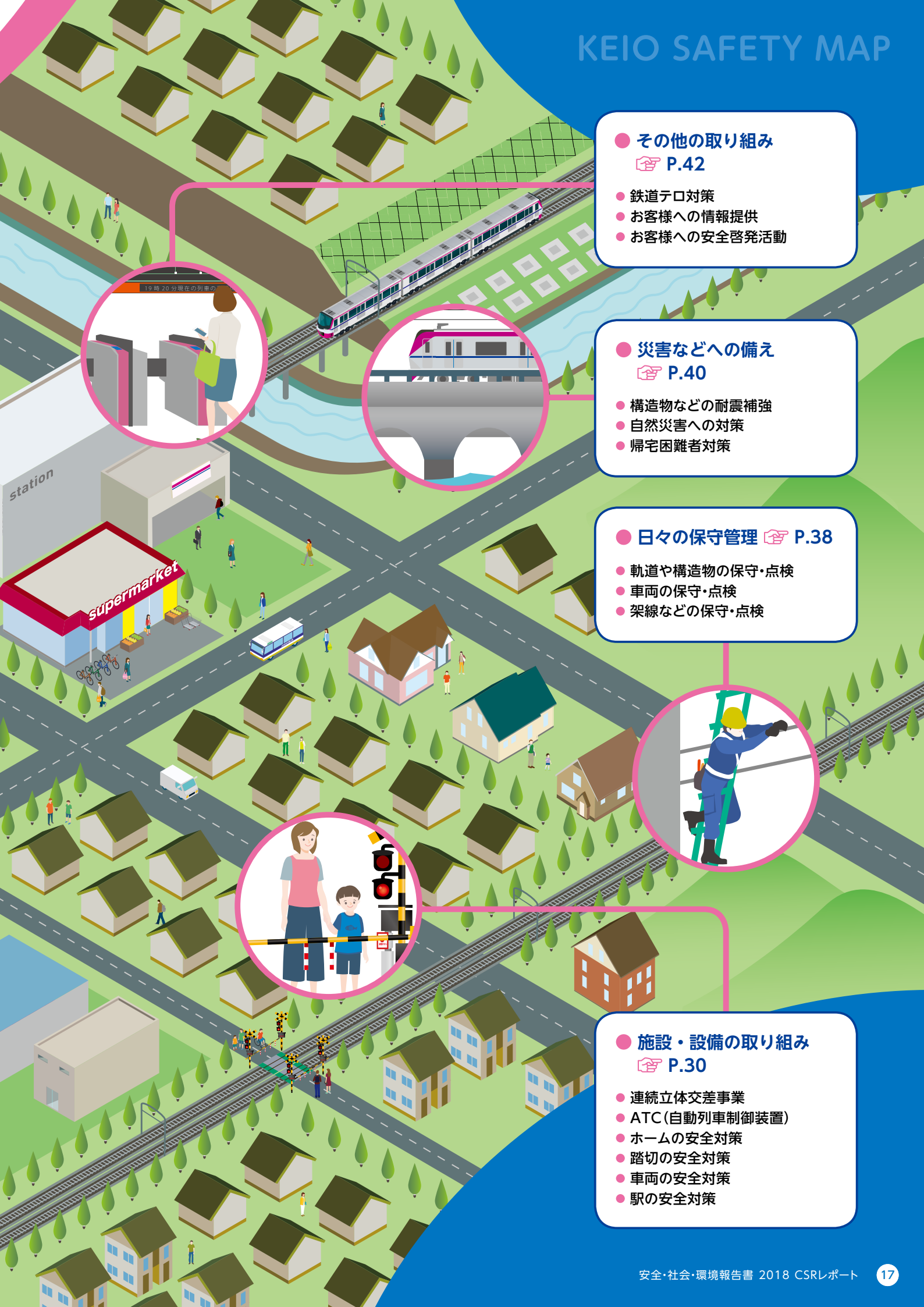
- 構造物などの耐震補強
- 自然災害への対策
- 帰宅困難者対策

● 日々の保守管理 📄 P.38

- 軌道や構造物の保守・点検
- 車両の保守・点検
- 架線などの保守・点検

● 施設・設備の取り組み
📄 P.30

- 連続立体交差事業
- ATC(自動列車制御装置)
- ホームの安全対策
- 踏切の安全対策
- 車両の安全対策
- 駅の安全対策



メッセージ



常務取締役
鉄道事業本部長(安全統括管理者)

仲岡 一紀

さらなる安全性の向上を目指して 日々努力してまいります

日頃から、京王線・井の頭線をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

当社では、皆様から信頼され、愛される鉄道になるため、「『安全』は最大の使命であり、最高のサービスである」ことを常に意識し、「全社員が一丸となり継続的改善に取り組み、安全最優先の鉄道を創る」ことを最大の命題として日々の業務に取り組んでおります。

ハード面では、笹塚駅～仙川駅間の連続立体交差事業について、引き続き事業主体である東京都とともに推進してまいります。また踏切の安全対策を拡充するほか、ホームドアについては新線新宿駅および渋谷駅への設置を完了させるとともに、飛田給駅2番線での使用を開始いたします。

災害対策としては、鉄道施設のさらなる耐震化を目指し、高架橋柱や盛土などの補強工事を推進するほか、風水害や雷害、地震発生時における減災対策についても、着実に進めてまいります。

ソフト面では、事故の防止に向け「安全に関する基本方針」の徹底を図るとともに、「有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減」を安全目標と定め、現場と本社が一体となった取り組みを通じて、安全意識のさらなる高揚を目指してまいります。

また、日頃の防犯対策に加え、大規模イベント開催に向け、鉄道施設や各種システムを標的とするテロ行為への対策準備を進めてまいります。

これからも、京王線・井の頭線が皆様の生活になくてはならないものであり続けるため、安全性の向上に日々努力してまいります。



鉄道事業本部長による現業社員との意見交換



鉄道事業本部長による列車添乗

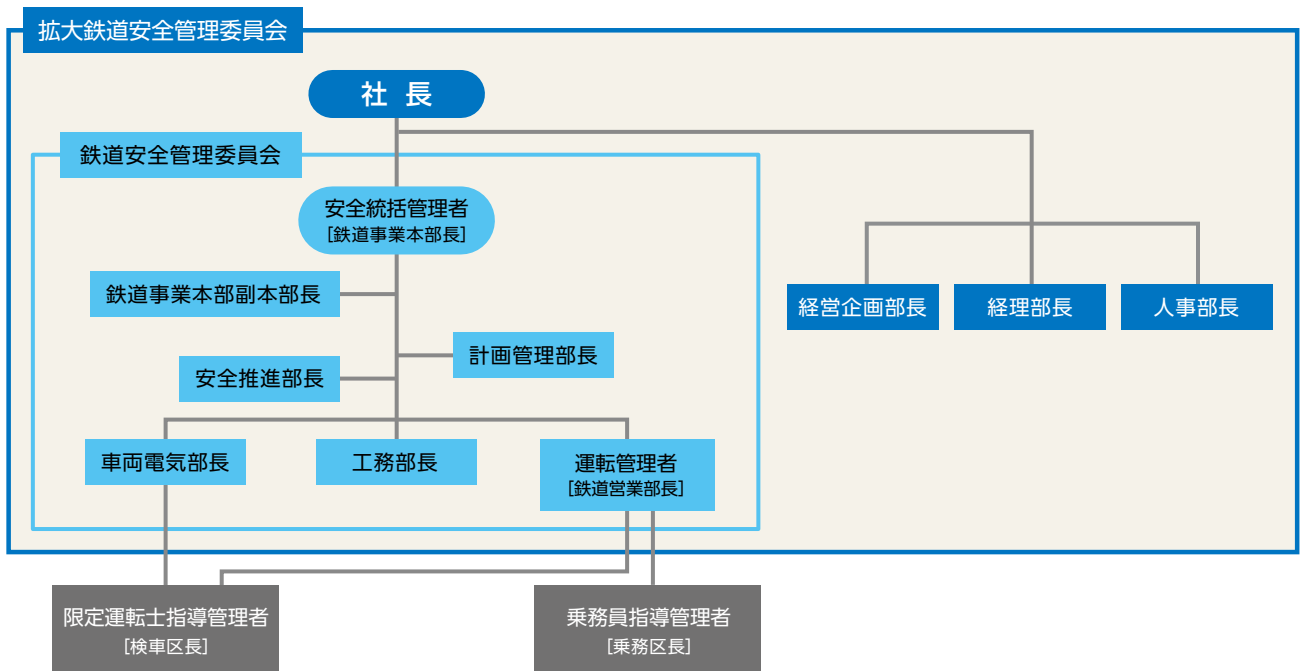
安全方針・安全管理体制

安全方針

安全に関する基本方針	安全に係る社員の行動規範
<ul style="list-style-type: none"> ■ 「安全」は最大の使命であり、最高のサービスである。 ■ 全社員が一丸となり継続的改善に取り組み、安全最優先の鉄道を創る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全てにおいてお客さまの視点に立ち、安全確保を第一に行動する。 ■ 社員一人ひとりがルールを遵守し、判断に迷ったときは、自ら考え、最も安全と認められる行動をとる。 ■ 情報伝達は迅速かつ正確に行い、共有化を図る。 ■ 組織・職位を越えたコミュニケーションを構築し、全社員が連携して問題解決にあたる。

安全管理体制

当社では、安全管理体制を下の図のとおり構築しています。



責任者名と役割

責任者名	役割
社長	輸送の安全の確保に関する業務全般を総理する。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
限定運転士指導管理者	車両電気部長および運転管理者の指揮の下、限定運転士の資質の保持に関する事項を管理する。

安全管理方法

▶ 鉄道安全管理委員会

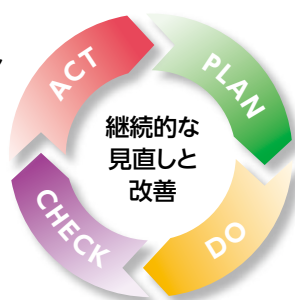
安全統括管理者を中心に、運転管理者を含む鉄道事業本部の各部長がメンバーとなり、原則として毎月1回定期的に、また必要により臨時に開催し、事故などの原因の究明・対策の検討・検証などを行っています。また、他社で発生した重大な事故・トラブルについて、当社の対応状況を確認しています。

さらに、拡大鉄道安全管理委員会を社長出席の下、年に2回開催し、安全重点施策をはじめとした安全管理体制全般の実施状況の評価（マネジメントレビュー）などを行っています。

▶ 運輸安全マネジメント PDCAサイクル

鉄道安全管理委員会を中心として、計画(Plan)→実施(Do)→評価(Check)→改善(Act)サイクルに沿って、継続して安全性の向上を図っています。

Act(改善)：
継続的な見直し



Plan(計画)：
取り組み計画の策定

Check(評価)：
点検

Do(実施)：
施策の実施

▶ 事故の芽・トラブル情報・ ヒヤリハットの報告

鉄道係員による取り扱い上の支障、機器の故障、自然災害などに起因する異常やそれらに対する措置の報告、また、事故が発生する恐れがあった事態、事故などや労働災害に関係するヒヤリハットを幅広く収集・分析し、対策を講じることで、安全性の向上に役立てています。

▶ 内部監査の実施

運輸安全マネジメントに基づく内部監査を毎年行い、安全管理体制が適正に機能していることを確認しています。社長、安全統括管理者ならびに安全管理体制の責任者を務める部長、課長および現業長に対してインタビューや書類検査などを行い、監査で見出された事項については、鉄道安全管理委員会に報告され、共有しています。

▶ 経営トップによる職場巡視

年4回の安全推進運動や、毎月の「安全再確認の日」を中心に、社長をはじめとする役員が現業職場を巡視して安全管理の状況を確認するとともに、現業係員との意見交換会を実施してコミュニケーションを図っています。



社長と現業係員との意見交換



社長による夜間作業(道床つき固め)の視察

2017年度 安全目標・安全重点施策

2020年度に向けた中期3カ年経営計画(2015～2017年度)

- 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業
- 「安全に関する基本方針」の徹底
- 鉄道施設のさらなる耐震化
- 現場の声や他社の先進的な取り組みを幅広く収集
- 異常気象への対応

(鉄道の安全性向上への取り組みを抜粋)

2017年度 安全目標

有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減

2017年度 安全重点施策

ソフト面	ハード面
<p>1. 事故・トラブル対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ホーム・踏切でのトラブル対策の推進 (2) 事故の芽、ヒヤリハットの原因分析と安全対策の実施 <p>2. 災害・危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) お客様への情報提供をよりスムーズに行うための行動計画の策定 (2) 鉄道施設を標的とするテロ行為、サイバーセキュリティ対策の強化 <p>3. 安全意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 運輸安全マネジメント制度変更の対応 (2) 安全啓発室を活用した安全教育の充実 <p>4. 人材育成・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 管理職層への研修の充実 	<p>5. 中長期施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 京王線(笹塚駅～仙川駅間)の連続立体交差事業の推進 (2) 下北沢駅改良工事の推進 <p>6. 減災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 高架橋や盛土区間、トンネルなどの耐震補強の実施 (2) 大雨対策、雷害対策の推進 (3) 火山の噴火による降灰対策に向けた準備 <p>7. 安全対策・老朽化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 新線新宿駅、渋谷駅へのホームドア設置の推進 (2) 防風壁の設置による安全対策の強化 (3) 高架橋老朽化対策の実施 (4) 新造車両への安全設備の搭載 (5) 京王線8000系車両、井の頭線1000系車両のリニューアル (6) 駅構内などの監視カメラ更新や見直しによる対応強化

2017年度 輸送安全実績

▶ 鉄道運転事故などの発生件数の推移(2013～2017年度)

2017年度は、鉄道運転事故が10件(対前年度2件増)、輸送障害が23件(対前年度9件減)発生しました。インシデントは前年度に引き続き発生しておりません。

■ 鉄道運転事故とは

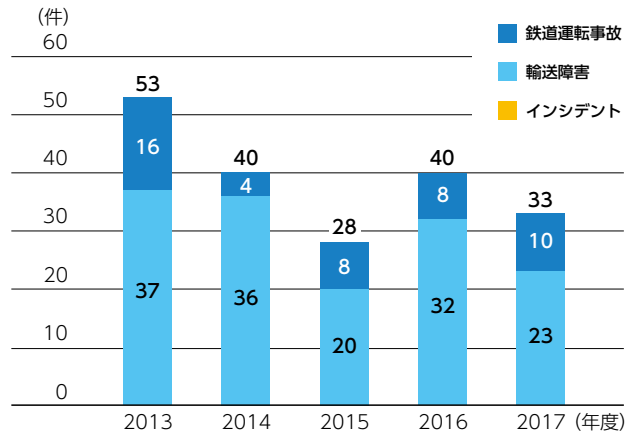
「列車衝突事故」「列車脱線事故」「列車火災事故」「踏切障害事故」「鉄道人身障害事故」「鉄道物損事故」をいいます。

■ 輸送障害とは

鉄道による輸送に障害を生じた事態で、鉄道運転事故以外の運休、また列車に30分以上の遅延が生じたものをいいます。

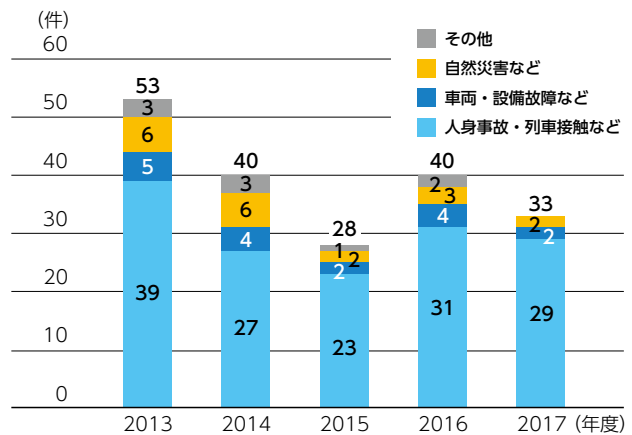
■ インシデントとは

事故には至らなかったが、鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態をいいます。



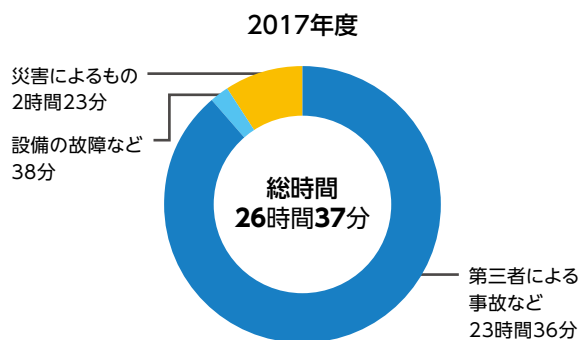
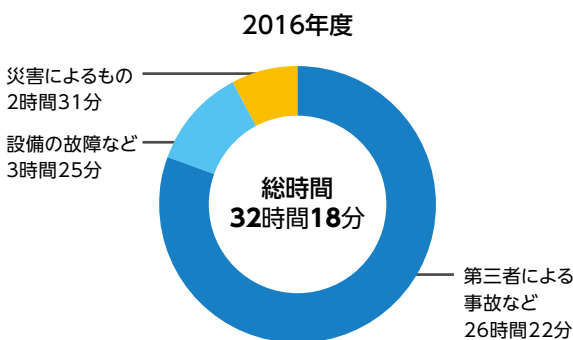
▶ 鉄道運転事故などの発生原因(2013～2017年度)

2017年度は、駅や踏切道での人身事故や列車との接触などが29件発生しました。また、車両故障などの設備トラブル事象が2件発生しました。その他、10月の台風、1月の降雪を原因とする輸送障害が発生しました。



▶ 鉄道運転事故・輸送障害に伴う運転見合わせ時間

2017年度の運転見合わせ総時間は、対前年度で5時間41分の短縮となりました。



輸送障害等の事例

2017年度に発生した事故・トラブルについて

事例1 検査期限を超えた車両の運行

【発生日】

2017年8月10日(木)

【発生事象】

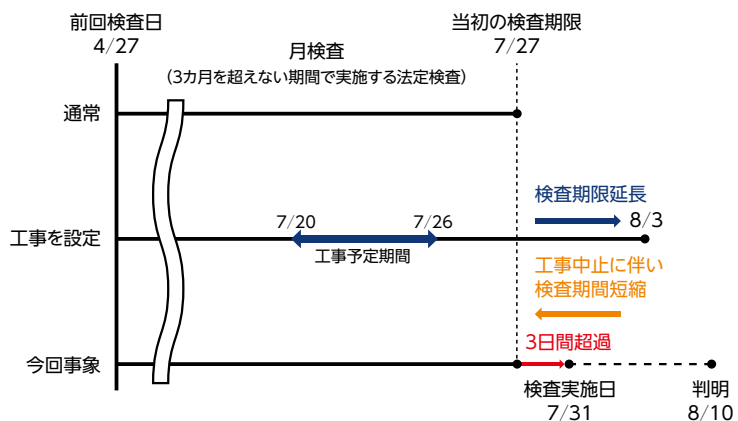
電動空気圧縮機の増設工事決定により、8711編成は、検査期限が7月27日から8月3日に工事日数分延長された。その後工事が中止になったため、検査期限は当初の7月27日に戻り、翌日以降は運行できないところ、7月28日から30日まで引き続き運行させてしまった。後日の確認作業により、3日間の検査期限超過が判明した。

【発生原因】

予定されていた工事の中止に伴い、本来見直すべき月検査の検査日変更を失念したため。

【対策】

- 作業手順マニュアル、運用方法を見直し
- 検査工程を管理するシステムを改修



事例2 架線支障

【発生日時】

2017年8月23日(水) 17時28分頃

【発生場所】

初台駅1番線

【発生事象】

駅構内を浮遊していたアルミ風船が、車両のパンタグラフに引っ掛かり、発見と除去作業に時間を要した。

【列車停滞時分】

1時間53分

【原因】

初台駅の近隣施設のイベントで配布されていたアルミ風船が架線付近を浮遊し、列車進出時にパンタグラフに接触したため、と推測される。

【対策】

- すべての地下駅に支障物除去棒を配備
- 架線の支持物付近へ保護管を取付け
- 駅係員、乗務員に取り扱いを再徹底
- 当社ホームページ、駅改札口付近でお客様への注意喚起を掲出



支障物除去棒

人材の育成

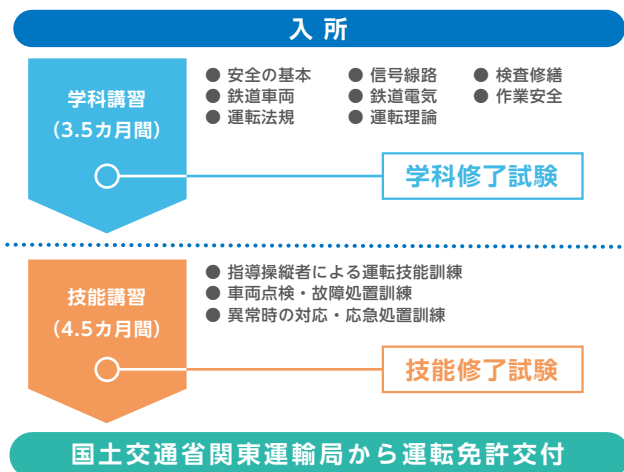
▶ 鉄道従事員への教育方針

「鉄道従事員として自ら知識・技能の習得に努め、安全・安心・快適な鉄道であるための使命を果たせる人材を育成する」という教育方針に基づいて、部署・職位別の教育訓練を行っています。

▶ 乗務員の養成と技能の維持・向上

▶ 運転士の養成

運転士になるためには、駅係員、車掌を経験した後、学科講習と技能講習をあわせて約8カ月間受けて、試験に合格する必要があります。



シミュレーターによる運転士訓練

▶ 乗務員の技能の維持・向上

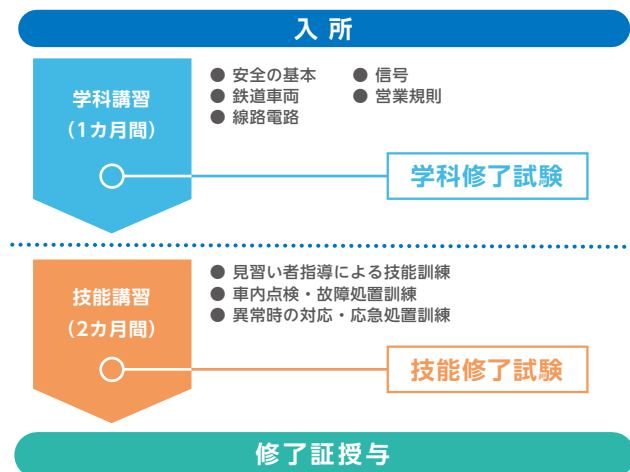
運転士・車掌になった後もフォロー教育や監督者による定期的な添乗指導のほか、各職場での勉強会や、個別の面談による指導を通じて、知識・技能の維持・向上を図っています。

▶ 鉄道教習所における教育

鉄道教習所は、国土交通大臣指定の動力車操縦者の養成所として、運転士に必要な知識・技能の教育を行っています。あわせて車掌の養成教育を行っています。

▶ 車掌の養成

車掌になるためには、駅係員を経験した後、学科講習と技能講習をあわせて約3カ月間受けて、試験に合格する必要があります。



▶ 乗務員の体調管理

▶ アルコールチェックと健康管理

乗務開始前に、監督者により健康状態を確認するほか、アルコールチェックを徹底しています。

また、定期的に健康診断や適性検査を実施しています。



アルコールチェックの様子

▶ 駅係員・技術員の教育

▶ ホーム訓練室

実際のホームを再現し、列車非常停止ボタンや転落検知装置などを設置しています。これらの機器を実際に動作させて、異常発生時に迅速かつ的確な対応ができるよう訓練を行っています。



▶ 信号扱い訓練室

列車運行管理システムが故障した時などに備え、信号操作の取り扱い(てこ操作)訓練を行っています。



▶ 屋外訓練施設

実際の架線や踏切保安設備などを設置しています。日々の保守・点検作業の手順などを確認するほか、異常時における対応力の強化に向けた訓練を行っています。



▶ 協力会社との勉強会

施設・車両などの保守管理を委託する協力会社の社員とともに勉強会を実施しています。安全な作業手順を再確認するとともに、管理職による安全パトロールの実施により、事故防止に取り組んでいます。



▶ 聞き取り調査手法の研修

事故やトラブルが発生した場合、当事者から効果的に聞き取りを行い、再発防止につなげるため、管理職向けに研修を実施しています。



VOICE



安全推進部 鉄道教習所 教師
町田 信

乗務員養成では実物教材などを用いて、運転に必要な知識・技能を習得させています。

また、養成期間に限らず、過去の事故事例を風化させない取り組みなど、安全意識を向上させる教育を継続的に行っています。今後も、お客様のために何をすべきか自ら考え、最も安全と認められる行動がとれる乗務員を養成してまいります。

安全文化の構築

安全講演会

安全意識の高揚を目的として、毎年開催しています。2018年2月には、コミュニケーションインストラクターの瀬川 文子氏を招き、「ミスはどこまで話せるか? ~ヒヤリハットが報告しやすい職場を作る極意~」をテーマにご講演いただきました。



瀬川文子氏によるご講演の様子

京王失敗学会

当社のベテラン社員やOBが、過去に体験した事故やヒヤリハット、またそこから学んだ教訓を自ら語ることで、後輩社員に安全文化を伝承するとともに、失敗情報についてオープンに話し合う講演会「京王失敗学会」を開催しています。



OB社員による失敗体験の発表の様子

安全啓発室

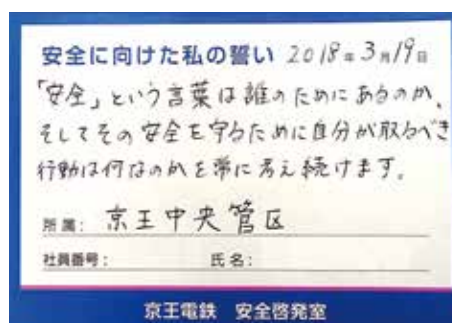
当社および他社における過去の事故やインシデントについて、デジタルサイネージを活用し、当時の資料や映像を通じて事故の経緯や原因などを学ぶことができます。鉄道事故の悲惨さを実感することで、鉄道のさらなる安全性向上に向けて、自分には何ができるかを社員一人ひとりが考え、行動につなげることを目指しています。社員はいつでも自由に見学できるほか、乗務員養成教育や新入社員教育をはじめ、各種教育・訓練における講師による説明を通じて、社員の安全意識のさらなる高揚を図っています。



映像により経営トップや社員の安全への想いを視聴



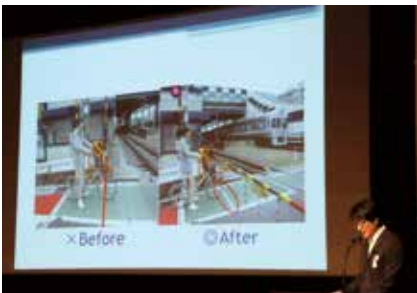
デジタルサイネージを用いた教育



受講後に安全に向けた誓いを記入するカード

▶ 小集団活動発表会

毎年、各職場で取り組んでいる安全性向上や業務改善活動の発表会を開催し、社員の改善意欲を高揚させながら、業務の継続的改善を行っています。



職場の代表者による発表



部門内で情報を共有するためのポスター



▶ 鉄道安全川柳

社員より募集した安全川柳をポスター化し各職場に掲出することで、安全意識のさらなる高揚に努めています。

- 安全と我が身を守る 指差喚呼
- 声掛けの その一声で 防ぐ事故
- 声掛けは 確認不足を 埋める声
- おかしいぞ いつもと違うは 要注意
- 慌てるな 急ぐ時こそ一呼吸
- なにか変 見て見ぬふりせず 報・連・相
- 安全を 明日へとつなぐ 再確認
- まあいいか その未確認 大惨事



入選作品を紹介するポスター

▶ 鉄道事業部門外の社員の応援体制

当社では大規模な災害や事故が発生した場合に、鉄道事業部門以外の社員が駅などでお客様のご案内を行う体制を整備しています。2017年10月には、「応援者活動用ワッペン」、「応援者対応ツール」などを使用した応援方法のガイダンスを実施しました。



応援方法のガイダンスの様子



応援者対応ツール

VOICE



鉄道営業部 富士見ヶ丘乗務区
運転士

山口 晶子

当社の運転保安設備は非常に充実していますが、安全の最後の砦は「人」と強く認識しております。

我々運転士の最大の使命はお客様を安全・安心に目的地へお運びすることですが、その永続的な実現のために、今後も指差確認喚呼を確実に実施するとともに、時間帯や天候など、状況に応じた最適な運転に努めてまいります。

危機に備えた訓練

▶ 大規模な訓練

鉄道運転事故や自然災害の発生に備え、さまざまな訓練を通じて、事故・災害への対処能力を高めています。

▶ 総合事故復旧訓練

脱線などさまざまな鉄道事故を想定し、通報・連絡・お客様の避難誘導・現場の復旧などの訓練を毎年総合的に実施しています。

2017年10月、若葉台車両基地において、大規模な地震が発生し、列車が脱線したことを想定した訓練を実施しました。警察・消防の協力をいただいています。



脱線車両の復旧



架線の復旧



帰宅困難者への備蓄品配布



線路の復旧



お客様の避難誘導

▶ 防災訓練

大規模な地震の発生を想定し、列車を緊急停止させる訓練を実施しているほか、本社対策本部の設置・運営などの訓練を定期的に行っています。2017年9月の防災週間期間中と、2018年3月に実施しました。



対策本部設置訓練

そのほかの訓練

年間を通じて、さまざまな条件を設定した訓練に取り組み、係員の異常時対応力の向上を図っています。

▶トンネル内での避難誘導訓練

トンネル内で列車が長時間停車を余儀なくされた場合を想定した避難誘導訓練を、2018年1月に新宿トンネルで実施しました。



列車からの
避難誘導訓練

▶信号扱い訓練

列車運行管理システムの故障発生を想定し、全線の信号取扱所での一斉訓練を年に4回実施しています。



信号所での
取り扱い訓練

▶テロ対処訓練

駅構内や車内でのテロ行為の発生を想定し、警察や消防など関係機関と合同でテロ対処訓練を実施しています。



テロ発生時の
避難誘導訓練

▶脱線復旧機材の取り扱い習熟訓練

列車脱線事故からの復旧を円滑に行うための訓練を2017年9月ほかに実施しました。



車両の脱線復旧訓練

▶継電連動装置障害復旧訓練

転てつ器(ポイント)を制御する装置の故障を想定した障害復旧訓練を2017年7月ほかに実施しました。



機器室での
障害復旧訓練

▶火災対応訓練

駅構内や車内での火災発生を想定し、消防と合同で初期消火などの対応訓練を実施しています。



ホーム上での
初期消火訓練

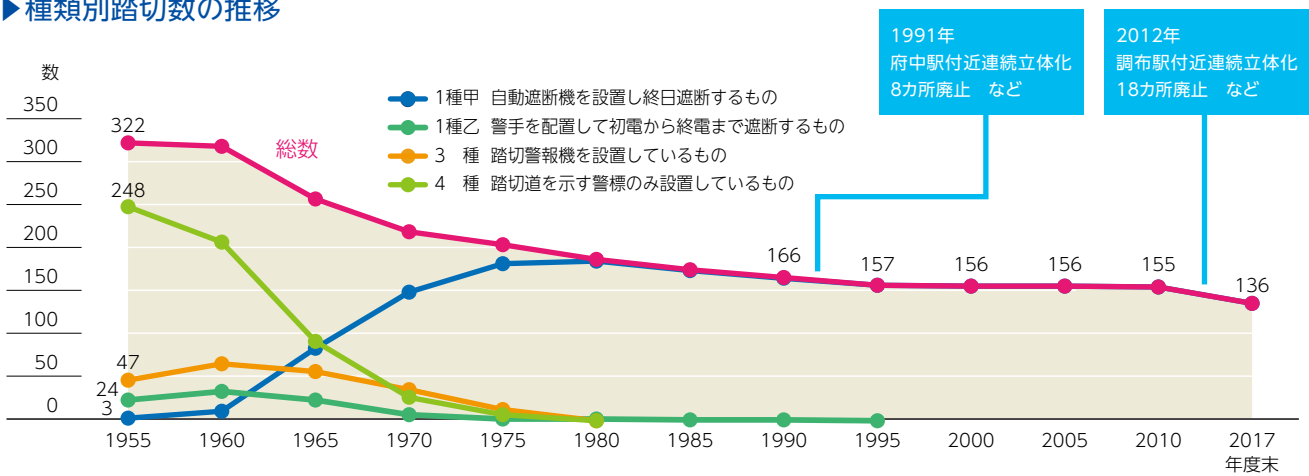
施設・設備の取り組み

▶ 立体交差化

運転保安の向上のため、線路と道路の立体交差化や踏切の整理統合を行ってきました。特に連続立体交差化については1964年に京王線の新宿駅～初台駅間の地下化を皮切りに、複数の箇所で行った事業を実施し、直近では2012年8月に調布駅付近を地下化しました。この結果、踏切数は1955年度末の322カ所から2017年度末で136カ所に減少しています。

※連続立体交差事業：2カ所以上の幹線道路を含む多くの道路と鉄道を連続的に立体化するものであり、道路整備の一環として施行する都市計画事業です。

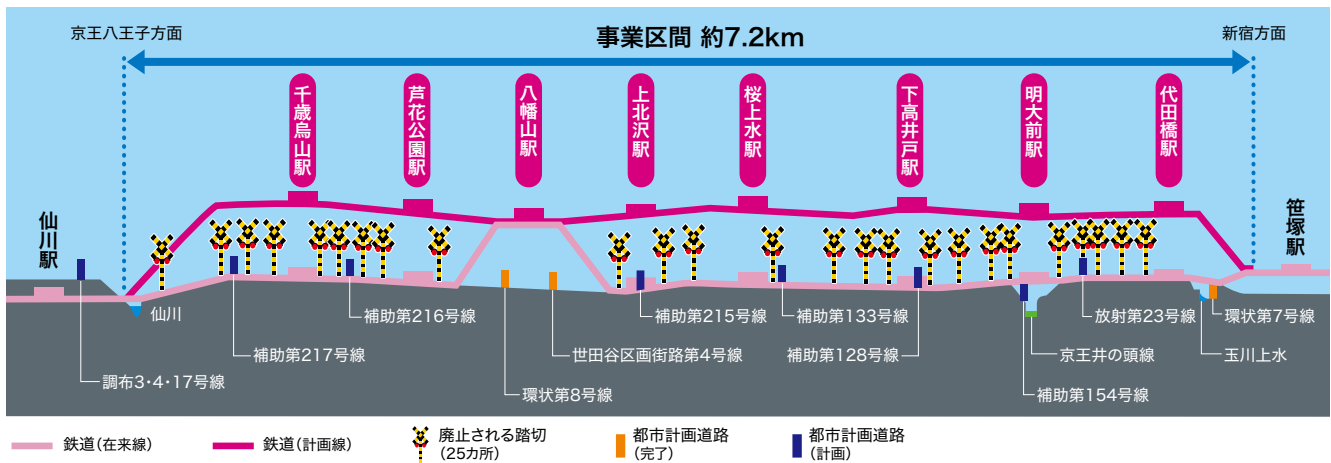
▶ 種類別踏切数の推移



▶ 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業

事業主体である東京都と協力し、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業を実施しています。2014年2月、国土交通省から都市計画事業の認可を取得し、現在、用地取得や設計業務などを進めています。

この事業の完成により、笹塚駅～仙川駅間の約7.2kmを高架化し、放射第23号線(井ノ頭通り)などとの立体交差化を図ることで、25カ所の踏切を廃止します。



▶ ATC (自動列車制御装置)

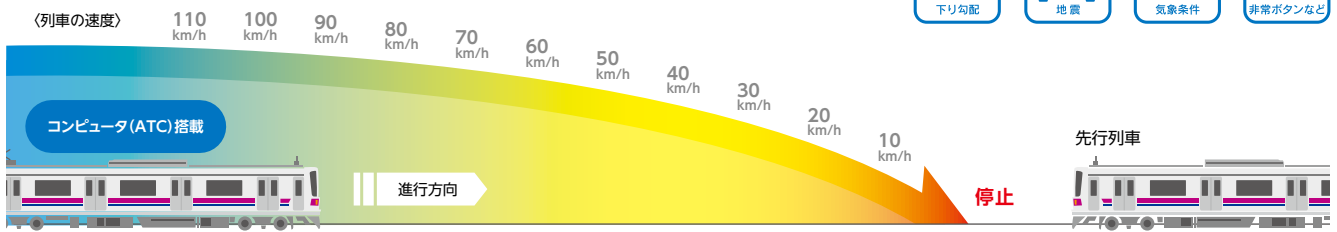
従来のATS (自動列車停止装置) に比べてさらに安全性の高いATC (自動列車制御装置) を2013年3月から当社全線で使用しています。

車両に搭載しているコンピュータが、レールに流れている信号電流を受け取ることにより、先行列車との間隔を連続的に把握し、常に適切な速度で走行できるよう、列車を制御します。

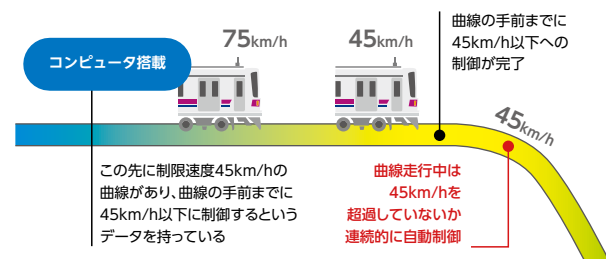
■ ATCで列車を制御できる主なケース



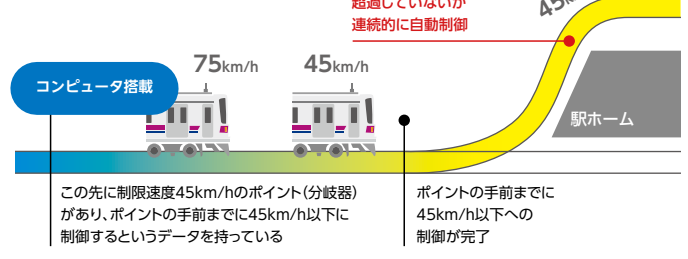
■ ATCによる列車制御のイメージ



■ 曲線通過の場合



■ ポイント通過の場合



▶ 鉄道総合指令センター

免震構造となっている鉄道総合指令センターには、列車の運行などを管理する運輸指令所と、電力の供給を管理する電力指令所の機能が集約されています。平常時だけでなく、事故や災害発生時の対応を迅速に行えるよう、連携を強化する体制を整えています。

▶ 運輸指令所

列車の運行を円滑に行うため、TTC (列車運行管理システム) により、進路設定、出発指示合図などを自動制御しています。事故発生時などには、列車の位置や遅れなどを総合的に判断し、運行ダイヤの整理・復旧を図るとともに、

駅の「お客さま案内ディスプレイ」や「車内案内表示器」などを通じて、一括してお客様に最新の情報をご案内しています。



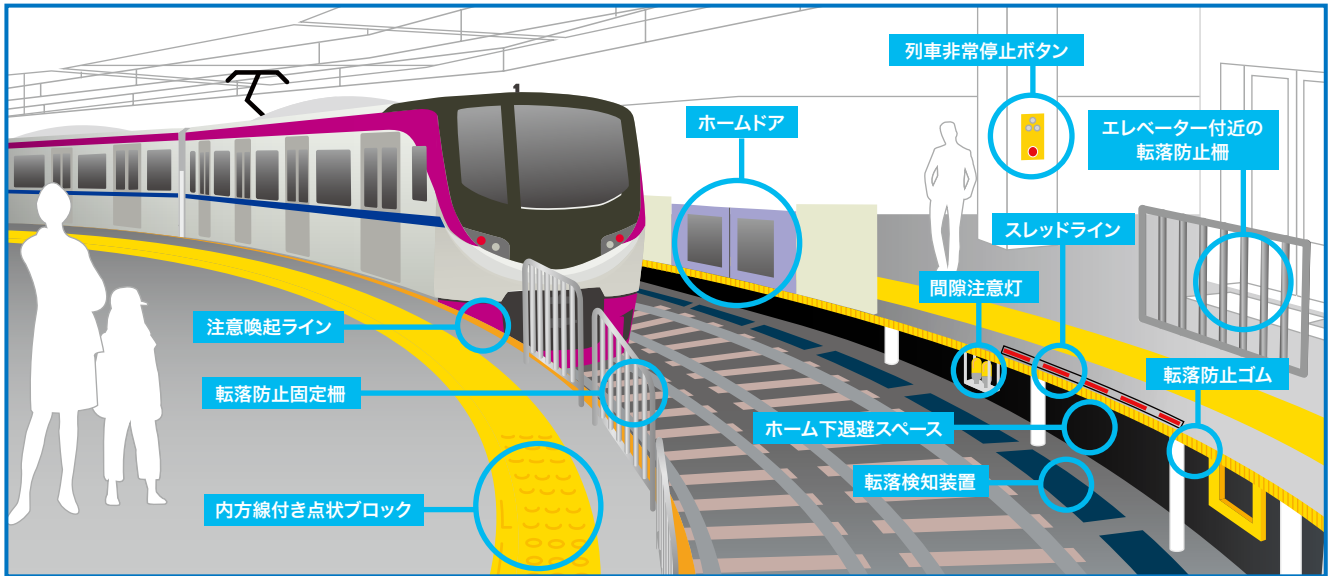
▶ 電力指令所

列車運転用電力と駅設備や信号保安設備などに用いる付帯用電力を供給する20カ所の変電所の運転状況や送電状況を、集中監視制御システムにより24時間体制で監視しています。事故や停電が発生した場合は、直ちに予備の設備に切り替え、列車運転への影響を最小限にするなど、電力の安定供給に努めています。



ホームの安全対策

ホームでの安全を確保するため、さまざまな対策に取り組んでいます。



▶ ホームドア

お客様のホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を未然に防止するため、ホームドアを設置しています。2017年度までに新宿駅(1～3番線)、国領駅、布田駅、調布駅、吉祥寺駅での使用を開始しています。今後は、2018年度までに新線新宿駅、渋谷駅、2019年度までに飛田給駅での使用開始を予定しているほか、大規模工事にあわせて明大前駅、下北沢駅においても整備を計画しています。



吉祥寺駅

▶ 注意喚起ライン

線路への転落や、列車への触車防止を図るため、ホーム端をオレンジ色に塗装し、注意喚起を行っています。



▶ 転落防止固定柵

お客様のホームからの転落防止を目的として、新宿駅降車ホームや渋谷駅ホーム終端部などに固定柵を設置しています。2018年度以降は、東府中駅などへ設置します。



明大前駅

▶ 内方線付き点状ブロック

目の不自由なお客様のホームからの転落防止対策として、ホーム縁端部にある警告ブロックにホームの内側を示す内方線の整備を完了しています。



▶エレベーター付近の転落防止柵

エレベーター出入口が線路側を向いているホームの一部では、転落防止柵を設置しています。



京王稲田堤駅

▶間隙注意灯・スレッドライン

曲線ホームなど、車両とホームとの隙間が広く空いてしまう箇所がある12駅では、光の点滅で隙間をお知らせする間隙注意灯やスレッドラインを設置しています。



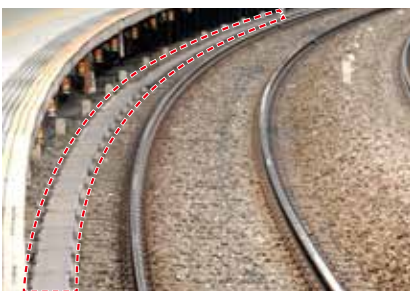
間隙注意灯



スレッドライン

▶転落検知装置

曲線ホームなど、車両とホームとの隙間が広く空いてしまう箇所がある14駅に設置しています。お客様がホームから転落された場合、この装置が転落を検知し、乗務員や駅係員に知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。



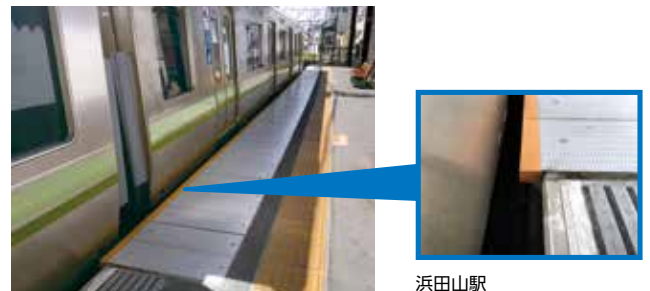
▶列車非常停止ボタン

お客様がホームから転落された場合などに、このボタンを押すことで接近する列車の乗務員や駅係員などに異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。全駅のホームに設置しています。



▶転落防止ゴム

車両とホームとの間が広く空いている駅では、お客様が乗降の際に転落しないよう、隙間を狭くするための転落防止ゴム(くし状型のゴム)の設置を進めています。



浜田山駅

▶ホーム下退避スペース・ステップ

お客様がホームから転落された場合の緊急避難場所として、ホーム下に退避スペースを整備しています。また、退避スペースのない箇所には、ホームに上がりやすくなるためのステップを設置しています。



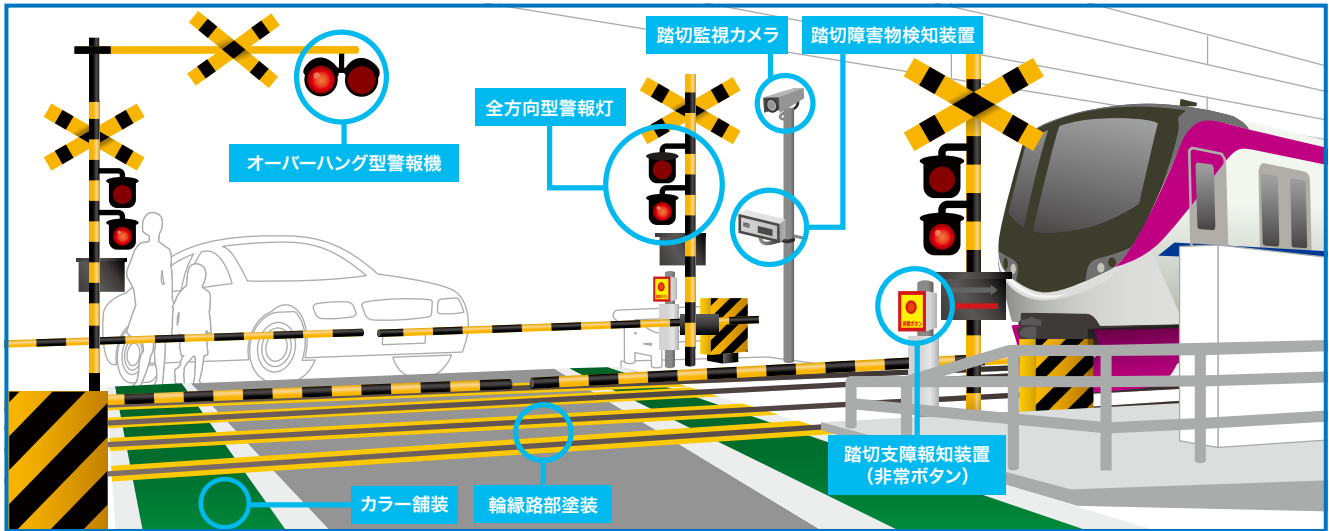
ホーム下退避スペース



ホーム下ステップ

踏切の安全対策

踏切での安全を確保するため、各種保安装置を設置しています。



▶ 踏切支障報知装置 (非常ボタン)

踏切での列車と自動車などの接触事故を未然に防止するため、すべての踏切に設置しています。踏切内で閉じ込められるなどの緊急事態が生じた場合、ボタンを押すと、運転士に異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。

また、踏切の全長が長く、渡りきれずに踏切内に閉じ込められた場合に、通行者が操作できる非常ボタンを踏切内に設置しています。



踏切支障報知装置 (非常ボタン)



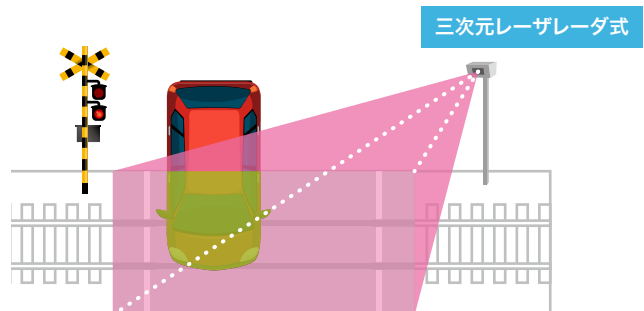
▶ 踏切障害物検知装置

踏切での列車と自動車などの接触事故を未然に防止するため、86カ所の踏切に設置しています。踏切内に何らかの障害物を検知すると、運転士に異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。

従来の光線式より高性能な検知装置への更新を進めています。



三次元レーザーレーダ式
障害物検知装置



▶全方向型警報灯

どの角度からも点滅が確認できる全方向型警報灯の導入を進めています。



▶スリット型踏切遮断かんの導入

自動車などによる折損を防止するため、屈折可能なスリット型踏切遮断かんを一部の踏切に導入しています。



▶輪縁路部塗装

自転車やベビーカーなどの車輪の脱輪防止対策として、輪縁路部(道路と線路の溝)がわかりやすいように塗装を行っています。



▶オーバーハング型警報機

遠くからでも踏切の存在がわかるよう、一部の踏切では道路上の高い位置に警報機を設置しています。



▶踏切監視カメラ

踏切事故の防止や、事故発生時などの状況確認を行うため、一部の踏切に設置しています。



VOICE



車両電気部 通信管理所 技術掛
恵良 惇一

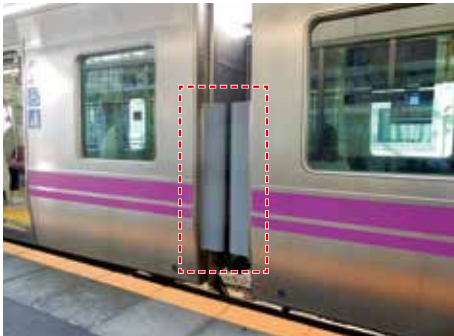
踏切における安全対策として、踏切設備の視認性向上や高性能機器への置き替えを進めており、事故の未然防止に努めています。踏切をご利用になるお客様の安全確保のために、日常の点検や工事において細心の注意を払っています。

今後も、「鉄道の安全を守る」という使命のもと、日々の業務に努めてまいります。

▶ 車両の安全対策

▶ 車両外幌

ホームからの転落事故を防止するため、車両の連結部に外幌を設置しています。



▶ 防護無線装置

列車の脱線や踏切内での立ち往生などにより、他の列車の運行に支障を来す恐れがある場合、乗務員が乗務員室にあるボタンを押し、無線による信号を発報する装置です。この信号を受報した列車の運転士は直ちに列車を停止させ、事故を未然に防ぎます。



▶ 避難はしご

万一、事故などが発生した場合、お客様を車外に避難誘導するため、非常用の脱出はしごを搭載しています。



▶ 車両の緊急停止装置

運転士の体調が急変した場合などに備えて、ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキが作動する運転士異常時列車停止装置や、車掌が強制的に非常ブレーキをかける装置を搭載しています。



運転士異常時列車停止装置



車掌非常スイッチ

▶ 非常通報装置

車内の異常を乗務員に知らせる装置を全車両に設置しています。また、一部の車両では、乗務員と直接通話ができる非常通報器を設置しています。



乗務員と直接通話ができる非常通報器を設置しています。

▶ 車内防犯カメラ

テロ行為などの未然防止や、車内での迷惑行為などを鑑み、一部の車両に防犯カメラを設置しています。なお、映像データは社内規程に則り、厳正に管理しています。



カメラ映像の一例

➤ 駅の安全対策

▶ 防犯カメラ

駅構内の状況確認や犯罪行為などの抑止を目的として、全駅に防犯カメラを設置し、駅のほか、本社・総合指令センターにおいて常時確認することができます。



桜上水駅に設置された防犯カメラ



券売機付近の様子



改札機付近の様子

▶ 地下駅火災対策

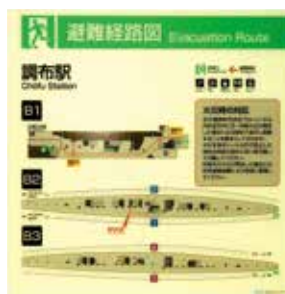
地下駅では複数の避難経路を確保するほか、新宿駅において排煙設備および防火区間の設置工事を行うなど、火災対策を行っています。



ウォータースクリーンによる防火区画(新宿駅)

▶ 避難経路図

火災や震災時などの避難誘導のため、駅構内に避難経路図を表示しています。地下駅については蓄光タイプのパネルにより、暗所でも確認できるものになっています。



➤ 脱線防止対策

▶ 脱線防止ガード

半径300m以下の曲線に設置しています。また、一部のポイント(分岐器)や踏切にも設置しています。



▶ 輪重測定装置

車両の輪重比(左右の車輪にかかる荷重のばらつき)が10%以内となるよう、輪重測定装置を導入し、全般・重要部検査や車輪交換の際に測定・調整をしています。



日々の保守管理

総合高速検測車

実際の列車と同じ速度で走行しながら、架線と軌道の状況を同時に検測することができる総合高速検測車を京王線に導入しています。検測で得られたデータを保守計画に反映し、安全性・乗り心地の向上を図ります。



総合高速検測車

軌道

京王線では日中に総合高速検測車を用い、線路の幅など軌道の状態に異常がないか点検を行っているほか、井の頭線とあわせた全線で、目視や測定機器を用いたさまざまな点検を行っています。終電後には点検結果に基づき、軌道の修正や各種設備の交換などを行っており、京王線の道床つき固めはマルチプルタイタンパーという大型の作業車を使用しています。



マルチプルタイタンパーによる道床つき固め

構造物

高架橋・トンネル・橋梁・擁壁などの構造物については、定期的な目視検査や打音検査を実施するとともに、必要に応じて補修工事を実施しています。



トンネル天井部の点検



高架橋の点検



剥離対策を施した高架橋

➤ 車両

列車を安全に運行するために定期検査を行っています。日常的な検査は検車区（京王線は若葉台・高幡不動、井の頭線は富士見ヶ丘）で実施し、大規模な検査と修理は若葉台工場で実施しています。

▶ 検車区

6日を超えない期間に行う「列車検査」や、3カ月を超えない期間に行う「月検査」のほか、臨時の小規模な修理や車両の清掃を行っています。また、若葉台検車区では床下型車輪旋盤装置による車輪の削正を実施し、静かで乗り心地の良い車両を維持しています。



検車区での検査

▶ 若葉台工場

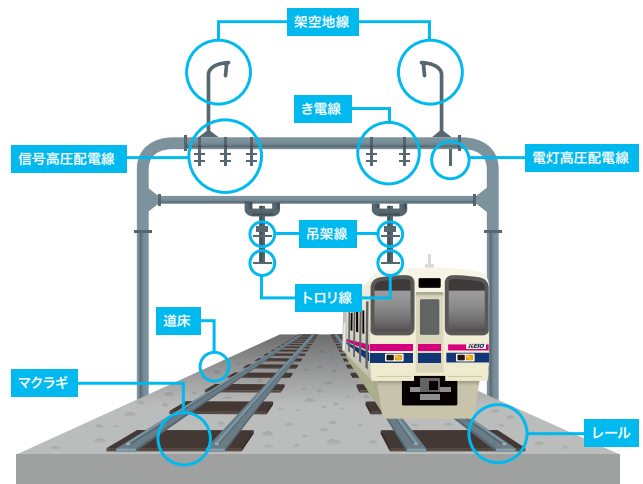
4年または走行距離が60万kmを超えない期間に行う「重要部検査」、8年を超えない期間に行う「全般検査」のほか、大規模な修理やリニューアル工事を行っています。



車体吊り上げ

➤ 架線（吊架線、トロリ線）

京王線では日中に総合高速検測車を用い、列車に電気を供給する架線の摩耗、偏位、高さなどの測定を行っています。井の頭線とあわせた全線で、目視により外観に異常がないか点検をしているほか、終電後には、測定器などを用いた点検や架線の高さの調整、各種設備の交換などを行っています。



VOICE



工務部 施設管理所 技術員
片野 翔斗

施設管理所では京王線・井の頭線の線路、ホーム等の土木構造物の維持管理を行っています。

私が所属する軌道担当では、教育や点呼時間に事故事例の振り返りを行い、原因究明と対策を共有しています。今後も過去の事例を踏まえ、リスクと対策を常に考えて業務に取り組み、より安心・安全な鉄道運行に努めてまいります。

災害などへの備え

▶ 構造物などの耐震補強

新たな耐震基準に適合した構造物とするため、橋梁、盛土区間や高架橋柱、トンネルを対象とした耐震補強を実施しています。



高架橋柱の耐震補強



盛土区間の耐震補強

▶ 降灰対策

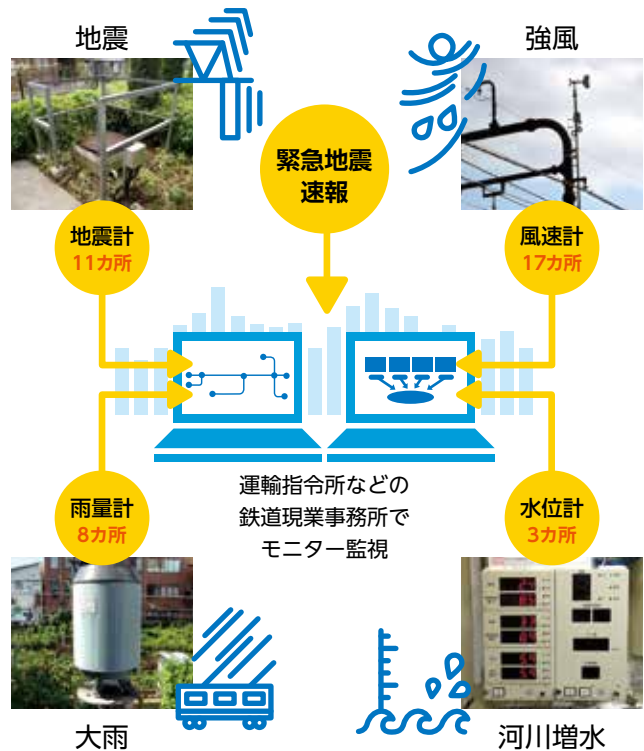
富士山をはじめとする火山の噴火に備え、線路上に積もった火山灰を除去するカートを、京王線・井の頭線あわせて3台導入しています。また、沿線の拠点に除灰用備品も配備しています。



除灰カート

▶ 気象情報システム

自然災害に早期に対応するため、沿線に地震計・風速計・雨量計・水位計を設置しています。それぞれの計器で観測されたデータは運輸指令所をはじめとする各鉄道現業事務所において、24時間体制で監視しています。



▶ 地震

沿線11カ所に地震計を設置しています。地震計が一定以上の震度を感知すると、列車無線を通じて自動的に全列車に警報を送るとともに、列車を停止させます。さらに、気象庁の「緊急地震速報」を活用し、震度4以上の地震発生が想定される場合、列車無線を通じて自動的に全列車に警報を送り、乗務員が列車を安全な場所に停止させます。

▶ 強風

沿線17カ所に風速計を設置しています。観測された瞬間風速に応じた速度規制、運転中止の基準を定めています。

▶大雨

沿線8カ所に雨量計を設置しているほか、多摩川など3カ所に水位計を設置しています。加えて、気象情報会社から提供される解析雨量のデータを活用しています。観測された時間雨量、累積雨量に応じて、速度規制、運転中止の基準を定めています。

また、高尾線では土砂崩壊対策として、線路脇斜面の補修工事を継続的に進めています。



補強工事が完了した線路脇斜面

▶落雷対策

き電線より一段高いところに避雷針の役割を果たす「架空地線」と呼ばれる防護線を必要な箇所へ設置完了したほか、電子機器の耐雷性強化を図っています。



避雷器



架空地線

▶降雪対策

▶パンタグラフの改良

従来のひし形のものより着雪面が少ないシングルアームパンタグラフを採用しています。また、車両基地などの架線には着雪・着氷を防止するため、ヒーターを内蔵した電線を使用しています。



▶融雪器の導入

地下駅を除くすべてのポイント(分岐器)に電気融雪器を設置しています。

なお、2015年度からこれまでの電気融雪器に比べて融雪能力の高い温水循環式融雪器を導入しています。



▶帰宅困難者対策

大規模災害などにより、帰宅が困難になったお客様への対応として、全駅に備蓄品(飲料水、ブランケットなど)を配備しています。



その他の取り組み

▶ 鉄道テロ対策

全駅のゴミ箱を撤去しているほか、防犯カメラの設置や駅係員・警備員の巡回により、不審者・不審物などの早期発見に努めています。また、車両基地などへの不審者の侵入を防ぐために、防犯センサーの設置や警備員による巡回を実施しています。

さらに、鉄道システム(運行管理システム・電力管理システムなど)を標的としたサイバー攻撃の未然防止に取り組んでいます。

▶ テロに対する警備

駅係員や警備員が定期的に駅構内を巡回し、不審物、施設の不備などの早期発見に努めています。また、乗務員は終端駅での交代時などに、車内を巡回し、不審物の早期発見、お忘れ物の有無などの確認に努めています。

各駅では、テロ警戒中のステッカーを掲出し、「見せる警備」によるテロ対策を推進しています。また、必要に応じて、お客様にご協力をお願いかける案内放送などを実施しています。



駅の警備状況



かご型空き缶回収ボックス



テロ警戒実施中を示すステッカー

▶ お客様サポートの充実

▶ 現業係員の研修

2016年度から、実際の駅や車両を使用して、盲導犬を帯同したお客様や白杖を使用するお客様へのご案内や接遇スキルを向上させるための講習会を実施しています。



▶ 声かけ・サポート運動の実施

お客様が安全に、かつ安心して鉄道施設をご利用いただけるよう、お困りになっているお客様を見かけた際は、社員が積極的にお声かけをするとともに、列車への乗降の誘導案内を実施しています。

また、社員がお声かけをするだけでなく、鉄道をご利用になるお客様にも、お困りの方に対して助け合いのご協力を呼びかけています。



▶ サービス介助士の資格取得の推進

障がいのあるお客様への接遇向上のため、当社ではサービス介助士の資格取得を推進しており、駅係員および乗務員の99.9%が取得しています。

なお、有資格者は胸章に表示し、お客様にもわかりやすくしています。

※2017年度末時点



2018年度 安全目標・安全重点施策

2018年度から新たにスタートした中期3カ年経営計画に、安全性を向上していく施策を掲げています。

2020年度に向けた中期3カ年経営計画(2018～2020年度)

- 事故や輸送障害、テロ行為の未然防止に向けた施策の実行
- 自然災害への対応力と危機管理体制の強化
- 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進
- 耐震補強や自然災害対策をはじめとした減災対策の実施
- ホームドアや固定柵の設置によるホーム安全対策の実施
- 老朽設備の着実な更新による保安度の向上

(鉄道の安全性向上への取り組みを抜粋)

▶ 2018年度 安全目標

有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減

▶ 2018年度 安全重点施策

- | | |
|---|--|
| <p>1. 事故・トラブル対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 安全目標達成に向けた事故、トラブルの未然防止 (2) 事故やトラブルの原因分析と再発防止に向けた適切な安全対策の実施 <p>2. 災害・危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 関係機関との連携によるテロ対策の推進 (2) サイバーセキュリティ対策の推進 <p>3. 安全意識の高揚、人材育成・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 安全啓発室における安全教育の拡充 (2) 経験や職位に応じた教育を通じた質の高い社員の育成 <p>4. 中長期施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進 (2) 下北沢駅改良工事の推進 | <p>5. 減災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 建造物の耐震補強工事の継続実施 (2) 気象情報システムの更新 <p>6. ホーム安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 新線新宿駅、渋谷駅にホームドアを設置 (2) 転落防止固定柵や注意喚起ラインを設置 <p>7. 老朽化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) コンクリート建造物補修工事の実施 (2) 京王線8000系車両、井の頭線1000系車両のリニューアル |
|---|--|

お客様への情報提供

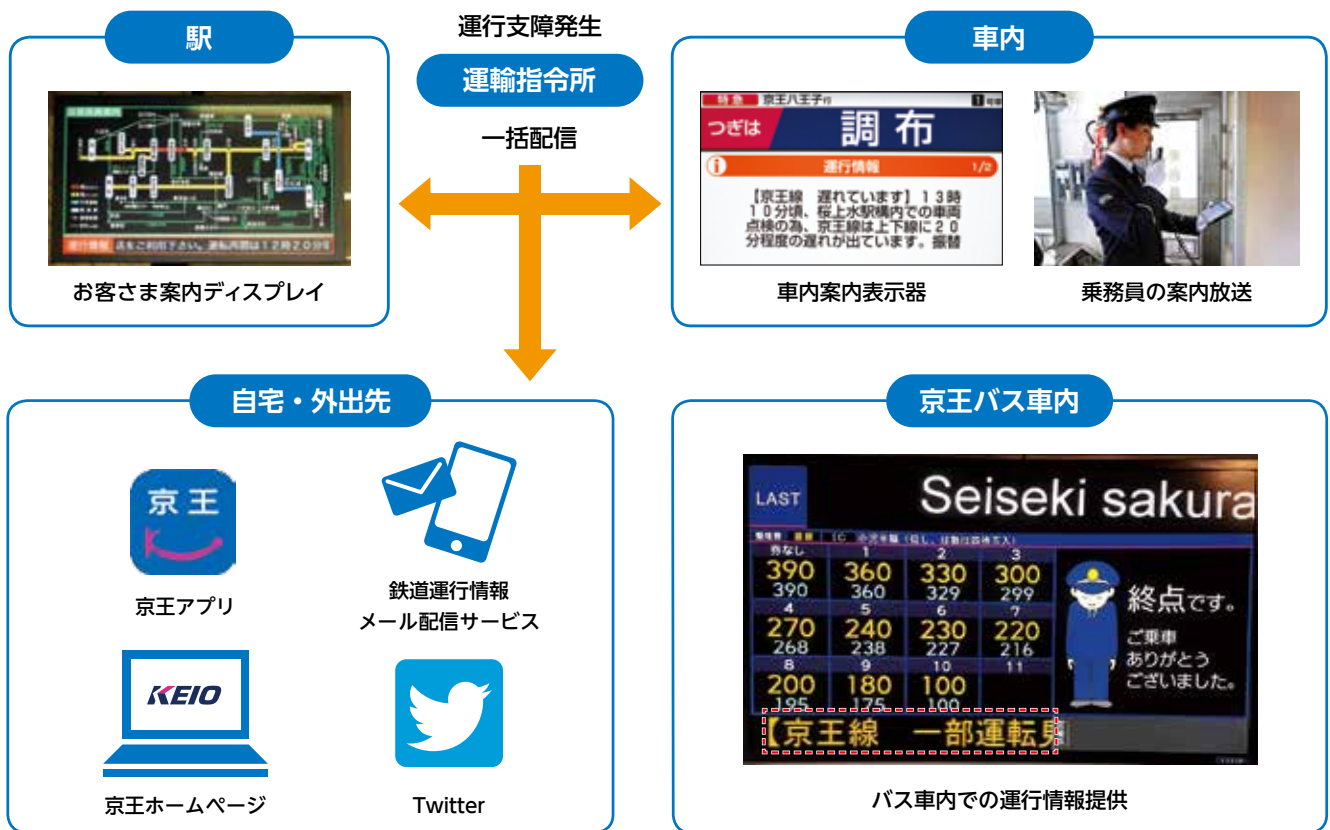
▶ 鉄道運行情報の提供

ダイヤ乱れなど、列車の運行に支障が生じた場合、文字情報・音声・路線図のいずれか、または組み合わせにより、お客様に分かりやすく鉄道運行情報をお届けしています。

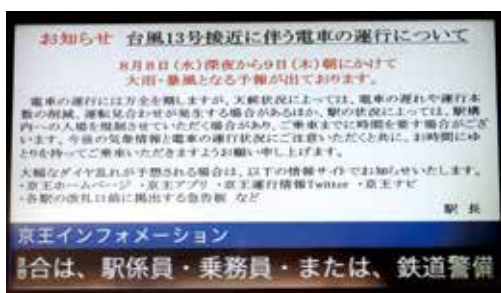
文字情報については、ホームに設置の「行先案内板」、車内に設置の「案内表示器」のほか、ご登録いただいたお客様の携帯電話などへの「鉄道運行情報メール配信サービス」、「京王アプリ」、「Twitter」での情報提供を行っています。

路線図については、文字情報とともに、改札付近に設置の大型液晶モニター「お客さま案内ディスプレイ」および「京王ホームページ」にて提供しています。また、ディスプレイなどに表示される文字情報は、音声に変換され全駅で放送しています。

異常時などは、車掌が運輸指令所からの連絡やタブレット端末を活用して、お客様に必要な情報をよりスムーズにご案内できるよう努めています。また、京王バス車内でも鉄道の運行情報を提供しています。



▶ お客さま案内ディスプレイ(表示例)



▶ 車内案内表示器(表示例)



お客様とともに

安全啓発活動

▶ デモ機での操作体験

交通安全運動期間中に、駅構内にて安全設備の操作を体験していただくことで、万一の際のご協力をお願いしています。



駅構内でのデモ機による操作体験

▶ 踏切での呼びかけ

交通安全運動期間中に、踏切の無理な横断などをしないよう呼びかけを行い、事故の未然防止に努めています。



踏切での啓発活動



ドライバーへの啓発活動

▶ 高齢者施設や学校への訪問

交通安全運動期間中に、高齢者施設や学校などへの訪問により、安全な鉄道利用を呼びかけています。



高齢者施設での安全教室

▶ 安全啓発ビデオの放映

当社のキャラクターを用いた安全啓発用動画を活用し、駅構内での放映や、沿線の幼稚園・小学校などで安全啓発活動を行っています。



駅構内でのビデオ放映



小学校での安全教室

グループ会社の安全対策

運輸安全マネジメントに基づく安全対策

京王グループ運輸業各社では「運輸安全マネジメント」に取り組み、安全管理規程の制定、事故件数削減目標の設定、安全意識の向上などを行うとともに、安全関連情報をホームページで公表しています。

また、社長以下役員が営業所を巡回し、安全管理体制の確認や、営業所員・乗務員と安全に関する意見交換を行うなど、積極的なコミュニケーションを通じて、輸送の安全確保を図っています。

バス

安全装置の導入

●ドライブレコーダー

京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、車内外に設置されたカメラとマイク(集音装置)により映像・音声情報を記録・再生するドライブレコーダーを全車両に導入しているほか、左折時や進路変更時の事故防止を目的として左折チャイムを導入し、路線バスに車内確認用の補助ミラーを設置しています。



ドライブレコーダー

●運転訓練車

京王電鉄バスグループでは、アイマークレコーダー※1や安全確認装置※2などにより、運転の様子を映像と音声で記録するとともに、運転状況をチェックできる車内モニターが備えられている「運転訓練車」を、関東の各民営バス会社に先駆けて導入しています。

※1 アイマークレコーダー：乗務員が装着したカメラで目の動きを映像化して記録する装置

※2 安全確認装置：乗務員が安全確認を必要とする箇所を点灯などで示す装置



運転訓練車

●衝突被害軽減ブレーキ

高速バス事業では、走行中に高精度ミリ波レーダーで前車との車間距離を監視し、車間距離が近づき衝突の恐れがある場合に警報音で注意を促すとともに、衝突の可能性が高いと判断した場合にはブレーキを作動させ、万一の衝突事故の被害を低減する「衝突被害軽減ブレーキ」を搭載した車両を導入しています。



衝突被害軽減ブレーキ搭載車両

そのほかにも事故防止対策機器を積極的に導入し、京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、車間距離警報装置を145両、またバスジャック対策として、走行中に運転を妨害されないようするための囲い(ドライバーズガード)を107両に導入しています。

▶ 事故の未然防止

● 乗務員の教育

京王電鉄バスグループでは、通常では体験できない運転上の危険などを体験する泊りがけの研修を行うなど、安全運転に対する意識の向上を図っています。西東京バスでは、全営業担当員（運転者）を対象に、社長懇談会、事故防止・接遇向上の座学研修、運転実技訓練の3部構成の定期研修を開催し、社長が会社方針の説明を行うほか質疑応答を通じ全営業担当員と直接対話することで、現場の声を安全対策につなげています。



運転実技訓練



座学研修

● 乗務員の健康管理

京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、乗務員の健康リスクを管理するために、SASスクリーニング検査や脳ドック（MRI）検査を実施し、健康起因事故の未然防止に努めています。



管理職から営業係への健康面談

▶ タクシー

京王自動車グループでは、乗務員同士の「小集団活動」の中で、自社で定めた「運転の基本動作」を動画化し視聴させているほか、実技を取り入れた教育を実施し、運転技術の向上を図っています。



車庫内で一時停止の実技講習

▶ トラック

京王運輸では、2008年に全日本トラック協会が認定する「安全性優良事業所」の取得率100%（全5事業所）を達成しました（業界全体の取得率は28.9%）。

また、安全性優良事業所に10年間認定されたことにより、多摩営業所が2017年に関東運輸局長より表彰されました。



安全性優良事業所に交付される「Gマーク」が貼付されたトラック

住んでもらえる、 選んでもらえる沿線づくり

● お客様の利便性・快適性の向上 P.52

- 駅サービスの向上
- 車内サービスの向上
- 駅・車内での情報提供
- グループの取り組み



● お客様との対話 P.56

- 積極的な広聴活動
- ホームページや冊子における多言語案内
- その他のコミュニケーション



● 多世代が生活しやすい沿線づくり P.58

- 子育て支援の取り組み
- 地域高齢者を支える事業
- 暮らしのお手伝い・健康増進



● 株主・投資家・取引先等への取り組み P.69

- 株主・投資家の皆様との対話
- 取引先への取り組み

● 人材の活用と働きやすい職場づくり P.64

- 人権・労働安全衛生
- 人材雇用
- 働きやすい職場環境づくり
- ダイバーシティ・マネジメントの推進
- 社員のキャリア支援

● 地域社会・行政との連携 P.63

- 沿線自治体との連携
- 中部地方の自治体との連携



● 地域社会への貢献 P.60

- 文化・教育・子育て支援イベント
京王アカデミープログラム
- チャリティ・スポーツ振興・産学連携



メッセージ



常務取締役
(経営統括本部長)

伊藤 俊司

人々の暮らしに寄り添い、沿線地域の持続的な発展の実現に取り組んでいます

京王グループは、京王グループ理念のもと、鉄道、バスをはじめとして、利便性が高く快適と感じられる生活サービスを提供することで、沿線地域が将来にわたって発展し、「住んでもらえる、選んでもらえる」街づくりを進めています。

具体的には、本年2月、長距離利用のお客様の着席ニーズにお応えし、有料座席指定列車「京王ライナー」の運行を開始したほか、3月には、多摩動物公園駅前に「京王あそびの森 HUGHUG」を開業し、周辺を親子で楽しめる新たなレジャーエリア「キッズパークたまどう」として活性化を進めています。このほか、「京王ほっとネットワーク」における移動販売の拡充など、生活サポートサービスの充実を推進しています。

地域社会との連携については、「京王アカデミープログラム」「京王音楽祭」「京王駅伝フェスティバル」など、文化・スポーツ・教育・子育て支援を継続して積極的に行っているほか、昨年9月から、岐阜県高山市との新たな経済交流として、高速バスのトランクを活用した「貨客混載」に取り組み、中央道の高速バスエリアの地域活性化への貢献を図っています。

一方、京王グループで働く社員について、多様な人材が長期にわたって活躍できる環境づくりを推進しており、ダイバーシティ・マネジメントの推進、キャリア支援など柔軟な働き方を可能とする仕組みづくりを行い、経済産業省から2年連続で「健康経営優良法人」(ホワイト500)の認定を受けました。

今後も、様々なステークホルダーの皆さまのニーズにお応えし、地域社会とともに成長し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

京王グループとステークホルダーのつながり



京王グループ行動規範に基づき、ステークホルダーの皆様に対して以下のような取り組みを進めます。

- お客様の利便性、快適性の向上
- お客様との対話
- 多世代が生活しやすい沿線づくり
- 地域社会への貢献
- 地域社会・行政との連携
- 人材の活用と働きやすい職場づくり
- 株主・投資家・取引先等への取り組み

topics

沿線のさらなる活性化を目指して

■ 有料の座席指定列車「京王ライナー」

長距離利用のお客様の着席ニーズにお応えすることを目的に、2018年2月から新宿発・橋本行、新宿発・京王八王子行で、夜間時間帯に最速種別の列車として運行を開始しました。新宿駅出発後の最初の停車駅は、橋本行が京王永山駅、京王八王子行が府中駅で、それ以降は現行の特急停車駅となっています。平日は20時～0時台、土休日は17時～21時台で、橋本行・京王八王子行各方面に1時間に1本ずつ、1日合計10本を運行し、ご好評いただいております。



中央道の高速バスエリアの地域活性化

■ 高速バスを利用した“貨客混載”による 飛騨高山の農産物の販路拡大事業

中央道の高速バスエリアの関係自治体や事業者と連携して、新たな広域観光ルートづくりや高速バスのフリーきっぷ(企画乗車券)の販売、新宿の観光案内所「中部地方インフォメーションプラザ in 京王新宿」を活用した観光情報の提供等を行うことで、地域活性化に貢献しています。

2017年9月からは、岐阜県高山市との新たな経済交流として、京王電鉄バスが濃飛乗合自動車(株)と共同運行する「飛騨高山線」の高速バスのトランクを活用した「貨客混載」により、飛騨高山の新鮮な野菜や旬な果物を東京へ輸送し、京王ストアが運営する「キッチンコート永福町店」で販売する取り組みを始めました。



高速バスを利用した貨客混載



中部地方 インフォメーションプラザin京王新宿

INTERVIEW



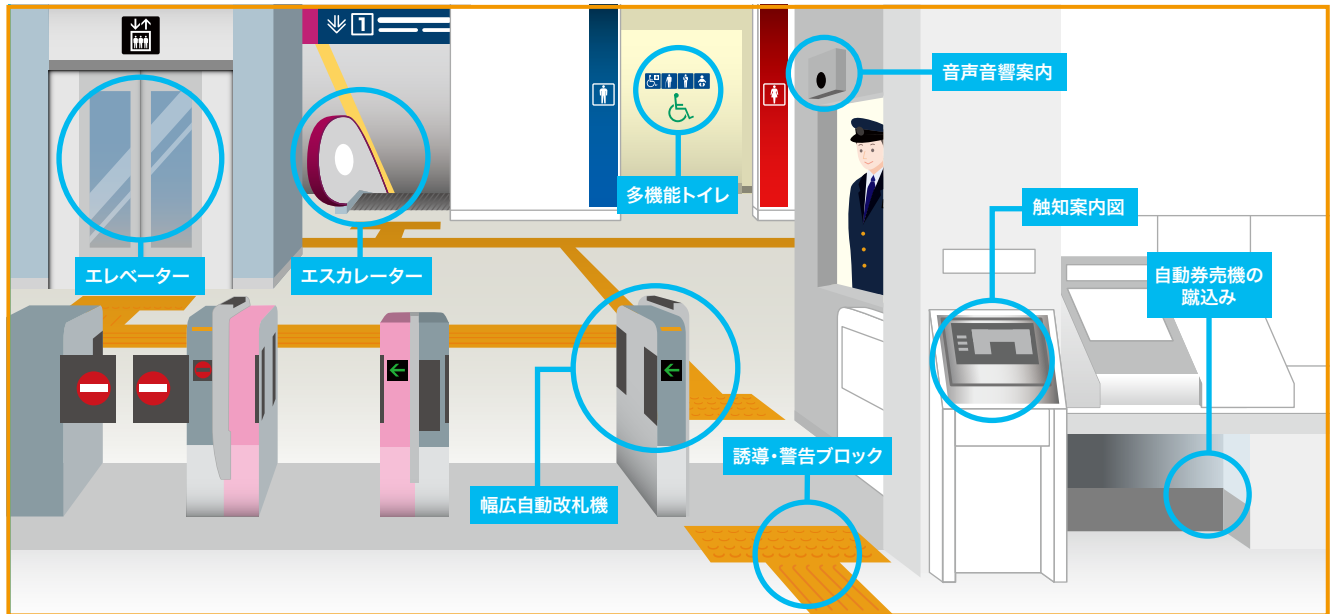
あじかファミリー会 支配人 特産事業部長

上野 茂

“貨客混載”の取り組みにより、飛騨高山の農産物を東京で味わってもらえる機会ができました。東京のスーパーで私たちの農産物が受け入れられるか当初は不安でしたが、今ではファンの方もいると聞いており、地元農家のステータスになっています。今後もファンを増やし出荷量の拡大を目指すとともに、この事業を通してより多くの方に高山の魅力を伝え、訪れていただくきっかけを生み出すことで、地元の活性化に貢献していきたいです。

お客様の利便性・快適性の向上

駅サービスの向上



▶ エレベーター・エスカレーター・スロープ

全駅の出入口から各ホームまで段差がなく移動できるよう、エレベーターやスロープを設置しているほか、エスカレーターを設置しています。エレベーターは66駅、エスカレーターは47駅に設置しています。

▶ 幅広自動改札機

車いすをご利用のお客様や大きな荷物をお持ちのお客様などにご利用いただけるよう、通路幅を広くした自動改札機を68駅に設置しています。

▶ 駅係員呼出インターホン

ホーム上で緊急事態が発生した場合やご案内が必要な場合などに、駅係員と通話ができるインターホンを全駅に設置しています。



▶ お客様用トイレの環境改善

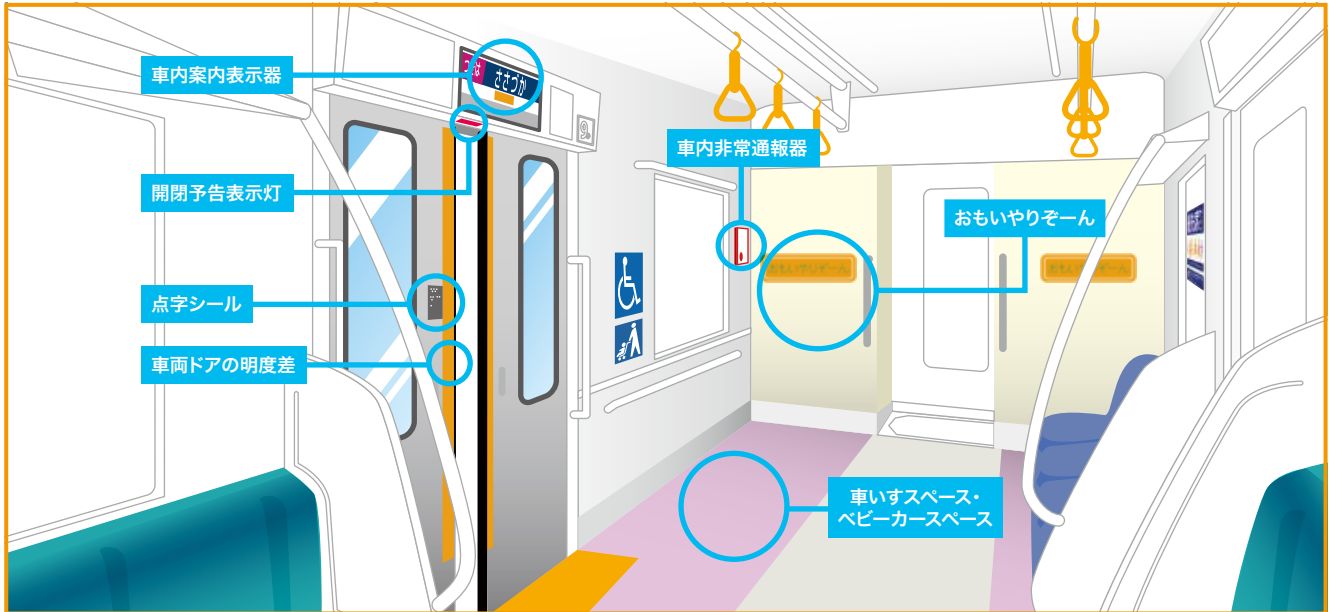
より快適で清潔感のあるトイレを目指して、改修を行っています。身体の不自由なお客様や小さなお子様連れのお客様にも安心してご利用いただけるよう、「多機能トイレ」を67駅に設置しています。

▶ 触知案内図・点字による案内

凹凸・点字・ピクトグラム(案内用図記号)を用いた構内案内図を全駅に設置しています。また、自動券売機には点字および音声案内機能を備えているほか、点字運賃表を全駅に、点字手すりを必要な駅すべてに設置しています。



➤ 車内サービスの向上



▶ おもいやりゾーン

車内の優先席を明確にするため、優先席付近のつり革や座席の色を変えた「おもいやりゾーン」を設置し、「おもいやりゾーン」付近では混雑時には携帯電話の電源をお切りいただくようご案内しています。

▶ 車いすスペース・ベビーカースペース

車いすスペース・ベビーカースペースを全編成に設置しています。また、既存車両のリニューアルに合わせ、順次増設を進めています。

▶ 女性専用車

2005年から平日朝間・夕間の時間帯で開始しました。女性専用車には女性のお客様のほか、小学生以下のお客様、身体の不自由なお客様とその介助者もご乗車いただけます。

▶ ユニバーサルデザイン

つり革や荷棚の高さを低くし、手すりやつり革は握りやすい形状にしています。また、座席端部には仕切り板を設置するなど、車内環境の整備を進めています。



ユニバーサルデザインによる車内の一例

▶ 点字シール

目の不自由なお客様が、ご乗車になっている車両の号車・ドア位置が分かるよう、車両のドアに点字シールを貼付しています。



➤ 駅・車内での情報提供

▶ お客さま案内ディスプレイ

通常時は電車の発車案内などを表示するほか、事故や災害などで列車の運行に支障が発生したときには、支障区間や振替輸送経路などを視覚的に分かりやすく表示するディスプレイを、全駅の改札口付近に設置しています。

また、一部のご案内については、英語表記でも行っています。



【通常時】

【異常時】

▶ 行先案内板

列車の発車時刻や種別・行先・停車駅などを文字でお知らせする行先案内板を全駅に設置しています。



▶ 駅ナンバリング

アルファベットと色で路線を示し、番号で駅名を表示した駅ナンバリングをホーム駅名看板や路線図に導入しています。



ホーム駅名看板



ナンバリング表示
(井の頭線・渋谷駅)

▶ サービススタッフ

電車のご利用に不慣れなお客様や海外からお越しのお客様にも安心してご利用いただけるよう、運賃、乗り場、駅周辺施設などを案内するスタッフを、新宿駅、新線新宿駅、渋谷駅、吉祥寺駅に配置しています。

▶ 外国語による情報提供

駅構内の案内看板や車内・車外の案内表示器などで、2カ国語(日・英)または4カ国語(日・英・中・韓)表記によるご案内を行っています。また、一部の車両には、自動放送装置を導入し、2カ国語(日・英)による停車駅や乗り換えなどのご案内を行っています。



番線案内サイン

車内案内表示器(液晶画面)

▶ 駅・電車内での公衆無線LANサービス

ホームやコンコースで、公衆無線LANサービス(Wi-Fi)がご利用いただけます。電車内でもご利用いただけるように順次整備を進めており、井の頭線では全車両に整備が完了しました。また、訪日外国人のお客様向け無料公衆無線LANサービス『KEIO FREE Wi-Fi』が京王線・井の頭線の11駅でご利用いただけます。

さらに、新型車両5000系の「KEIO TRAIN FREE Wi-Fi」サービスを提供しています。

⑤ グループの取り組み

▶バス

京王電鉄バスグループ・西東京バスは、路線バス(高速・貸切を除く)の全車両がバリアフリー対応となっています。車体が傾斜し乗降しやすくなるニーリング機能のあるノンステップバス981両をはじめ、リフト付きバス10両、スロープ付きワンステップバス11両を導入しています。



ニーリング機能付ノンステップバス

▶サポートタクシーサービス

●民間救急タクシー「サポートCab」

東京消防庁の救命講習を受講した乗務員が、緊急性が低く症状の軽い患者を搬送する民間救急タクシーサービスです。一刻を争うような重症患者に少しでも早く救急車を回す目的で導入しています。

●送迎サービス

「はぴママサポートタクシー」は、東京防災救急協会のマタニティーサポート講習を受講した乗務員による、妊娠中の外出時などにご利用いただけるサービスです。「はぴチルサポートタクシー」は、小学生の学習塾や習い事、学童保育への送迎時にご利用いただけます。



マタニティーサポート講習の様子



はぴママサポートタクシーロゴ

▶ホテル

京王プラザホテルでは、労使共催チャリティイベント「ボランティア・プラザ」を開催しています。2017年8月のボランティア・プラザでは、チャリティバザーや補助犬のデモンストレーションに加え、「全日本盲導犬使用者の会」協力のもと、京王電鉄駅係員やホテルスタッフが、駅やレストランでの盲導犬ユーザーサポート体験を行いました。



「ボランティア・プラザ」におけるサポート体験の様子

▶レストラン

レストラン京王が運営する「カレーショップC&C」の券売機では、3カ国語(日・英・中)表記によるご案内を行っています。また、一部店舗で、マレーシア政府のハラール認証※を取得した商品を提供しています。

※イスラム教徒の戒律にのっとり調理された商品であることを証するシステム



カレーショップC&C 券売機



お客様との対話

積極的な広聴活動

▶京王お客さまセンター

お客様からのご意見・ご要望をいただいています。

2017年度は36,823件の声を頂戴し、うち30,820件は鉄道に関するものでした。いただいた声に対しては、速やかに回答しているほか、担当部署においてサービス向上や従業員教育に活用しています。

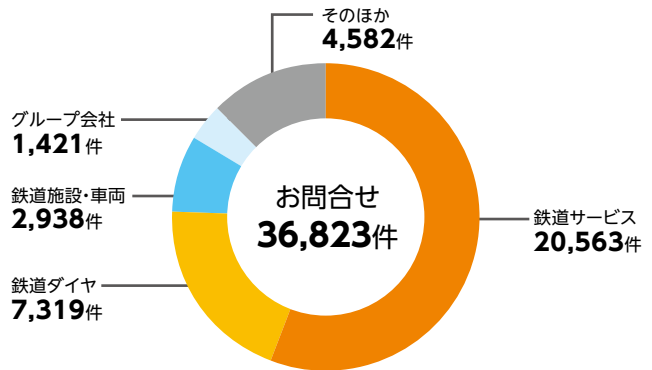
電話 042-357-6161

受付時間 9:00~19:00年中無休（年末年始を除く）

▶車内温度に関するご意見・ご要望

ご意見・ご要望が多い声の一つに、電車内の温度に関するものがあります。ホームページ上に投稿フォームをご用意し、詳細な状況を伺うことで、適切な温度管理に活用しています。

▶お客様の声(2017年度)



▶お客様満足度調査

電車の運行・ダイヤや、係員・駅施設のサービスレベルなどについて、お客様満足度調査を定期的に行っています。京王お客さまセンターには寄せられない、潜在的なご意見を伺うことで、問題点の把握と改善に努めています。

改善活動事例のご紹介

当社では京王ニュース内で、「お客様の声」のコーナーを設け、お客様の声を反映した事例などの紹介を行っています。

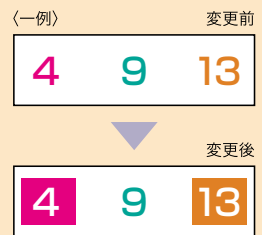
お客様の声

「視覚障がいを持っています。駅の時刻表の特急を示す「赤」と、急行を示す「緑」が区別しづらく困っています。」

改善しました

2018年2月のダイヤ改正にあわせて時刻表も変更し、色覚障がいをお持ちの方にも見やすいデザインに改善しました。

特急・準特急を白抜き文字にして、急行との違いを強調しました。色覚障がいをお持ちの方が列車種別を判別できるようデザインを変更し、よりご利用いただきやすい鉄道を目指しました。(2018年3月号掲載)



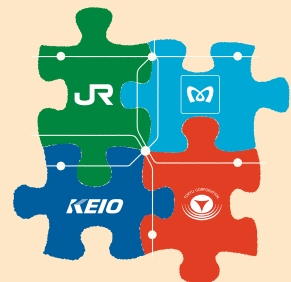
お客様の声

「新宿駅・渋谷駅などターミナル駅で接続する他社線の運行状況など、京王以外の鉄道会社の情報も、京王アプリで確認できるようにしてほしいです。」

改善しました

京王アプリが、鉄道3社の公式アプリと連携しました。

2017年11月末から、JR東日本アプリ・東京メトロアプリ・東急線アプリとの連携を開始しました。各社線の列車走行位置と時刻表などの情報をよりスムーズに確認できます。(2018年5月号掲載)



👉 ホームページや冊子における 多言語案内

▶ ホームページ・Facebook

京王ホームページでは、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、タイ語、フランス語での情報案内をしています。また、2018年3月に中国語（繁体字）のFacebookを開始し、訪日リピーターの多い台湾・香港のお客様によりタイムリーな沿線情報の提供を行っています。



中国語(繁体字)のFacebook

▶ 各種案内パンフレット・動画

京王電鉄では、外国人のお客様に京王沿線の観光スポットを紹介する冊子や動画などを配布・公開しています。西東京バスでは、バスの乗降ポイントを英語、中国語、韓国語で解説する動画を制作し、YouTubeで公開しています。



沿線紹介動画
One Day Fun Day! Ride the Keio Line

沿線情報誌(英語・中国語・タイ語)



西東京バス「バスの乗り方動画」

👉 その他のコミュニケーション

▶ 街はぴ

各駅の周辺ショップ・イベント情報について、地域の皆様がコミュニケーションをとりあえる沿線情報サイト「街はぴ」を運営しています。



街はぴ

▶ Facebook(けい太くん、プラットガール)

当社キャラクター「けい太くん」や「プラットガール」による事業情報、沿線情報の発信をしています。



けい太くんFacebook

▶ 交通教室

京王電鉄、京王電鉄バスグループ、西東京バスでは、地域の学校施設を訪問し、電車・バスの安全な利用の仕方やマナーについて動画などでわかりやすく授業を行っています。動画の教材は、京王ホームページやYouTubeなどでも公開しています。



授業の様子

けい太くん安全・マナー教室ビデオ



多世代が生活しやすい沿線づくり

京王グループでは、幅広い世代の方々が生活しやすくなるよう、ライフスタイルに応じたサービスをお届けしてまいります。

▶ 子育て支援の取り組み

子育て世代へ幅広いサービスを提供し、子育てしやすい環境づくりを行っています。

▶京王キッズプラッツ

認可保育所・東京都認証保育所「京王キッズプラッツ」は、家庭的な雰囲気の中、お子様一人ひとりの発達や気持ちに寄り添い、豊かな成長をサポートします。



京王キッズプラッツ

▶事業所内保育所「サクラさーくる」

多摩市の認可基準に基づく地域型事業所内保育所として、地域のお子様の受け入れも行っています。



事業所内保育所「サクラさーくる」

▶ 地域高齢者を支える事業

多様化するライフスタイルにあわせシニア向け住居の充実を図っています。シニア世代の不安・不便の解消とアクティブライフのサポートを行うことで、安心・安全・快適な住まいを提供します。

▶介護付有料老人ホーム「アリストージュ経堂」

バリアフリーの居室と魅力的な共用空間を有するシニアレジデンスで、ご入居者の身体の状況に応じて、生活サポートサービスや介護サービスなど様々なサービスを提供しています。



アリストージュ経堂

▶サービス付き高齢者向け住宅「スマイラス聖蹟桜ヶ丘」

快適な住み心地にこだわったバリアフリーの住戸と24時間体制の有人管理により、シニアの自由で安心な暮らしをサポートします。また、地域の方の利用も可能な在宅ケアサービスの拠点も併設しています。



スマイラス聖蹟桜ヶ丘

暮らしのお手伝い・健康増進

子育て世代からシニア世代まで家族みんなの生活にゆとりを届ける生活サポートサービスの提供を行っています。

▶京王ほっとネットワーク

●移動販売

沿線地域(多摩市内・日野市内・八王子市内など)にて日常の買い物に不便なお客様を対象に移動販売を行っています。



「移動販売」の様子

VOICE

地域コミュニティーを
活性化していきます



事業創造部 事業担当

坪井 悟

日常の買い物に不便を感じるご高齢の方が増えていることを受け、多摩ニュータウンを中心に移動販売サービスを展開しています。移動販売車に住民の方々が集まることで、地域コミュニティーの活性化が起きていていると感じています。販売場所によっては、移動販売が終了した後もお客様同士談笑していることも。ご利用いただいた方からは、「重いもの、かさばるものが近くで買って便利」「駅前まで行くのは大変なので助かる」といったお声をいただいています。

●家事のお手伝い

水まわりのお掃除やお洗濯などの家事全般を、経験豊かなスタッフがお手伝いします。



「家事のお手伝い」の様子

●住まいのリフォーム

給湯器交換や外壁塗装のほか、ライフスタイルにあわせたリフォームまで、住まいのことなら何でもご相談いただけます。

●空き家巡回

居住していない住居を定期巡回し、郵便物や施錠の確認、通水・換気や簡易清掃などを行い、写真付きでご報告します。少子高齢化が進む中、安心して暮らせる街並みを維持します。

●セルフ健康チェックサービス

沿線の方が、駅やショッピングセンターなどで手軽に健康チェックができる「京王・ケアプロ ヘルスケアキャラバン」を行い、日頃健康チェックをする機会が少ない方の健康管理を支援しています。

▶京王メモリアル

セレモニーホールの運営のほか、終活のお手伝いや相続準備、葬儀に関する心配事等、沿線にお住まいのシニア層やそのご家族の不安を解消するため、幅広いお手伝いを行っています。



終活相談の様子

地域社会への貢献

文化・教育・子育て支援イベント 京王アカデミープログラム



京王沿線には、今も息づく自然と、それらに育まれてきた歴史や、人々の営みによる独自の文化がかたちづくられています。沿線地域にある多様で豊かな文化資産を沿線の大学・団体などとの連携により、皆様とともに見つめ直し、ともに楽しむことを京王沿線のくらしへひろげる、学びプログラム。それが、「京王アカデミープログラム」です。

京王アカデミープログラムでは、沿線で過ごすお子様から大人まで幅広い世代に向けて、「文化」（歴史・文学・音楽・美術・自然・科学など）・「教育」・「子育て」に関する学びの機会を提案してまいります。ともに学び、ともに創り、ともに育つ。京王アカデミープログラムは、豊かな京王沿線のくらしに向かう、新しい「学び」のかたちです。

▶2017年度実施イベント

	実施イベント	対象	内容
教育	京王キッズおしごと隊	小学生と保護者	京王グループでの職業体験を通して、自分の将来の職業について考え、社会の仕組みを知るプログラム。(2009年から実施)
	高尾山峰中 修行体験合宿	小学3年～6年生	高尾山薬王院での座禅、法話、写経、水行などを通して、自然の中で学びながら心に残る思い出をつくるプログラム。(1970年から45回実施)
	親子で楽しむ はじめての百人一首かるた	4歳～小学2年生 と保護者	漫画『ちはやふる』の舞台のひとつである府中市立片町文化センターを会場に、競技かるたの講義やデモンストレーション、初心者の方でも楽しめる親子ペア対抗「源平戦」を体験するプログラム。
	高尾の森 親子森林体験スクール	小学4年～高校生 と保護者	裏高尾において植樹や下草刈りの体験、水生生物の観察などを通じて、森の大切さを学ぶプログラム。(▶P.83)
	親子でたのしく学ぶ 電車のしくみ	小学3年～6年生 と保護者	実験やクイズ等を用いて電車の仕組みを学び、電車や京王の環境対策について理解を深めてもらうプログラム。
文化	講演会 「明治維新150年 ～激動の時代と人物を考える～」	大人向け	「西郷どん」と薩摩藩についての基調講演および、幕府、新選組、薩摩藩、長州藩、土佐藩の専門家や研究家をパネリストに迎えた明治維新と人物を考えるシンポジウムを実施。
	沿線めぐり『「新国宝・白鳳仏と都内屈指の古刹～深大寺～」～その歴史と周辺の豊かな自然を巡り学ぶ～』	大人向け	2017年に国宝指定された「銅造釈迦如来像(白鳳仏)」にちなみ深大寺や神代植物公園等周辺の魅力を再発見するプログラム。
子育て	子育てサロン ～音感・リズム感を育む、 親子の体験音楽会～	4～6歳と保護者	桐朋学園大学と連携し、講師の多彩な演奏や、身近なものを使って親子で作った打楽器による合奏を体験するプログラム。

▶ イベントの様子

● 京王キッズおしごと隊



● 高尾山 峰中修行体験合宿



● 親子で楽しむはじめての 百人一首かるた



● 親子で楽しく学ぶ 電車のしくみ



● 講演会 「明治維新150年～激動の時代と人物を考える～」



● 沿線めぐり「新国宝・白鳳仏と都内屈指の古刹～深大寺～」～その歴史と周辺の豊かな自然を巡り学ぶ～」



● 子育てサロン ～音感・リズム感を育む、親子の体験音楽会～



子育てサロン参加者の声



保護者様

なかなか子どもと音楽を聴きに行くことができないので、私にとっても子どもにとっても良い体験でした。

子どもも楽しそうに合奏に参加していました。本物の音楽に触れる・感じる・体験することができる貴重な機会をありがとうございました。

▶ チャリティ・スポーツ振興・産学連携

▶ スポーツ振興

テニス、サッカー、バスケットボール、軟式野球など、沿線地域で開催されるスポーツイベントに協賛し、地域の皆様の健康な暮らしづくりを応援しています。



京王少年少女サッカーフェスティバル



京王電鉄杯10大学バスケットボール・チャリティマッチ

▶ 京王駅伝フェスティバル

2013年から、駅伝競技や親子ランのほか、キャラクターや学生・団体によるパフォーマンス、鉄道イベントなどを味の素スタジアムにて実施しています。参加料の一部は、「東日本大震災みやぎこども育英募金」「いわての学び希望基金」「東日本大震災ふくしまこども寄附金」へ寄付しています。



京王駅伝フェスティバル

▶ 京王音楽祭

1994年から24回実施しています。京王駅伝フェスティバルと同様に、入場料の一部を東日本大震災により被災した子どもたちのために寄付しています。



京王音楽祭

▶ 地域行事への参加(八王子まつり)

八王子まつりのイベント参加や、八王子まつり翌日の清掃活動を2017年から実施しています。



八王子まつり翌日の清掃活動の様子

topics

■ 京王観光がスポーツ分野に関する2件の認定を受けました。

京王観光ではスポーツセールス専門の部署を設置し、中央競技団体、プロスポーツ、トップリーグといった様々な団体の遠征やイベント、国内・国際大会のオペレーションサポートやスポンサードを行っています。

また、「京王カップ高等学校女子バレーボール大会」や「京王カップ2018マスターズ水泳大会」などのスポーツ大会を主催し、取引先の協会、連盟、学校等と連携しながらスポーツ競技会の場を提供しています。2017年度にはスポーツ庁から「スポーツエールカンパニー」、東京都から「東京都スポーツ推進企業」に認定されました。



〈スポーツエールカンパニー〉



〈東京都スポーツ推進企業〉

地域社会・行政との連携

沿線自治体との連携

▶ コミュニティバス

東京都内では、自治体を中心となって、コミュニティバス路線を開設しています。京王電鉄バスグループと西東京バスは、利便性の高い街づくりに貢献するため、以下のバス路線を受託・運行しています。

■ コミュニティバスの運行受託状況

名称	自治体	運行
① 日野市ミニバス	日野市	京王電鉄バス
② 多摩市ミニバス	多摩市	京王バス南
③ 調布市ミニバス	調布市	京王バス東
④ るのバス	あきる野市	西東京バス
⑤ すぎ丸	杉並区	京王バス東
⑥ CoCoバス	小金井市	京王バス中央
⑦ ぶんバス	国分寺市	京王バス中央
⑧ はちバス	八王子市	西東京バス
⑨ ちゅうバス	府中市	京王バス中央
⑩ ハチ公バス	渋谷区	京王バス東
⑪ はむらん	羽村市	西東京バス
⑫ 新宿WEバス	新宿区	京王バス東
⑬ みたかシティバス	三鷹市	京王バス東

▶ PFI事業

東京都のPFI事業として多摩地域ユース・プラザ整備等事業を京王ユース・プラザが受託し、閉校した都立高校を改修して「高尾の森わくわくビレッジ」を開館し、施設の運営、維持管理業務を行っています。



高尾の森わくわくビレッジ

※PFI…公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金やノウハウを活用することにより、公共サービスの提供を行う事業手法

■ PFI事業の受託状況

物件名	主な業務活動
高尾の森わくわくビレッジ	運営全般・施設維持管理など
杉並公会堂	施設維持管理・イベントなどの企画運営
ルミエール府中	施設維持管理・窓口運営
東京地方・家庭裁判所立川支部	施設維持管理
稲城市立iプラザ	施設維持管理

▶ 指定管理

京王グループでは、「武蔵野の森総合スポーツプラザ」や、「高尾599ミュージアム」などの指定管理者として、自治体の施設などの管理・運営を行っています。

topics

■ サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」開業

2018年秋に、京王プラザホテル多摩2階にサテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」を開業します。本施設は、東京都の「サテライトオフィス設置等補助事業」の第一回採択事業となりました。

▶P.68

今後の取り組み～仕事、子育てを支援する取り組み～ 参照

中部地方の自治体との連携

▶P.51 topics

中央道の高速バスエリアの地域活性化 参照

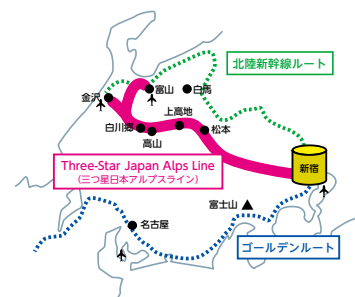
▶ 中部地方インフォメーションプラザin京王新宿

岐阜県・長野県・山梨県の自治体等が集結した観光案内所です。「三つ星日本アルプスライン」の拠点である新宿にて、中部・北陸方面へのお得な高速バス乗車券の販売を行っているほか、観光イベントなどを通じて地域の魅力を発信しています。

▶ 三つ星日本アルプスライン

(英語名: Three-Star Japan Alps Line)

中央道を主体に高速バスや地域の路線バスを使って新宿と中部地方を旅行することができる広域の観光ルート。「三つ星日本アルプスライン」と名付け、地域の観光産業の活性化に貢献しています。



人材の活用と働きやすい職場づくり

人権・労働安全衛生

人権・労働に対する基本的な考え方

京王グループは、京王グループ行動規範に基づき、人権研修を実施するなど働きやすい職場づくりを目指しています。



人権研修

メンタルヘルスケア

法令に基づくストレスチェック制度を実施、社員本人へは自分のストレス状態を通知し、職場長には組織についての現状分析を報告しています。高ストレスと判断された社員に対しては産業医との面談を促し、専門医による相談窓口も設置しています。また、研修等においてメンタルヘルスに関する情報提供を実施しています。



医師による面談

ハラスメント防止

京王グループ各社では、ハラスメント防止のために研修を実施するとともに、相談窓口も設置しています。

topics

2年連続で「健康経営優良法人(ホワイト500)」に認定

当社では、社員の健康維持増進に関する活動目標と具体的な活動計画を定め、疾病予防・早期発見と健康増進に努め、社員が能力を十分に発揮できる環境づくりに取り組んでいます。

健康経営優良法人認定にあたっては、社員の健康課題を把握し対応していること、各種施策の結果の把握・効果検証の取り組みなどが評価されたものと考えています。今後も、時流をとらえた課題やニーズを踏まえたうえで、社員の健康維持増進に資する施策に積極的に取り組んでいきます。



当社の健康経営に関する主な取り組み

実施項目	対象	内容
「若メタボ」対策	39歳以下、BMI男性28以上、女性27以上の社員	産業医、保健師、管理栄養士等による生活習慣改善指導を実施しています。
健康増進施策 「京王ヘルスチャレンジ2018」	全社員	ウォーキングを主体とした通年の健康イベントを実施しています。
衛生講演会	全社員(グループ会社含む)	産業医や外部有識者による健康をテーマとした講演会を年2回開催しています。
がん検診勧奨	35歳以上の社員	大腸がん検診キットの対象全社員への配布を行っています。
メンタルヘルス対策	全社員	ストレスチェック結果に基づく職場環境の改善、高ストレス者への面談等を実施しています。
長時間労働の是正	本社員	業務の効率化に取り組んでいるほか、ノー残業デーの設定や深夜残業の原則禁止、サテライトオフィス(新宿三丁目・調布)の活用等の施策を実施しています。また、2017年度からフレックスタイム制度を拡充し、勤務時間の柔軟化を図っています。

▶ 労働安全衛生委員会

「安全・衛生のひろば」を定期的で開催しているほか、安全衛生概況や安全衛生委員会の活動状況などについて社内掲示板を活用し、周知しています。



安全・衛生のひろば

▶ 衛生講演会を開催

当社では、定期的に衛生講演会を開催し、診療所の産業医および医療スタッフが、健康に関する講演を行っています。

➤ 人材雇用

▶ 公正な採用方針

京王グループは、公正採用選考人権啓発推進員制度(厚生労働省)に基づいた採用活動を行っています。

▶ 人材雇用に関するデータ

■ 従業員数、平均年齢

	従業員数(人)	平均年齢(歳)
2013年度	2,385	40.2
2014年度	2,416	40.3
2015年度	2,447	40.2
2016年度	2,497	40.3
2017年度	2,518	40.4

■ 平均勤続年数

男性	20年0カ月
女性	11年8カ月

➤ 働きやすい職場環境づくり

▶ 働きやすい職場環境づくりに向けた調査の実施

2011年から社員一人ひとりが主体的に働きやすい職場環境づくりをするために、無記名式アンケートによる「従業員意識調査」を実施しています。2016年に実施した調査では、対象2,779名のうち96.4%から回答があり、従業員の満足度は概ね良好な結果が得られました。調査結果は、社内でご発表し、課題の共有を図っています。

■ 月ごとの平均所定外労働時間(正社員対象)

	男性	女性
2013年度(2013/8~2014/7)	31.5	20.6
2014年度(2014/8~2015/7)	29.5	17.9
2015年度(2015/8~2016/7)	30.0	19.8
2016年度(2016/8~2017/7)	27.4	17.3
2017年度(2017/8~2018/7)	29.3	19.0



適正な労働時間管理や当社諸制度に関する説明を行う様子

▶ 年休の取得率向上に向けて

「計画的な年次有給休暇の取得推奨」「年次有給休暇の半日単位付与」などにより休暇の取得を推進しており、2017年度の年次有給休暇の取得率は82.1%となっています。

▶ 柔軟な働き方の実現

本社勤務者等を対象として、「フレックスタイム制度」を導入しています。2017年度からフレキシブルタイムを拡大し、より柔軟な働き方を可能としました。

また、新宿と調布に「サテライトオフィス」を整備しています。これにより、外出先と本社間の移動に要していた時間を短縮でき、業務の効率化による生産性の向上、育児・介護に携わる社員の勤務時間確保などにつながります。

ダイバーシティ・マネジメントの推進

仕事・育児・介護の両立支援

育児・介護ともに休業制度・短時間勤務制度について、法定以上の制度を整備しています。

また、鉄道事業の現業職場の一部では泊まり勤務という特性がありますが、駅係員と乗務員の勤務ダイヤに日勤ダイヤを設定することで、育児または介護に従事する社員が同じ仕事を続けることを可能にしています。

その他、育児・介護が理由で退職した社員を対象とした再入社制度など、育児期・介護期について多様な働き方を選ぶことができる環境を用意しています。

■ 育児休業取得者数・育児休業復帰率

	取得者数(人)	うち男性(人)	復帰率(%)
2013年度	30	1	100.0
2014年度	33	1	91.7
2015年度	28	4	95.7
2016年度	29	4	100.0
2017年度	40	7	100.0

VOICE

育児休暇で
家族の絆がより一層
深まりました



鉄道営業部 京王新宿管区 営業掛兼信号掛

芦野 太郎

第2子出産時に、職場の協力のもと73日間の育児休業制度を利用しました。休業中は2歳の長女の保育園の送迎や家事全般を行い、出産前後の妻の不安を少しでも軽減できるように努めました。家族力を合わせて第2子の誕生を迎えることができたことで、さらに絆を深めるきっかけになったと感じています。仕事と育児と忙しい毎日ですが、子どもたちから自慢されるような父親になりたいです。

ライフステージに応じた両立支援

2017年12月より、積立てた年次有給休暇を不妊治療を行うために行使できる制度や、カフェテリアプラン制度を活用し治療費の補助を受けられる仕組みを整え、育児や介護だけでなく幅広い両立支援を実施しています。

女性の活躍

従来男性中心だった職場においても女性が活躍しており、グループ会社社長や、2014年6月からは女性の大学教授が社外監査役として選任され就任しているほか、2016年7月には初の女性現業長が誕生しました。

■ 女性社員の活躍推進に向けた目標設定

2016年4月1日から施行された「女性活躍推進法」に関する取り組みとして、当社は行動計画において、女性の課長級以上の管理職人数を2021年3月までに2016年4月と比較して5割増とする数値目標を設定しました。

目標達成のために

- ①「ダイバーシティ推進担当」の新設
- ②女性総合職の新卒採用人数を総合職新卒採用人数全体の30%以上とする
- ③仕事と家庭の両立をさらに充実すべく、より働きやすい職場を目指し、諸制度の見直しおよび新設を検討・実施する

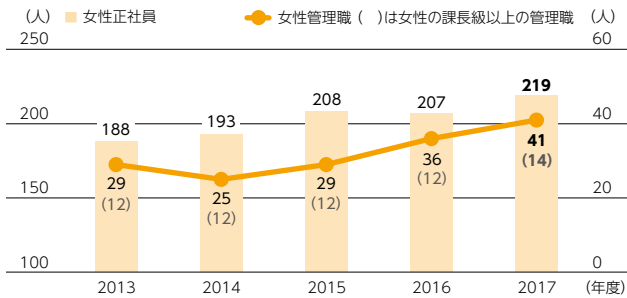
■ 管理職における女性人数と比率(当社)

	管理職総数(人)	うち女性(人)	女性比率(%)
2013年度	295	16	5.4
2014年度	300	12	4.0
2015年度	314	16	5.1
2016年度	328	23	7.0
2017年度	340	27	7.9

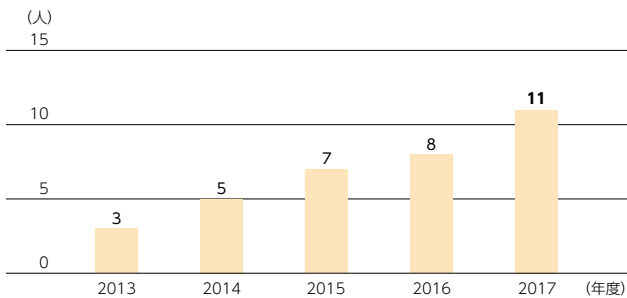
■ 採用した社員(新卒・総合職)のうち女性の占める割合

2014年度入社	26.3%(19人中5人)
2015年度入社	15.8%(19人中3人)
2016年度入社	23.8%(21人中5人)
2017年度入社	42.1%(19人中8人)
2018年度入社	51.7%(29人中15人)

■ グループ会社への出向を含む当社女性正社員と女性管理職の推移(休職者を除く)



■ 京王グループ女性役員数の推移



VOICE

チャレンジングな仕事
に大きなやりがいを感じています



京王フェアウェルサポート株式会社 代表取締役社長

長谷川 尚美

2014年の会社設立時に社長就任以来、3館のメモリアルホールを開業し、葬祭事業への進出と事業の拡大を推進してきました。当時保育園児2人を育児中だった私を社長にした会社の度量と、日々の周囲の方の理解と支えに心から感謝しています。子どもたちも、「社員の子どもによる職場見学会」を通じて私の仕事に関心を持ち、応援してくれています。制度のみでなく、実際に多くの女性社員がその人らしく活躍している姿に、私自身も刺激をもらっています。

▶ 外国籍の方の採用

京王グループの事業領域拡大を目指し、成長市場である新興国への進出を検討・推進しています。海外関連事業の拡大に伴い、外国人の総合職社員を採用しており、現在3名が活躍しています。

▶ 高齢者再雇用

高齢者などの雇用の安定などに関する法律の2度の改正に対応して、定年退職した社員を再雇用する「継続雇用制度」を2006年に創設し、2013年に再構築しました。

2017年度の再雇用割合*は79%でした。

*該当年度における継続雇用者数/定年退職者数

■ 継続雇用者総数

2013年度	180人
2014年度	191人
2015年度	202人
2016年度	221人
2017年度	224人

▶ 障がい者雇用

2004年に特例子会社「京王シンシアスタッフ」を設立しました。2006年からは、関係会社特例認定を取得し、京王グループ全体の障がい者雇用も拡大し、社内施設の清掃業務、名刺作成、事務補助作業などに従事しています。当社では、2016年度から「障害者相談窓口」を設置しています。

■ 障がい者雇用と雇用割合

	障がい者数(人)*	実雇用率(%)**
2013年度	159	2.4
2014年度	163	2.4
2015年度	170	2.5
2016年度	181	2.6
2017年度	181	2.6

*障がい者雇用促進法に定める計算方法に基づく



名刺作成の様子

➤ 社員のキャリア支援

当社では、若手社員から中堅社員、正社員から非正規社員に至るまで様々な社員が自律し、長期にわたって活躍できるように、社員のキャリア支援に取り組んでいます。

▶ 社員のキャリア支援に関する主な取り組み

実施項目	内容
キャリアデザインシートおよびキャリア面談	社員の自律性を高めることを目的とし、社員が自らのキャリアを考え、主体的に能力開発を進めていく仕組みとして「キャリアデザインシート」の導入や上司との「キャリア面談」を実施しています。
キャリアチャレンジ制度	自らのキャリアを自身で変革する機会を提供することを目的として、人材公募制度である「キャリアチャレンジ制度」を導入しています。
社外派遣制度	当社では得られない経験・スキルの習得や、自社とは異なる環境に身を置くことによる自律心や忍耐力の体得を目的とし、グループ外の企業に一定期間社員を派遣する制度を導入しています。
トライアルコース研修	経営層が考える会社のビジョンや仕事観等を直接社員が聞き、意見交換を行う場として「トライアルコース研修」を実施しています。
生き方・働き方プランニング研修	50歳を迎えた社員に対し、「これからありたい自分」になるには今後なにをすべきか修得するための機会として「生き方・働き方プランニング研修」を実施しています。
正社員登用制度および特定社員制度	非正規社員から正社員への登用制度、有期雇用の非正規社員を無期雇用へと変更する特定社員制度を整備しています。

今後の取り組み ～仕事、子育てを支援する取り組み～

2018年秋に、京王プラザホテル多摩2階にサテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」を開業し、2019年春に、京王多摩センター駅近くの京王相模原線高架下に「企業主導型保育所」の開設を予定しています。ラッシュ時間帯を避けて通勤したい方や、子育て・介護などと仕事の両立を図りたい方が、自宅近くのサテライトオフィスとして利用できます。勤務先が企業主導型

保育所の提携企業となれば、保育所付サテライトオフィスとしても利用できます。

ベッドタウンである多摩センターに「働く場所」を開業し、沿線の様々な方々の交流、協働、イノベーション、創業を促し、多摩センターエリアへの新たな来訪者を増やすことで、沿線価値向上につなげます。



京王プラザホテル多摩



サテライトオフィス「KEIO BIZ PLAZA」

株主・投資家・取引先等への取り組み

株主・投資家の皆様との対話

▶ ディスクロージャー・ポリシーに基づいたIR活動 (Investor Relations)

株主・投資家への情報開示に向けた基本的な考え方として、2006年4月に「ディスクロージャー・ポリシー」を制定し、これに基づきIR活動を実施しています。当社グループの業績や中長期計画を中心とした財務情報の提供に加えて、当社グループの将来像やCSRに関する取り組みなどについて、株主・投資家と活発な対話（意見交換）を行うとともに、得られた声を社内で共有し、適切に経営に反映させるよう努めています。

▶ 株主・投資家との対話事例

取り組み	時期	内容
決算説明会	年2回	社長をはじめとした経営陣幹部が、証券アナリストや機関投資家に対して、当社グループの業績や将来像などを説明するとともに、質疑応答を行い、経営陣幹部の考えを直接伝えています。
スモールミーティング	適宜	「京王グループ中期3カ年経営計画(2018年度～2020年度)」の内容への理解を深めていただくため、2018年5月に、十数名の証券アナリストや機関投資家と、財務・情報開示担当役員との間でミーティングを開催しました。
個別取材	年50件以上	IR業務の担当者が、証券アナリストや機関投資家と個別に面談し、業績の内容や事業の具体的な取り組みなどについて、1回あたり約1時間の意見交換を行っています。
施設見学会	適宜	実際の物件を見学することで事業内容の理解を深めていただくため、証券アナリストや機関投資家を対象に、2017年8月に、商業施設「トリエ京王調布」の見学会を開催しました。また、個人株主を対象に、2017年8月に「若葉台工場」および「京王れーるランド」の見学会を開催しました。
ホームページでの情報開示	適宜	投資判断に影響を及ぼすと考えられるIR情報を、当社ホームページに積極的に開示しています。公平性のさらなる向上を図るため、2018年5月に、「2017年度決算説明会 主な質疑応答」を新たに開示しました。



決算説明会



個人株主向け 若葉台工場見学会



個人株主向け 京王れーるランド見学会

取引先への取り組み

▶ 公正・誠実な購買活動の推進

京王電鉄行動基準において、一般的なビジネス慣習に則り、相互に利益を享受できる関係を構築することを定めています。

また、当社の経理部資材担当による定期的な取引先訪問も実施し、製造工程の現地監査や改善のアドバイスを行っています。

▶ パートナーシップの強化

2018年2月に取引先との懇親会を開催し、対話や交流を通して、信頼関係構築につなげました。



取引先との懇親会の様子

環境保全の推進

● 環境マネジメント P.74

- 推進体制
- 監査・教育・コミュニケーション
- 中期環境目標の進捗状況

● 低炭素社会を目指して P.76

- 鉄道における電力・CO₂排出量削減の取り組み
- グループによる電力・CO₂排出量削減の取り組み
- 再生可能エネルギーの活用



● 環境関連データ P.84

- 環境負荷の把握
- 環境会計

● 自然共生社会を目指して

 P.82

- 生物多様性の取り組み



● 循環型社会を目指して

 P.80

- 資源の有効活用



メッセージ



常務取締役
(環境管理責任者)

保木 久仁彦

持続可能な社会の実現を目指し、 多角的な環境活動を継続して推進します

京王グループは、「京王グループ環境基本方針」「生物多様性行動指針」に基づき、環境にやさしい企業集団を目指しています。環境マネジメントシステムも運用を開始して14年目を迎え、設定した環境目標をすべての職場で達成するためのPDCAサイクルを着実に回しています。

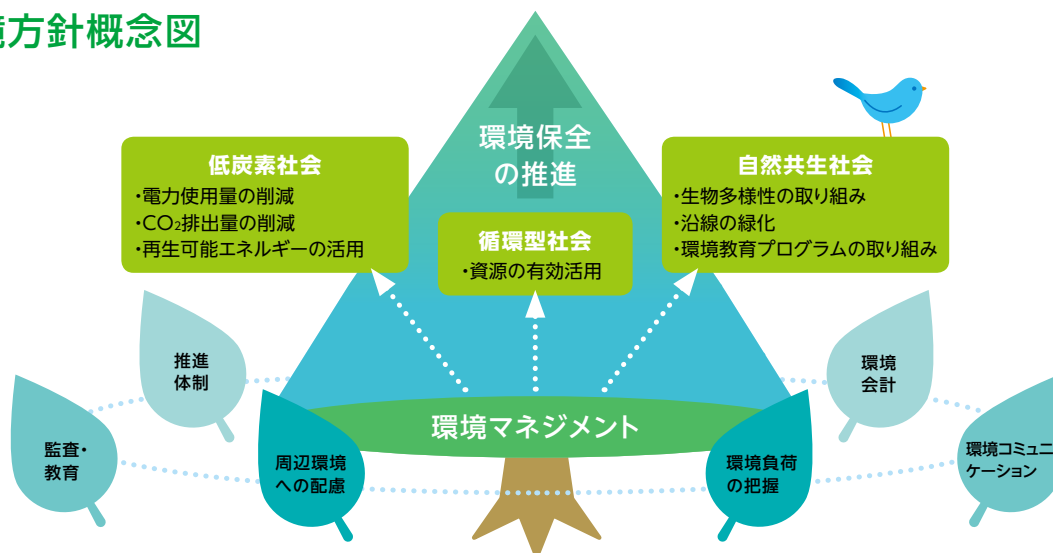
鉄道事業部門においては、走行用電力を大幅に抑制するVVVFインバータ制御装置を大手私鉄で初めて全営業車両に導入していますが、さらに省エネルギー性能の高い新型VVVFインバータ制御装置への切り替えを順次進めています。また、新型車両5000系においては、新型VVVFインバータ制御装置やLED照明に加え、当社初となる車上蓄電池システムを導入しています。バス、タクシー事業におけるハイブリッド車の導入なども含め、車両の省エネルギー化を推進しています。

また、開発事業部門では東京都が定める基準値を上回るCO₂排出量の削減を図ったほか、高尾山や多摩川をはじめとする沿線自然環境の保全に努めてきました。さらに、再生可能エネルギーへの取り組みとして、神奈川県相模原市に続き、2019年秋に岩手県宮古市で太陽光発電事業を開始します。

こうした取り組みが評価され、日本経済新聞が毎年実施している「日経環境経営度調査」において、鉄道業界では昨年に続き1位となりました。

今後も、中期環境目標で掲げた電車の運転用電力の削減や、保有する大規模ビルにおける東京都環境確保条例のCO₂排出量削減について、期限内の達成を目指すとともに、環境教育プログラムを継続実施することなどにより、グループ環境経営を推進し、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現を目指していきます。

▶ 環境方針概念図



環境方針

基本的な考え方

2000年11月に環境基本方針を制定し、環境法令遵守をはじめ、省エネや廃棄物削減、リサイクル、環境教育の

実施などを推進してきました。その後、環境保全はグループ共通の課題であるとの認識から、2004年12月に「京王グループ環境基本方針」を制定し、環境マネジメントシステム(EMS)の継続的運用を通じて浸透を図っています。

京王グループ環境基本方針	生物多様性行動指針
<p>私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。 2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。 3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。 4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。 5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。 6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。 7. これらの環境保全活動を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組みます。 <p style="text-align: right;">2004年12月9日制定</p>	<p>私たちは、生活に身近な事業を展開していくなかで、自然の恩恵を継続的に享受していることを認識し、持続可能な利用や自然と共生する社会の実現に向け、生物多様性に配慮した事業活動を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業活動がおよぼす環境への影響把握 事業活動と生物多様性とのかかわり(恵みと影響)を把握するように努め、取り組みの必要性に対する認識を高めます。 2. 自然環境の確保と保全 事業活動における自然環境への影響の回避または低減に取り組むとともに、緑化を推進し、地域の豊かな自然環境の確保と保全に努めます。 3. 資源循環の推進 資源の利用が生物多様性におよぼす影響を低減するために、グリーン購入など環境に配慮した調達や3R活動(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、環境負荷低減に努めます。 4. ステークホルダーと連携した生物多様性の保全 従業員をはじめ、取引先企業、お客様など多くのステークホルダーと連携し、情報の発信と収集を行いながら生物多様性の保全に努めます。 <p style="text-align: right;">2010年9月8日制定</p>

中期環境目標

鉄道事業部門	開発事業部門
<p>電車の運転用電力を2020年度に10%削減(2012年度比)</p> <p>省エネルギー化を図るため、新型VVVFインバータ制御装置の導入を進めていくほか、車内照明のLED化を順次実施していきます。</p> <p>これらの環境施策に継続して取り組むことで、2020年度における運転原単位(1車両が1km進む際に使用する電力量)を2012年度比で10%削減することを目指します。</p>	<p>東京都のCO₂排出量削減義務(17%)の達成</p> <p>第1計画期間に引き続き、第2計画期間(2015年度～2019年度の5カ年)では、照明のLED化等の省エネルギー施策の推進を図るだけでなく、各種クレジット制度の活用や運用方法の改善を図り、部門一体となって目標達成を目指します。</p>

環境マネジメント

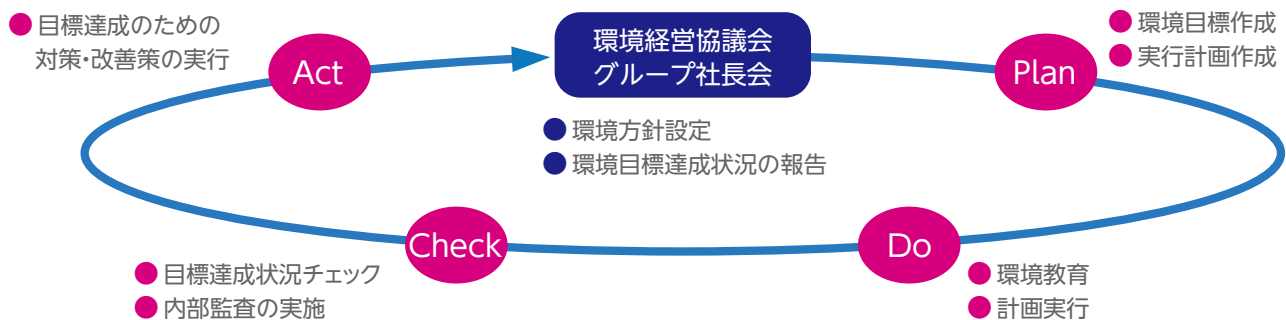
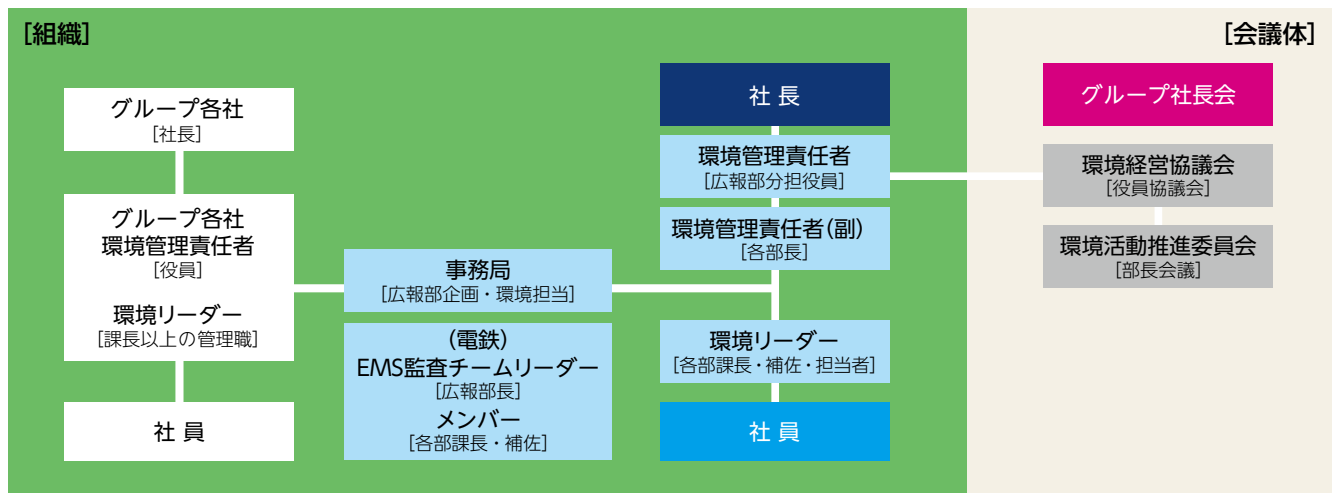
▶ 推進体制

当社は鉄道現業を含めたすべての職場において、ISO14001を参考に独自のEMSを構築・推進し、環境経営協議会において経営層へ報告・承認を受けています。また、グループ社長会を通じて各社に環境マネジメントを

徹底しています。

グループ会社では、ISO14001を3社、グリーン経営認証を6社、エコアクション21を1社で取得し、その他の各社はISO14001またはエコアクション21を参考にしたEMSに取り組んでいます。

▶ 京王グループEMS推進体制



▶ 京王グループ各社の第三者認証取得状況

分類	会社名
ISO14001	認証取得(3社) ● 京王設備サービス ● 京王建設 ● 京王エージェンシー
グリーン経営認証	認証取得(6社) ● 京王電鉄バス ● 京王バス東 ● 京王バス中央 ● 京王バス南 ● 京王バス小金井 ● 京王運輸
エコアクション21	認証取得(1社) ● 東京特殊車体

▶ 監査・教育・コミュニケーション

▶ EMS内部監査

EMSの有効性と社員の自覚を確認するため、毎年各部署管理職1人以上のEMS監査員を選出し、新任監査員は有限責任監査法人トーマツによる専門教育を受けた後、部署間相互による内部監査を実施しています。

▶ 環境教育

環境意識やEMS理解度の向上など必要性を明確にした上で、環境教育を実施しています。

■ 主な教育実績(2017年度)

名称	時期	対象	人数
京王グリーンキャンペーン	5月	グループ社員、一般	1,003名
EMS監査員養成研修	12月	新任監査員	2名
環境eラーニング	1月	京王電鉄社員	1,482名
廃棄物管理勉強会	3月	グループ実務担当者	40名
廃棄物処理施設視察会	3月	グループ実務担当者	24名

▶ CSR・環境コミュニケーション

京王グループの活動に関する情報は、以下の媒体で公表しています。



京王子ども百科



京王ニュース



京王ホームページ

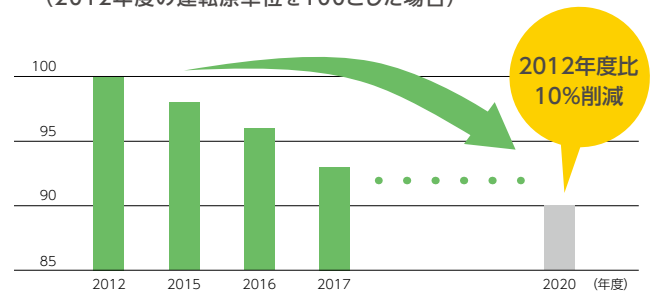
▶ 中期環境目標(P.73)の進捗状況

▶ 鉄道事業部門

2020年度における運転原単位(1車両が1km進む際に使用する電力量)を2012年度比で10%削減することを目指します。2017年度は2012年度比で約7%の削減となりました。

■ 電車の運転用電力削減推移

(2012年度の運転原単位を100とした場合)



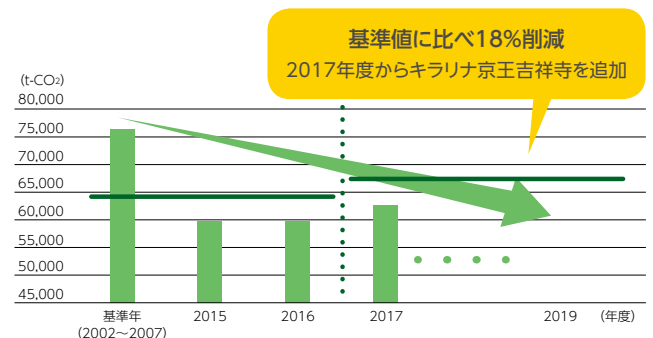
※車両の走行に関する性能(理論値)に限定して原単位を算出しています。

▶ 開発事業部門

東京都のCO₂排出量削減義務(17%)の達成を目指します。2017年度のCO₂排出量は62,619t-CO₂となり、排出基準量の約18%の削減となりました。

■ 大規模ビル9物件のCO₂排出量削減実績と目標

(東京都環境確保条例の削減義務 第2計画期間)



※京王プラザホテル(新宿)、京王プラザホテル八王子、京王プラザホテル多摩、京王品川ビル、京王八王子明神町ビル、京王百貨店新宿ビル、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター、京王八王子ショッピングセンター、2017年度からキラリナ京王吉祥寺を追加

※「基準値」とは、2002~2007年度のうち任意の連続した3カ年におけるCO₂排出量の平均値をいいます。

低炭素社会を目指して

● 鉄道における電力・CO₂排出量削減の取り組み

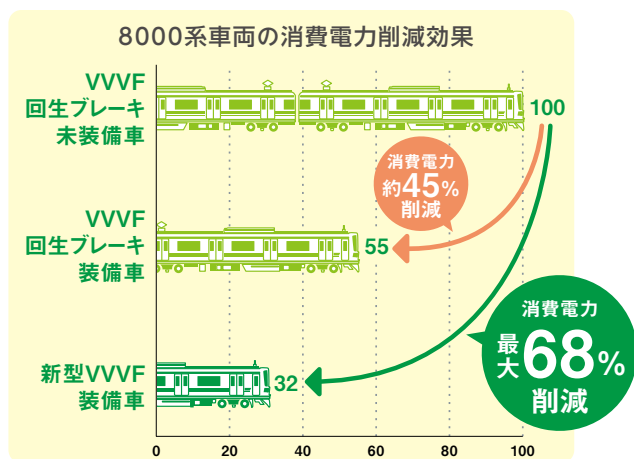
鉄道事業では1年を通じて多くの電力を消費することから、少ないエネルギーで効率的に動くことができる「環境にやさしい鉄道」を目指しています。

▶ 走行用電力の削減

● VVVFインバータ制御装置

VVVFインバータ制御装置とは、電車の加速力や速度などに応じて電圧や周波数を変化させながらモーターを効率良く動かす装置です。1992年以降に導入を開始し、2012年に大手民鉄で初めて全営業車両への装備を完了しました。

2015年からさらに消費電力削減効果に優れた新型VVVFインバータ制御装置の本格導入を開始しています。2017年度には、5000系5編成、8000系3編成、1000系3編成に導入しました。



(注) 横軸は未装備車の使用電力量を100とした場合の数値

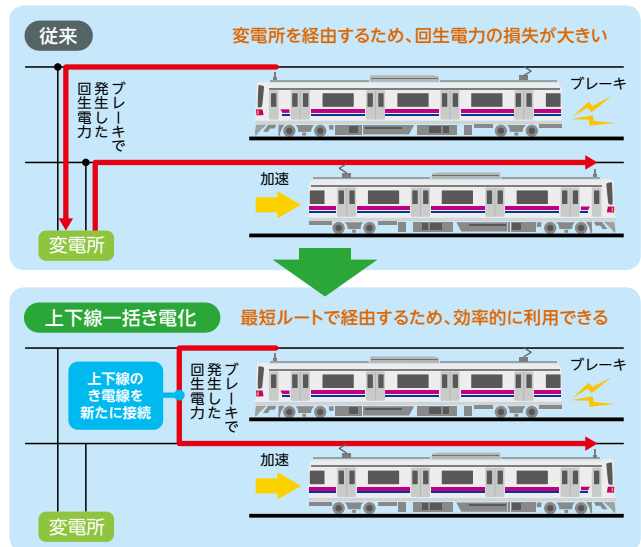
▶ 走行用電力を再利用する

● 回生ブレーキ

回生ブレーキとは、電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として作動させ、発生した電力(回生電力)を架線に戻すことで他の電車が使えるようにする装置です。1999年に全車両への装備が完了しています。

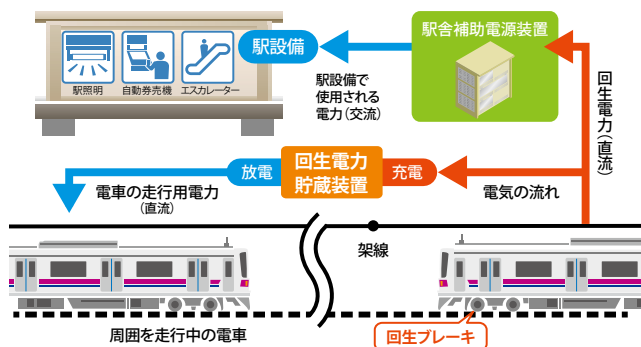
● 上下線一括き電化

電車に電気を供給する上り線と下り線のき電線を接続することで、他の電車に回生電力を最短ルートで送り、送電の損失低減を図る設備で、井の頭線で整備しています。



● 駅舎補助電源装置

回生電力を駅設備で使用される電力に変換して、駅の照明や空調、エスカレーターなどに供給する装置で、東府中駅、高幡不動駅、北野駅に導入しています。



▶ 蓄えた電力を利用する

● 回生電力貯蔵装置

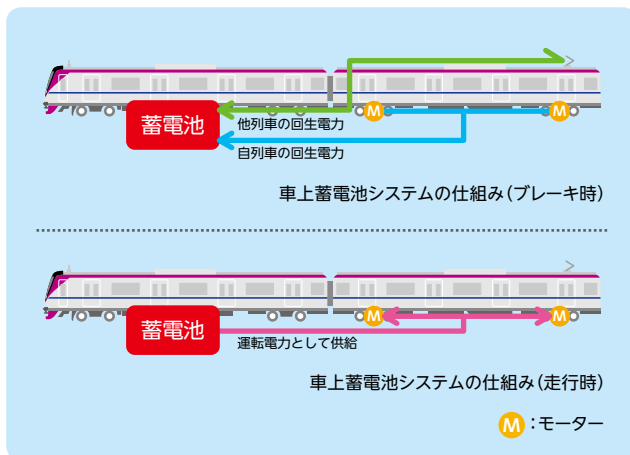
回生電力を蓄電し、電車が走行する際の電力として供給する装置で、京王堀之内変電所に導入しています。

● 車上蓄電池システム導入

新型車両5000系では、「車上蓄電池システム」を導入しています。車上蓄電池システムは、電車がブレーキをかけた際に発生する回生電力を蓄電池に充電し、電車が走行する際の電力として供給する仕組みです。また、停電で駅間に停車した時は、蓄電池に充電した電力を使用して、自力で走行することが可能です。



新型車両「5000系」



▶ LED照明導入

● 駅などのLED化

駅舎・ホームや車両基地に、従来の照明設備に比べて大幅に消費電力を削減できるLED照明の導入を進めています。また、柴崎駅～西調布駅間と調布駅～京王多摩川駅間の地下化にあわせて、トンネル内の照明設備にもLEDを用いています。



駅構内のLED照明



● 車両のLED化

客室内照明を蛍光灯からLEDに置き換えています。これにより、明るさは変わらず消費電力を従来比で約半分に抑えるほか、長寿命であるLED照明は交換サイクルが延びることから、廃棄物の削減にもつながります。

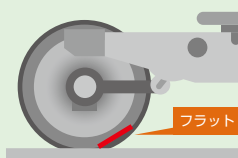


車両のLED照明

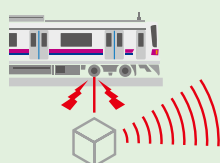
topics

■ 電車の走行音の低減

車輪の振動を自動的に検出するセンサーを京王線・井の頭線に各1カ所設置し、騒音・振動を早期に発見・改善しています。



雨天時などのブレーキ中に車輪がロックしてレール上を滑ると平らな部分(フラット)ができ、騒音・振動のもとになります。



自動検知センサー



車両基地でデータ処理

フラットによって生じる車輪の振動を自動的にセンサーで検知し、すぐに車両基地へデータが転送されます。



車輪の削正

車両基地で車輪の削正や交換を行いフラットをなくし、騒音・振動・乗り心地を改善します。

④ グループによる電力・CO₂排出量削減の取り組み

▶電気バス・ハイブリッドバス

西東京バスでは、羽村市から運行を受託しているコミュニティバス「はむらん」において、定期路線バスでは日本初となる小型電気バスによる運行を行っています。

また、京王電鉄バスグループ・西東京バスではハイブリッドバスを16両導入しています。



小型電気バス(コミュニティバス「はむらん」)



ハイブリッドバス

▶ハイブリッドタクシー・アイドリングストップ車

京王自動車グループでは、タクシーにハイブリッド車やアイドリングストップ車を導入し、エネルギーの効率利用に取り組んでいます。



ハイブリッドタクシー

▶建物の省エネルギー化

キラリナ京王吉祥寺では、壁面・屋上緑化をしており、壁面緑化の灌水には、井戸水かんすいを使用することで、水資源を守っています。また、氷蓄熱システムを導入し、電力需要の下がる夜間電力を利用して氷を作り、日中の冷房に利用することで、夏場のピーク時における省エネルギー化を図っています。

メルクマール京王笹塚では、緑化のほかにも、水平庇と高遮熱断熱ガラスなどを取り入れ、ヒートアイランド現象軽減などを行っています。



建物の省エネルギー化を図るキラリナ京王吉祥寺(左)とメルクマール京王笹塚(右)

topics

■ Ecoパートナーに認定

キラリナ京王吉祥寺は、武蔵野市から、ごみ減量資源化推進事業所(Ecoパートナー)として認定、表彰されています。



▶LED照明導入

当社およびグループ各社では、ショッピングセンター・オフィス・ホテルなどの施設において、LED照明を積極的に導入しています。



京王プラザホテル本館フロントLEDシャンデリア

再生可能エネルギーの活用

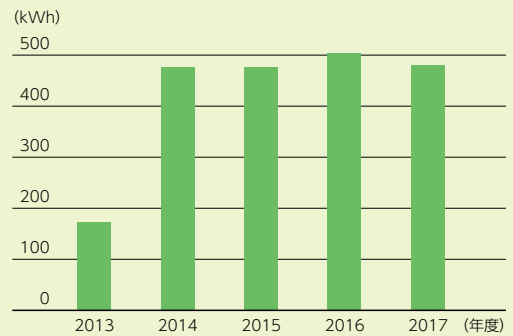
京王グループでは、再生可能エネルギーの活用に積極的に取り組んでいます。



太陽光発電

- 1 メルクマール京王笹塚
- 2 明大前駅
- 3 永福町駅
- 4 桜上水総合事業所
- 5 芦花公園駅
- 6 若葉台駅
- 7 京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター
- 8 京王電鉄バス 桜ヶ丘営業所
- 9 高幡不動産現業事務所 (乗務区・施設管理所)
- 10 京王れーるランド
- 11 高尾の森 わくわくビレッジ
- 12 相模原市 (緑区三井、緑区中野)

■ 太陽光発電の合計発電能力の推移



風力発電

- F1 メルクマール京王笹塚
- F2 高尾の森 わくわくビレッジ



topics

岩手県で「太陽光発電事業」を開始

神奈川県相模原市に続き、岩手県宮古市において、2019年秋に太陽光発電事業を開始します。

■ 太陽光発電事業の取り組み

	開始時期	設置パネル数	発電能力
神奈川県相模原市	2015年2月	1,021枚	302kW
岩手県宮古市	2019年秋	11,488枚	2,872kW



神奈川県相模原市の太陽光発電システム

循環型社会を目指して

資源の有効活用

▶ 車両洗車時の節水

京王線の若葉台工場では、「処理水再利用装置」を導入し、使用済みの水の汚れを取り除くほか、工場内の湧水を活用し、洗浄水などに利用しています。現在、用いる水の半分以上はこの装置により処理されたものです。

また、若葉台と高幡不動の車両基地では、車両洗浄に使用する水を従来に比べ約半分にできる車両洗浄装置を導入しています。



節水型車両洗浄装置

▶ リサイクル

● きっぷ

使用済みきっぷをリサイクルして、駅のトイレトーパーとして使用しています。

● ペットボトル

駅売店などで回収された飲料用ペットボトルをリサイクルし、駅の案内板に使用しています。

▶ 間伐材を使用したベンチ

一部の駅に木の温かみを感じられる木製ベンチを設置しています。素材には、多摩地域で発生した間伐材を使用しています。



▶ 車両のリニューアル・再生

京王重機整備では、現役車両のリニューアル工事や京王電鉄他を引退した車両の再生化工事を実施しています。全国の鉄軌道事業者のニーズに合わせ、新造車同様に再生した改造車両を、2018年までに約200両提供しています。



伊予鉄道3000系(元京王3000系)

VOICE

引退した車両に
新たな命を
吹き込みます



京王重機整備株式会社 車両事業部 営業工事部 主幹

田邊 義雄

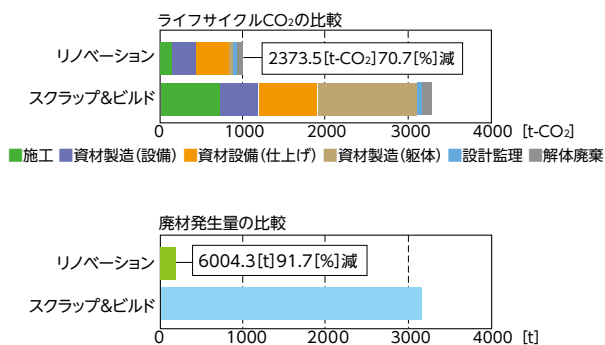
当社では、引退した京王の車両を新造車同様に再生し安価で提供することで、全国各地の鉄道会社様をコスト面で支えるだけでなく、多くのお客様の「地域の足」として貢献しています。今後も、全国各地の鉄道会社様のニーズに迅速かつ的確にお応えし、より多くのお客様にご利用いただけるよう、努めてまいります。

▶ エコバッグ・レジ袋削減

京王百貨店では、エコバッグを販売し、お客様にマイバッグの持参を呼びかけています。販売収益は日本山岳会「高尾の森づくりの会」に寄付しています。また、京王ストアでは、レジ袋を辞退いただくと2円引きとしてマイバッグ持参を促進しています。(一部店舗およびコンビニ・売店は除く)

▶環境負荷を低減した「リノベーション事業」を展開

既存建物を再生し、魅力ある住宅を供給するリノベーション事業は、限られた資源を有効に使い、CO₂排出を抑制する環境にやさしい手法です。例えば、リビタが手がけた「リノア多摩川CORTE」では、省エネ改修によって、ライフサイクルCO₂*¹を70%削減、廃材発生量*²を91%削減することができました。



*¹ ライフサイクルCO₂とは、建物の建設から運用、解体までのライフサイクルを通じて排出される二酸化炭素 (CO₂) の量を指します。

*² 廃材発生量とは、建物を解体した場合に発生する材料を指します。建物が与える地球温暖化への影響を評価する指標です。

▶廃食油のリサイクル(京王グループ6社)

京王グループ6社*は、レストランの調理場などから排出した廃食油を、石けんにリサイクルしています。2017年度は75事業場から約217tの廃食油を回収、有効利用しました。

*京王電鉄、京王百貨店、京王食品、京王プラザホテル、京王レクリエーション、レストラン京王



topics

■リノベーションによるシェア型複合ホテルへの再生

リビタは、老朽化した遊休不動産をシェア型複合ホテルへ再生する事業を展開しています。「HATCHI金沢 —THE SHARE HOTELS—」は、その第1号店として、ひがし茶屋街近くに建つ築50年のオフィスビルを取得し、用途変更を伴うリノベーションを施し再生を行いました。

なお、HATCHI金沢を含むリノベーション4施設が、「2017年度グッドデザイン賞」を受賞し、リビタの受賞は8年連続となりました。



HATCHI金沢のリノベーション前後

▶ECOステイ

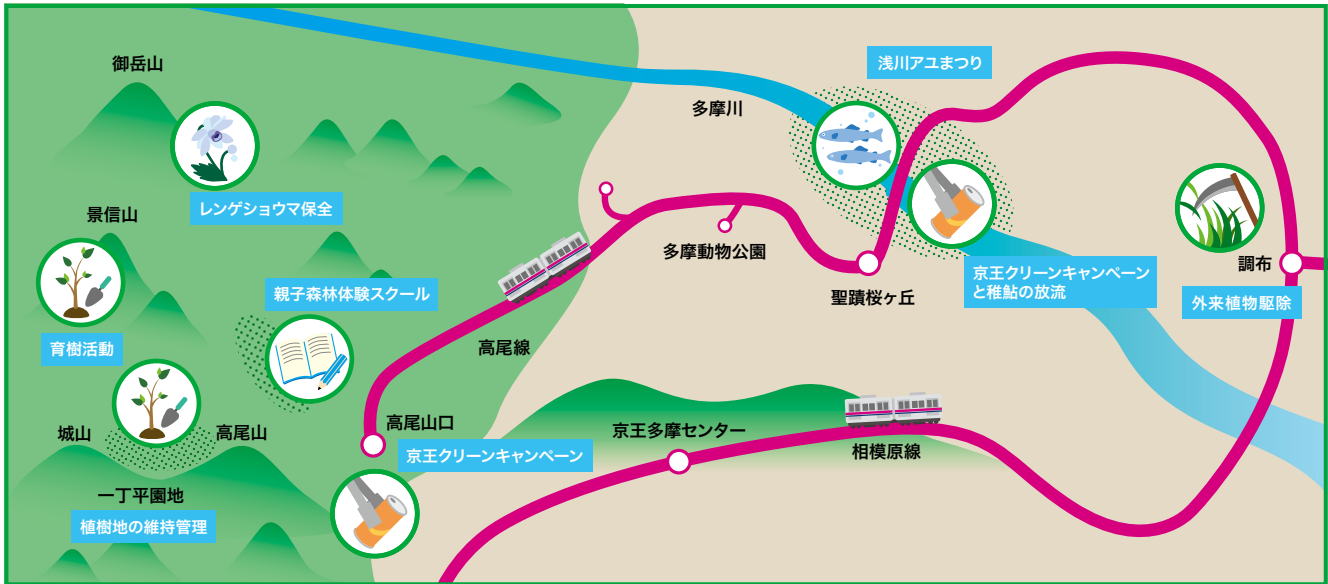
京王プレッソインでは、連泊のお客様を対象に、お申し出いただくとタオルやシーツを交換せずに清掃を行い、クリーニングの回数を減らして水資源保護・CO₂排出削減を図る「ECOステイ」を推奨しています。ご協力いただいたお客様には、ミネラルウォーターなどをプレゼントしています。



京王プレッソイン東京駅八重洲

自然共生社会を目指して

▶ 生物多様性の取り組み



▶ 京王クリーンキャンペーン

1991年から沿線地域の環境保全を目的に、毎年高尾山や多摩川の清掃活動を行っています。2018年5月には、多摩川で清掃活動と稚鮎などの放流を行い、一般のお客様と京王グループ社員合わせて735名が参加しました。



多摩川での清掃活動

▶ 外来植物駆除

多摩川には様々な外来植物が生育しており、在来植物の生育を抑圧するなどの悪影響を及ぼすとされています。そこで、生物多様性保全協会主催・調布市共催の「多摩川の外来植物駆除」に参加し、河川敷で駆除活動を行っています。

▶ 森林再生への取り組み

2002年から日本山岳会「高尾の森づくりの会」が裏高尾(小下沢国有林)で行う森林再生活動を支援しており、累計約17,000本の苗木提供を行ったほか、下草刈りなどの育樹活動を行っています。



下草刈りの様子

▶ 浅川アユまつり

2017年から、日野市が主催する漁場としての川の保全・啓発活動「浅川アユまつり」に参加しています。



浅川アユまつりの様子

▶高尾の森 親子森林体験スクール

裏高尾において、日本山岳会「高尾の森づくりの会」と協力して、お子様と保護者の方に、植樹や下草刈りの体験、水生生物の観察などを通じて、森の大切さを学んでいただいています。



自然観察の様子

参加者の声



保護者様

東京近郊にこれほど豊かな自然があるとは思いませんでした。一言で森といっても植物、動物、鳥、天候など様々な観点で見ることができました。

森の中でたくさんの植物のことを知ることができました。自然の恵みのありがたみが良くわかりました。



小学校4年生

▶屋上庭園「ふくにわ」

「京王リトナード永福町」の屋上庭園「ふくにわ」は、地域の公園機能を代替し、コミュニティー庭園として利用されているほか、井の頭線の線路脇を含む沿線で緑化を展開していることなどが評価され、都市緑化機構主催のSEGES(社会・環境貢献緑地評価システム)認定緑地に選ばれています。



屋上庭園「ふくにわ」

▶線路脇の緑化

1991年から、線路脇の雑草には除草剤を使わず、人の手による草刈りを行っています。また、降雨による法面の崩壊を防ぐとともに、お客様に沿線風景を楽しんでいただくため、線路脇へアジサイ・ツツジ・サザンカなどを植栽し、緑化を行っています。



線路脇の緑化

▶ツバメのフン受け板の設置

2014年から、ツバメが巣作りをする春から初夏にかけて、駅の設置可能な箇所を設置しています。ツバメのフンでお客様にご迷惑をおかけしないこと、またツバメの生息環境にも配慮した生物多様性施策の一環です。



ツバメのフン受け板

▶レンゲショウマ保全

御岳登山鉄道は、御岳山に群生し絶滅危惧種に指定されている山野草「レンゲショウマ」の保全活動として、みたけ山観光協会などと協力し、群生地での下草刈りやハイキングコースの整備を行っています。



下草刈り作業



レンゲショウマ

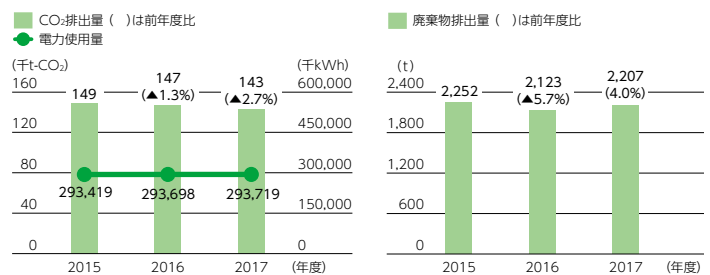
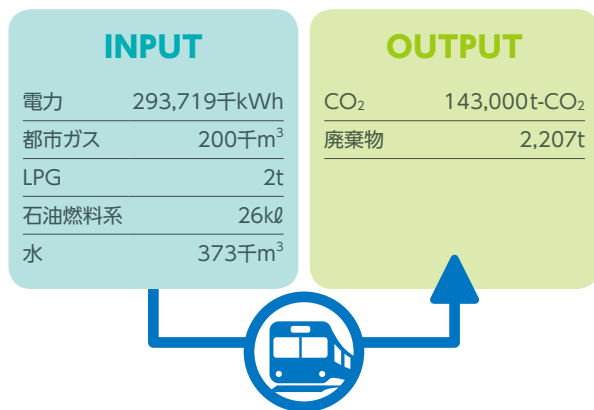
環境関連データ

環境負荷の把握

当社には「鉄道事業部門」、土地・建物の賃貸・販売を行う「開発事業部門」、会社全般の管理業務を行う「一般管理部門」があります。それぞれの事業特性に応じて、資源の使用(インプット)とCO₂・廃棄物の排出(アウトプット)を定量的に把握し、企業活動に役立てています。

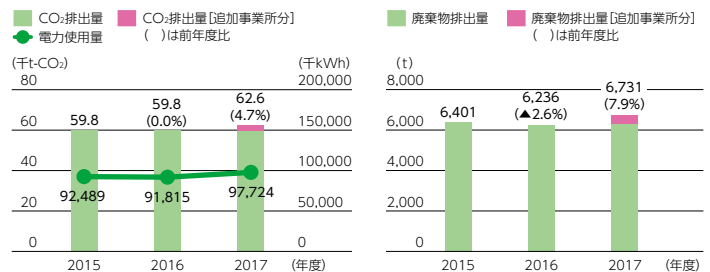
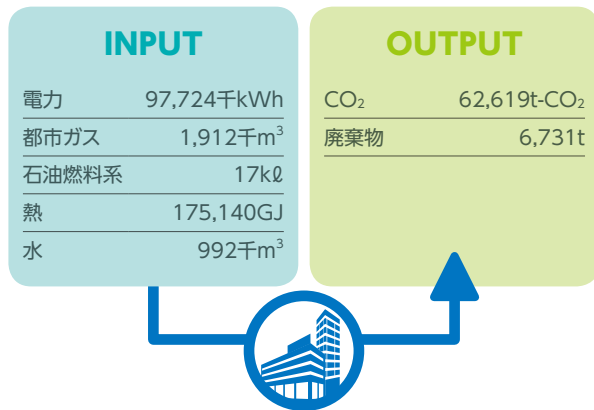
2017年度の環境負荷レビュー

鉄道事業部門



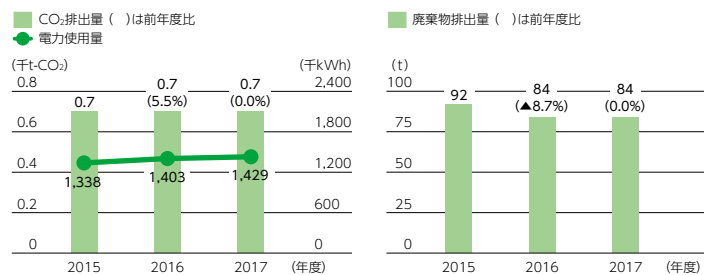
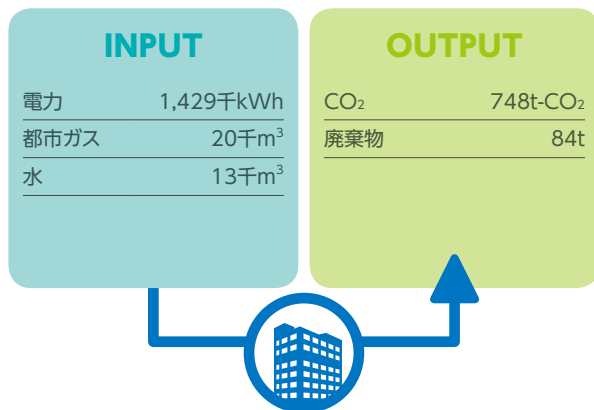
集計対象は、電車の運行、駅および現場事務所です。
前年度に比べ、電力使用量は微増だったものの、電力用係数や他のエネルギー使用量の減少により、CO₂排出量は2.7%減少しました。廃棄物排出量はリサイクルが可能な資源廃棄物の排出が増え、4.0%の増加となりました。

開発事業部門



集計対象は、東京都環境確保条例に基づく大規模9事業所です。
大規模事業所の1件増加に伴い、前年度に比べ電力使用量、CO₂排出量、廃棄物排出量のすべてが増加に転じました。なお、従来の8事業所と比べた場合、電力使用量は1.0%減少、CO₂排出量は0.9%減少しましたが、廃棄物排出量は1.0%の増加でした。

一般管理部門



集計対象は、本社ビルおよび福利厚生施設です。
前年度に比べ、電力使用量は微増だったものの、他のエネルギー使用量が減少したため、CO₂排出量は前年度と同量でした。廃棄物排出量も前年度と同量でした。

環境会計

環境保全に向けて、2017年度は約72億円の環境投資・費用を行使しました。

当社は、環境負荷の低減に向けて、列車の騒音振動防止や、駅施設やオフィスビル・店舗などへの高効率照明をはじめとした環境配慮設備の導入による省エネルギー化、廃棄物の分別・リサイクルなどのレベルアップに向けて、環境投資を継続しています。

2017年度は、さらなる省エネルギー化を図った新型車両5000系の新造により投資額が増加したほか、オフィスビルなどで空調の高効率化やLED照明導入などの省エネルギー施策が進捗したことにより、全体で前年度比17.0%の増加となりました。

▶2017年度の環境保全コスト(投資・費用額)

(単位:百万円)

内容	主な取り組み	具体的な内容	投資	費用
(1)事業エリア内コスト			4,538	2,618
①公害防止コスト	●騒音振動防止 ●大気汚染防止 ●水質汚濁防止	○連続立体交差化 ○道床更換 ○草刈り ○低VOC塗料 ○分岐器床板更換	2,180	1,060
②地球環境保全コスト	●省エネルギー化 ●モーダルシフト ●オゾン層破壊防止	○新型VVVFインバータ制御装置導入 ○ノンフロン車内空調機導入 ○ステンレス車体による車両新造 ○車内案内表示器新設 ○可動式ホーム柵設置 ○オフィスビル等の空調機更新・照明LED化	2,081	188
③資源循環コスト	●廃棄物減量 ●廃棄物処理・処分 ●廃棄物リサイクル	○PASMO*関連費用 ○駅清掃費 ○車両清掃費 ○車両座席シート交換 ○駅旅客用トイレ改修	277	1,370
(2)管理活動コスト	●景観保持 ●自然保護・緑化 ●教育・啓発	○植栽管理 ○環境報告書制作	0	111
(3)社会活動コスト	●自然保護・緑化 ●環境保全の寄付 ●社会的取り組み	○京王クリーンキャンペーン ○植樹地保全 ○親子森林体験スクール ○環境を学ぶ親子向けプログラム	0	3
合計			4,538	2,732
コスト総計				7,270

[対象期間]

2017年4月1日～2018年3月31日

[対象範囲]

当社の鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門で発生した環境保全コストを対象としています。

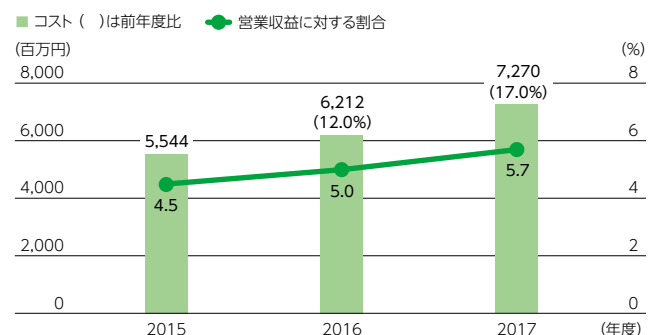
(京王グループ各社で発生したコストは含んでいません)

[算定基準]

- 「環境省環境会計ガイドライン(2005年版)」および「民鉄事業環境会計ガイドライン(2008年版)」を参考に集計しています。
- 環境保全コストとして確実に把握したもののみ計上しています。
- 減価償却費は計上していません。

※PASMOは、株式会社パスモの登録商標です。

■環境保全コストの推移



京王グループでは、CSR活動をより深化させていくために、「企業統治」「安全」「社会」「環境」における重要テーマに取り組んでいます。それぞれ中期目標とアクションプランを立てて推進しています。

CSR項目	重要テーマ	中期目標	2017年度実績
企業統治	コーポレート・ガバナンス	●コーポレート・ガバナンスの強化の推進	●取締役会の実効性を向上させるため「審議充実に資する議案の付議方の見直し」を実施
	コンプライアンス	●コンプライアンス意識浸透策の実施、法改正等への対応	●階層別研修やeラーニング等による従業員教育、コンプライアンス・トピックス等による各種啓発活動を実施 ●法令改正情報の周知・適切な対応策を実施
	リスクマネジメント	●グループ共通リスク対策重点項目等への対策・啓発活動の推進 ●事業継続計画(BCP)の展開	●グループ共通リスク対策重点項目の策定および対応策の検討、実施 ●不正行為防止に向けた情報共有を実施 ●反社会的勢力の排除に関する周知や講習会を実施 ●新規取引先に対する反社チェックを継続実施 ●グループ防災情報連絡会を開催(2016年度に改定した当社BCPや「Jアラート」発令時における対応方について情報を共有)
	情報セキュリティ	●セキュリティリスク対策等のIT統制の推進	●情報管理基本方針に基づく管理体制の整備強化、下位規程の改定、ガイドライン整備 ●グループ内インシデント対応体制の整備、恒久対策の検討実施 ●リスクアセスメント、サイバーテロ対応演習の実施
安全	事故等の未然防止	●事故や輸送障害の未然防止に向けた施策の実行 ●テロ対策を含めた災害・危機管理 ●ホームドアの設置等によるホーム安全対策の実施	●有責事故0件、鉄道運転事故・輸送障害発生件数33件(対前年度7件減) ●[安全啓発室]に事故・トラブル事例の教育プログラムを追加し、さらなる安全意識を向上 ●[安全ポスター]の展開、「安全講演会」「京王失敗学会」「小集団活動発表会」などの開催 ●同業他社で発生した事故・トラブル事例について、類似検証と必要に応じた対策の実施 ●新線新宿駅、渋谷駅へのホームドア整備に向けたホーム補強工事を実施 ●飛田給駅へのホームドア整備に向けた設計業務を実施 ●千歳烏山駅など3駅にホーム固定柵を設置拡大したほか、転落防止ゴムと注意喚起ラインを一部駅に新設
	減災対策	●耐震補強や自然災害対策等の減災対策の実施	●新宿トンネル耐震補強工事および高架橋、盛土区間耐震補強工事を実施 ●コンクリート製の電力柱をより耐震性の高い鋼管柱に更新する工事を実施 ●大雨による土砂災害の防止対策として、高尾線の線路脇斜面を防護する工事を実施 ●雷害対策として、防雷設備の増強や電気機器の耐雷性向上工事を実施 ●火山の噴火による降灰対策として除灰カートを導入
	安全対策・老朽化対策	●京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進 ●下北沢駅改良工事の推進 ●老朽設備の着実な更新による保安度の向上	●京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進(用地取得や設計業務実施) ●下北沢駅改良工事の推進 ●踏切障害物検知装置の高精度化の実施 ●視認性の高い踏切警報灯への更新を実施
社会	お客様の利便性・快適性の向上	●駅施設・車両設備の整備 ●改良によるお客様サービスの向上 ●沿線活性化への取り組みの推進	●有料座席指定列車「京王ライナー」運行開始 ●府中駅や京王よみうりランド駅のリニューアル工事を実施 ●初台駅東口や渋谷駅西口のトイレリニューアル工事を実施 ●京王線8000系3編成、井の頭線1000系3編成のリニューアル工事実施 ●新線新宿駅など計3駅の行先案内板マルチカラー化を実施 ●車内案内表示器の2画面化を京王線9000系8編成、7000系5編成、井の頭線1000系3編成で実施 ●商業施設「トリエ京王調布」開業 ●京王あそびの森 HUGHUG(ハグハグ)開業
	お客様との対話	●様々なお客様にとってわかりやすい情報の発信	●京王ホームページ(タイ語)公開開始、中国語(繁体字)Facebook開始
	多世代が生活しやすい沿線づくり	●高齢者事業・生活支援事業・子育て支援事業の推進	●移動販売用自動車を2台導入し、販売場所を9カ所追加(計3台、全26カ所)
	地域社会への貢献	●文化・教育・子育て支援イベント・スポーツ振興支援の実施	●京王アカデミープログラム、チャリティイベント(京王駅伝フェスティバル・京王音楽祭)等を開催 ●スポーツイベントへの協賛
	地域社会・行政との連携	●京王沿線および中央道高速バスエリアの関係自治体や事業者と連携した地域活性化への貢献	●コミュニティバスの運行受託・PFI事業の受託の継続実施 ●高速バスのフリーきっぷ販売、高速バスによる貨客混載事業の開始、新宿の観光案内所を活用した観光情報の提供を実施
	人材の活用と働きやすい職場づくり	●女性活躍推進(管理職における女性比率を2021年度末までに2016年4月比で5割増) ●障がい者雇用の推進・職場環境の整備推進 ●ワーク・ライフ・バランスの推進	●公正な管理職登用の実施 ●2018年度総合職新卒採用人数のうち女性の占める割合51.7% ●障がい者雇用率2.6% ●非正規社員から正社員への登用制度実施 ●有期雇用の非正規社員の無期雇用への転換制度実施 ●ダイバーシティ推進担当新設 ●育休取得者数40人 ●介護との両立に関するセミナー実施 ●[健康経営優良法人ホワイト500]認定 ●フレキシブルタイムの拡充
	株主・投資家・取引先等への取り組み	●株主・投資家・取引先等に分かりやすい情報開示の推進	●適時適切な情報開示、株主・投資家との対話を継続実施 ●個人投資家向け会社説明会の拡大(土曜・平日夜を含む複数回開催等) ●取引先との懇親会の開催
環境	低炭素社会を目指して	●車両の省エネルギー化 ●駅やビルなどの省エネルギー化	●新造した京王線5000系5編成に車上蓄電池システムを導入 ●新型VVVFインバータ制御装置を導入(京王線5000系5編成、8000系3編成、井の頭線1000系3編成) ●車両や駅構内・ホテル・ショッピングセンター等の照明LED化推進
	自然共生社会を目指して	●環境保全活動・環境教育の実施	●高尾山エリアでの育樹活動および多摩川河川敷での外来植物駆除活動の実施 ●京王グリーンキャンペーン、高尾の森 親子森林体験スクール等環境教育プログラムを実施

SDGsへの取り組み

SDGs(Sustainable Development Goals)は、持続可能な世界を実現するために、2015年に国連で採択された2030年に向けた開発目標です。

京王グループは、この持続可能な開発目標の考え方を取り入れ、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを目指します。

2018年度のアクションプラン	関連するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> ● 社外役員への情報提供の充実等 ● ESG、SDGsへの対応 	
<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス意識浸透策、法令改正への対応等の継続実施 ● コンプライアンス・アンケートの実施 	  
<ul style="list-style-type: none"> ● グループ共通リスク対策重点項目等への対応の継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ● マニュアル、ガイドライン等の整備継続、PDCAサイクルの確立 ● セキュリティ対応のグループ内標準対応推進 ● リスクアセスメント実施に基づく、課題点の解消 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 安全目標「有責事故ゼロと鉄道運転事故・輸送障害発生件数の前年度比削減」の達成 ● 事故などの事象に対する原因分析と再発防止に向けた安全対策の実施 ● テロ対応訓練の実施およびサイバーセキュリティ対策の推進 ● 「安全講演会」「京王失敗学会」などの実施による安全意識のさらなる向上 ● 新線新宿駅、渋谷駅、飛田給駅へのホームドア設置 ● 東府中駅へのホーム固定柵設置 ● 聖蹟桜ヶ丘駅への転落防止ゴム設置および計15駅への注意喚起ライン設置 	 
<ul style="list-style-type: none"> ● 新宿トンネル耐震補強工事および高架橋、盛土区間耐震補強工事の継続実施 ● コンクリート製の電力柱をより耐震性の高い鋼管柱に更新する工事の継続実施 ● 大雨による土砂災害の防止対策として高尾線の線路脇斜面を防護する工事を継続実施 ● 雷害対策として、防雷設備の増強や電気機器の耐雷性向上工事を継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進(用地取得や工事ヤード整備等を実施) ● 下北沢駅小田急線交差点における本設橋梁の架設工事を実施 ● 経年劣化した電気設備・車両設備の定期的な老朽更新を実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 府中駅や京王よみうりランド駅のリニューアル工事を継続実施 ● 京王線8000系2編成、井の頭線1000系3編成のリニューアル工事を実施 ● 永福町駅で先行案内板を従来の4色表示からマルチカラー化 ● 車内案内表示器の2画面化を井の頭線1000系3編成で実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 京王ホームページリニューアルの推進 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 認証保育所から認可保育所への移行推進 ● 家事代行・移動販売等の拡大 ● 多摩センターにサテライトオフィス開業 ● 京王多摩センター駅付近の高架下に企業主導型保育所着工予定 	     
<ul style="list-style-type: none"> ● 京王アカデミープログラムや各種イベントの継続実施 ● 各種スポーツイベントへの協賛を継続実施 	 
<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティバスの運行受託、PFI事業の受託の継続実施 ● 高速バスのフリーきっぷのインターネット販売開始による販路拡大、高速バスによる貨客混載事業の拡大、新宿の観光案内所を活用した観光情報の提供を継続実施 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 公正な管理職登用の継続実施 ● 女性総合職新卒採用人数を総合職新卒採用人数全体の30%以上にする ● 障がい者雇用の継続推進 ● 働きやすい職場環境・制度の検討を継続実施 	     

ISO26000対照表

中核主題	課題	CSRレポート2018掲載ページ
組織統治	組織統治	P.2-P.4 トップメッセージ P.5-P.7 経営計画 P.12-P.15 コーポレート・ガバナンス
	デューディリジェンス 人権に関する危機的状況 加担の回避	
人権	苦情解決 差別及び社会的弱者 市民的及び政治的権利 経済的、社会的及び文化的権利 労働における基本的原則及び権利	P.64-P.68 人材の活用と働きやすい職場づくり
	雇用及び雇用関係 労働条件及び社会的保護	
	社会対話 労働における安全衛生 職場における人材育成及び訓練	P.24-P.25 人材の育成 P.64-P.68 人材の活用と働きやすい職場づくり
	汚染の予防 持続可能な資源の利用 気候変動緩和及び適応 環境保護、生物多様性及び自然生息地の回復	P.74-P.75 環境マネジメント P.76-P.79 低炭素社会を目指して P.80-P.81 循環型社会を目指して P.82-P.83 自然共生社会を目指して P.84-P.85 環境関連データ
公正な事業慣行	汚職防止 責任ある政治的関与 公正な競争 バリューチェーンにおける社会的責任の推進 財産権の尊重	P.12-P.15 コーポレート・ガバナンス P.69 株主・投資家・取引先等への取り組み
	公正なマーケティング、情報及び契約慣行	P.10-P.11 特集 多摩動物公園エリア・調布エリアの地域活性化 P.12-P.15 コーポレート・ガバナンス
	消費者の安全衛生の保護	P.19 安全方針・安全管理体制 P.20 安全管理方法 P.21 2017年度 安全目標・安全重点施策 P.22 2017年度 輸送安全実績 P.23 輸送障害等の事例
消費者課題	持続可能な消費	P.26-P.27 安全文化の構築 P.28-P.29 危機に備えた訓練
	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決	P.30-P.37 施設・設備の取り組み P.38-P.39 日々の保守管理 P.40-P.41 災害などへの備え P.42 その他の取り組み
	消費者データ保護及びプライバシー	P.43 2018年度 安全目標・安全重点施策 P.44 お客様への情報提供 P.45 お客様とともに
	必要不可欠なサービスへのアクセス	P.46-P.47 グループ会社の安全対策 P.52-P.55 お客様の利便性・快適性の向上 P.56-P.57 お客様との対話
	教育及び意識向上	P.58-P.59 多世代が生活しやすい沿線づくり P.69 株主・投資家・取引先等への取り組み
コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	コミュニティへの参画 教育及び文化 雇用創出及び技能開発 技術の開発及び技術へのアクセス 富及び所得の創出 健康 社会的投資	P.60-P.61 地域社会への貢献 P.63 地域社会・行政との連携 P.52-P.55 お客様の利便性・快適性の向上 P.58-P.59 多世代が生活しやすい沿線づくり

※GRI対照表については京王HPで公開します。

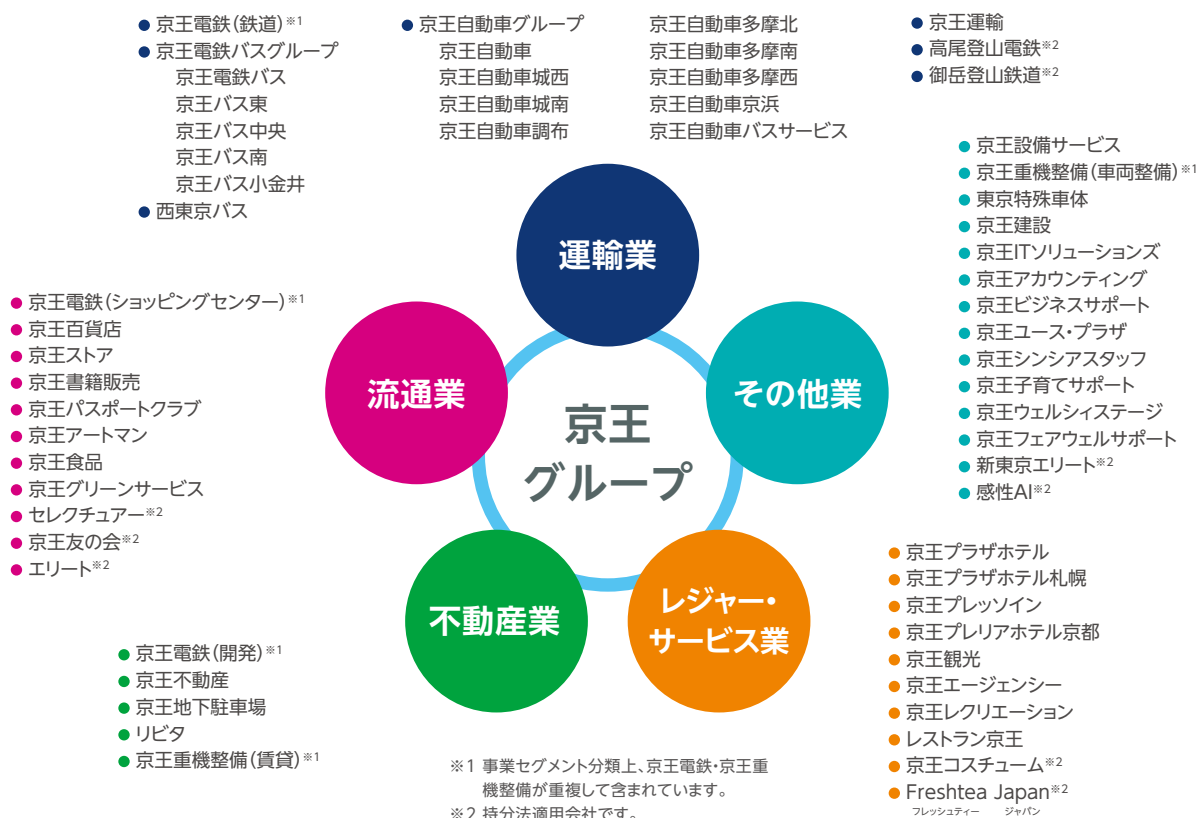
会社概要 (2018年3月31日時点)

社名	京王電鉄株式会社
会社設立	1948年6月1日
本社所在地	〒206-8502 東京都多摩市関戸一丁目9番地1 (登記上の本店所在地 〒160-0022 東京都新宿区新宿三丁目1番24号)
資本金	590億23百万円
従業員数	2,518名
【鉄道事業】	
路線	京王線、高尾線、相模原線、 競馬場線、動物園線、井の頭線
駅数	69駅
営業キロ	84.7km
輸送人員	年間6億7,024万人(2017年度実績)
営業内容	車両数 885両
【開発事業(土地、建物の賃貸業・販売業など)】	
	新規賃貸資産の開発 賃貸資産の管理・営業 ショッピングセンターの管理・運営 住宅地などの販売
グループ会社数	全56社

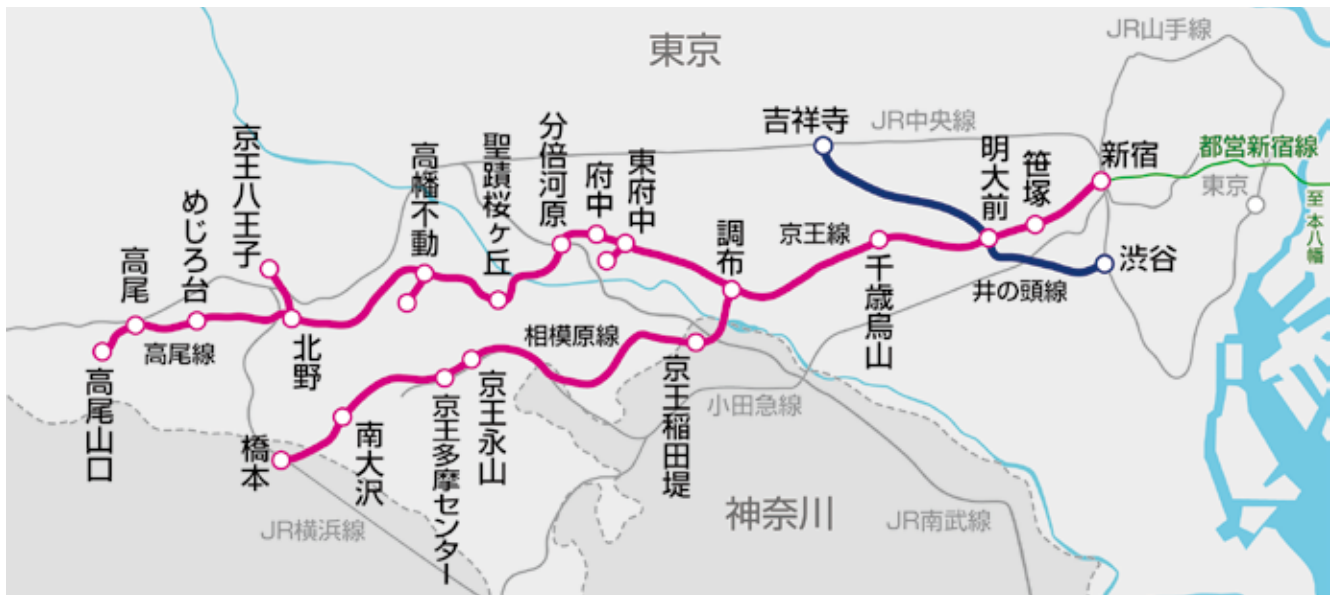
役員一覧 (2018年6月28日時点)

	代表取締役会長 永田 正		代表取締役社長 紅村 康
常務取締役(鉄道事業本部長、新宿再開発特命担当)		仲岡 一紀	
常務取締役(経営統括本部長、財務・情報開示担当)		伊藤 俊司	
常務取締役(総務法務部・広報部・人事部分担、コンプライアンス担当)		保木久仁彦	
常務取締役(開発事業本部長)		南 佳孝	
取締役(開発事業本部 ホテル戦略部長)	中島 一成	取締役	駒田 一郎
取締役(戦略推進本部長)	櫻井 俊樹	取締役	丸山 荘
取締役(鉄道事業本部副本部長)	寺田雄一郎	取締役	川瀬 明伸
取締役(人事部長)	山岸 真也	取締役	越水陽太郎
取締役(経営統括本部 グループ事業部長)	都村 智史	常勤監査役	水野 諭
取締役	高橋 温	常勤監査役	竹川 浩史
取締役	古市 健	監査役	北村 敬子
取締役	山本 護	監査役	金子 正志

京王グループ会社一覧 (2018年7月31日時点)



京王電鉄路線図



株主の状況

当社の2018年3月31日現在の株主数は33,956名です。全体の約7割が、当社沿線に在住されている個人株主です。

● 株式の状況

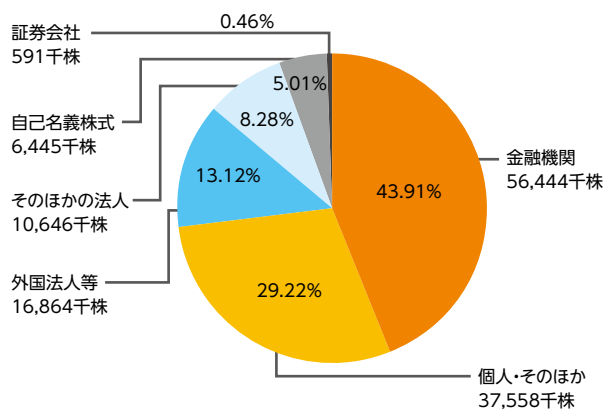
発行可能株式総数	316,046,000株
発行済株式総数	128,550,830株
株主数	33,956名

● 株主総会

2018年6月28日に京王プラザホテル八王子にて第97期定時株主総会を開催し、772人の株主様に出席いただきました。

当日は、2017年度の事業の経過や業績および2018年度からスタートした「京王グループ中期3カ年経営計画」について分かりやすくお伝えするよう努めました。

● 株式分布状況 (2018年3月31日現在)



当社は、以下のサステナビリティ/ESG指数の構成銘柄に選定されています。



SNAMサステナビリティ・インデックス



MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

第三者意見

全体を通して、「つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、『信頼のトップブランド』になることを目指します」という京王グループの理念が反映された良いレポートだと思います。お客様、社員、地域活性化の協働パートナーなど各ステークホルダーの生の声が数多く掲載されており、CSRコミュニケーションの点からも優れた報告書です。

2018年度は、京王グループにとって、中期経営計画後半（2018年度～2020年度）のスタートの年に当たります。前半（2015年度～2017年度）では「成長分野への積極投資」と「既存事業の選択と集中」を進めて今後の成長に向けた土台作りを行ってきましたが、後半では「戦略投資案件の収益化」を中心に据えて、2020年度に営業収益4,700億円・営業利益率10.0%を達成するという意欲的な目標を掲げています。2018年度の経営計画では、「コーポレート・ガバナンスコードへの対応」「ESGやSDGs（持続可能な開発目標）への対応」が新たに組み込まれました。京王グループでは、昨年より、経営計画の柱の一つとして「企業の社会的責任に対する取り組み」を位置づけ、経営計画にCSRの観点を組み込んだ「CSR経営」へと舵を切っていますが、今回の対応によって、グローバルスタンダードを意識したCSR経営への第一歩を踏み出したと言えるでしょう。まずは、この点を高く評価したいと思います。

安全報告のパートでは、「『安全』は最大の使命であり、最高のサービスである」という方針のもと、お客様に「安全」・「安心」を提供するための様々な取り組みが報告されています。今年度も笹塚駅～仙川駅間の連続立体交差事業が推進され、また、ホームドアや転落防止柵などのホームの安全対策も着実に進みました。踏切や車両の安全対策、駅の安全対策、自然災害などへの備えに加えて、日々の保守管理をしっかりと行い、「設備の故障に起因する運転見合わせ時間」が大幅に減少したことは、京王グループの安全意識の高さの表れだと言えるでしょう。また、今回のレポートより、「輸送障害等の事例」が新たに掲載され、より一層情報公開が進んだ点も評価に値します。運輸事業者が果たすべき最も大切な社会的責任は「輸送の安全性」です。この点に関して、すでに高いレベルに達している京王グループではありますが、今後も全社員一丸となって、安全最優先の鉄道づくりに取り組んでいただきたいと思います。

社会性報告のパートでは、人々の暮らしに寄り添うことで、沿線地域の持続的な発展を目指す京王グループの取り組みが描かれています。2017年9月、岐阜県高山市との新たな経済交流として高速バスのトランクを活用した「貨客混載」がスタートし、東京の沿線住民が飛騨高山の新鮮な野菜を購入しやすくなりました。また、2018年2月には、お客様の着席ニーズに応えることを



立教大学経営学部
教授／経済学博士

高岡 美佳

目的として、有料の座席指定列車「京王ライナー」の運行を開始しています。いずれも、お客様や沿線住民、そして、地域社会を重要なステークホルダーであるとする京王グループらしい取り組みです。

グループ内の人材活用と働きやすい職場づくりについても、昨年度に引き続き、着実な進展が見られました。2017年度は2年連続で「健康経営優良法人（ホワイト500）」に認定されるとともに、男性の育児休業取得者数増や、女性正社員数・管理職数増を達成しました。ワークライフバランスや人材の多様性（ダイバーシティ）が、職場の魅力を高めるのは言うまでもありませんが、企業にとっても継続的にイノベーションを生起させるために不可欠な要素です。今後も積極的に推し進めていただきたいと考えます。

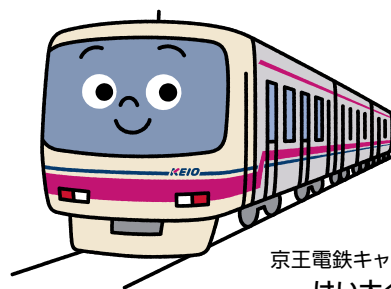
環境報告のパートでは、地球環境保全では定評のある京王グループの電力・CO₂削減や資源の有効活用施策、生物多様性への取り組みなどが紹介されています。今年度は、開発事業部門において、東京都のCO₂排出量削減義務を超える18%の削減を達成しました。また、鉄道事業部門においても、2015年度より本格導入を開始した新型VVVFインバータ制御装置を2017年度も5000系5編成、8000系3編成、1000系3編成に導入するなど、低炭素社会の実現に向けた取り組みが進んでいます。

最後になりますが、巻末に掲載されたアクションプランにおいて、今年度は新たに各CSR項目とSDGsとの関連性が示されました。SDGsはすべての企業や社会が取り組むべき持続的な開発目標です。次年度はぜひ、現在グローバルレベルで関心の高い「CSR調達」を重要テーマに加えるか否かについてご検討ください。企業の社会的責任は自社だけでなくサプライチェーン全体に及びます。大手優良企業である京王グループが調達先の選定や調達条件を設定する際に、社会的責任の観点から基準を設定することで、サプライチェーン全体のCSRが進むことを期待します。



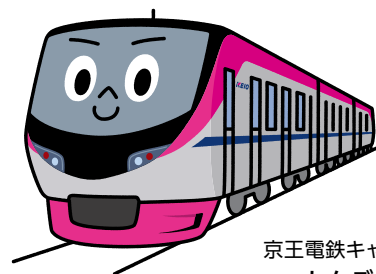
この安全・社会・環境報告書の用紙は、環境や地域社会に配慮して管理された森林から生産されたFSC®認証紙を使用しています。

また、日本印刷産業連合会が認定する工場のもと、有害な溶剤を含まないNon-VOCインキを使用しているほか、揮発性有機溶剤を含む湿し水を使用しない、地球環境に配慮した水なし印刷方式で作成されています。



京王電鉄キャラクター
けい太くん

なお、本レポートの原材料調達からリサイクルされるまでのライフサイクル全体で発生する温室効果ガスをCO₂の量に換算した数値は、1冊あたり1,500gになります。



京王電鉄キャラクター
しんごくん

京王電鉄株式会社

〒206-8502

東京都多摩市関戸一丁目9番地1

安全・社会・環境報告書に関するお問い合わせ

広報部 企画・環境担当

Tel. 042-337-3106

Fax. 042-337-5536

www.keio.co.jp

2018年9月発行